R-Class

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（▷250ページ）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

マーク	内容
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
🌳	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。

⚠ 事故のおそれがあります

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

さくいん……………………………… 4
はじめに……………………………… 13
各部の名称…………………………… 19
安全装備……………………………… 29
車両の操作…………………………… 59
日常の取扱い………………………… 233
万一のとき…………………………… 269
サービスデータ……………………… 341

ア

アシストグリップ 231
アダプティブブレーキランプ 50
雨降りや濃霧時の運転 261
安全のために 13
オートマチック車の取り扱い 16
オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意 13
子供を乗せるとき 15
こんなことにも注意 17
走行する前に 14
イージーエントリー 89
イグニッション位置 75
キーレスゴー装備車 76
インジケーター付きバッテリー 330
インストルメントパネル 21
左ハンドル車 21
右ハンドル車 22
ウィンタータイヤ 255、350
ウォッシャー液 246、347
ウォッシャー液を補給する 247
運転のヒント 125
エアコンディショナー 191
AC モード 196
運転席モード 200
エアコンディショナーの取り扱い 191
コントロールパネル 192
送風口の開閉 195
送風口の風向き調整 196
送風口の選択 194
送風量の調整 194
送風温度の調整 193
通常の使いかた（AUTO モード） 193
デフロスターモード 198
内気循環モード 197
フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作する 201
余熱ヒーター・ベンチレーション 200
リアエアコンディショナー 202
リアデフォッガー 199
エアバッグ 34
エアバッグの効果について 30
エマージェンシーキー 302
エンジン 257
エンジンオイル 241、345
エンジンオイル交換の時期 242
エンジンオイルの量を点検する 241
エンジンオイル容量 346
エンジンオイルを補給する 241
使用するエンジンオイル 346
エンジンの始動 118
キーによるエンジンの始動 119
キーレスゴーによるエンジンの始動 119
シフトポジション 118
エンジンの停止 122
エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき 122
エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき 122
エンジン番号 344
エンジンルーム 237、239
ウォッシャー液 246
エンジンオイル 241
エンジンルーム 239
ブレーキ液 245
ボンネット 237
冷却水 243
エンジンルーム内のヒューズボックス 337
オイル・液類 / バッテリー 344
ウォッシャー液 347
エンジンオイル 345
オイル・液類に関する注意 344
オートマチックトランスミッションオイル 346
燃料 345
バッテリー 347
ブレーキ液 347
冷却水 346
オイル・液類に関する注意 344
応急用スペアタイヤ 350
応急用スペアタイヤへの交換 313
応急用スペアタイヤを取り出す 274
オートマチックトランスミッション 123

運転のヒント …… 125
シフトポジション表示 …… 125
セレクターレバー …… 123
走行モード …… 126
ティップシフト …… 127
オートマチックトランスミッションオイル …… 346
オープン / クローズ …… 60
キー …… 60
ドアの開閉 …… 67
ロケイターライティング …… 67
オプションコードプレート …… 344

カ

外観 …… 20
外気温度表示 ……
外装 …… 265
カップホルダー …… 212
サードシートのカップホルダー …… 214
センターコンソール後方のカップホルダー …… 213
センターコンソールのカップホルダー …… 212
可変スピードリミッター …… 163
可変スピードリミッターの使いかた …… 164
環境保護について …… 13
寒冷時の取り扱い …… 254
ウィンタータイヤ …… 255
スノーチェーン …… 256
雪道を走行するとき …… 257
キー …… 60
キーレスゴー …… 63
リモコン機能 …… 61
キーの電池交換 …… 305
キーの電池を点検する …… 305
電池の交換手順 …… 306
キーの電池を点検する …… 305
キーレスゴー装備車 …… 76
キーによるイグニッション位置の選択 …… 76
キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択 …… 76
記憶させたシート位置の呼び出し …… 94
救急セット …… 272
クルーズコントロール …… 159
クルーズコントロールの使いかた …… 160
けん引 …… 333
車を運搬する …… 335
けん引する …… 335
けん引するときの注意 …… 335
けん引フックの取り付け …… 334
けん引するときの注意 …… 335
けん引フックの取り付け …… 334
けん引防止警報機能 …… 56
警報が作動したときの停止方法 …… 56
けん引防止警報機能の解除 …… 56
けん引防止警報機能を待機状態にする …… 56
コーナリングランプ …… 104
故障 / 警告メッセージ …… 276
イラストメッセージ …… 281
文字メッセージ …… 277
子供を乗せるとき …… 41
ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置 …… 44
純正チャイルドセーフティシート …… 42
助手席エアバッグオフ表示灯 …… 43
チャイルドセーフティシート …… 41
チャイルドセーフティシート固定機構 …… 43
チャイルドプルーフロック …… 46
テザーアンカー …… 45
小物入れ …… 210
グローブボックス …… 210
グローブボックスの施錠 …… 211
センターコンソールの小物入れ …… 211
フロントアームレストの小物入れ …… 211
こんなことにも注意 …… 17
コンビニエンスオープニング機能 …… 115
コンビニエンスクロージング機能 …… 116
キーレスゴー操作で閉じる …… 117
リモコン操作で閉じる …… 116

サ

サードシートへの乗車 …… 83

サードシートから車を降りる……… 84
サードシートに乗車する…………… 84
左右セカンドシートを元の位置に戻す… 85
サイドビューカメラ……………… 176
ガイドライン……………………… 179
サイドビューカメラの位置………… 178
サイドビューカメラの映像………… 179
サイドビューカメラの作動と停止…… 178
サイドビューカメラの表示範囲…… 178
障害物のあるカーブを曲がるとき…… 181
洗車するときの注意……………… 177
路肩などに車を寄せるとき………… 180
サンバイザー……………………… 227
バニティミラー…………………… 227
シート……………………………… 77
サードシートへの乗車…………… 83
シートヒーター…………………… 86
シートベンチレーター…………… 86
セカンドシートとサードシート…… 80
電動ランバーサポート…………… 79
フロントシート…………………… 77
ヘッドレストの脱着……………… 82
ヘッドレストの調整……………… 82
シート位置の記憶………………… 93
シート位置の呼び出し…………… 94
シートヒーター…………………… 86
シートベルト…………………… 31、95
シートベルトの着用……………… 95
正しい運転姿勢…………………… 98
フロントシートベルトの高さ調整…… 98
シートベルトの着用……………… 95
フロントシートベルトのテンション
自動調整機能…………………… 98
シートベンチレーター…………… 86
事故・故障のとき……………… 270
室内装備………………………… 227
12V 電源ソケット ……………… 230
アシストグリップ………………… 231
サンバイザー……………………… 227
灰皿……………………………… 228
フロアマット……………………… 232
ライター…………………………… 229
自動防眩機能……………………… 92
シフトポジション表示…………… 125
車外ランプ消灯遅延機能………… 102
車載工具………………………… 272
輪止め…………………………… 275
車載品の収納場所……………… 270
救急セット………………………… 272
事故・故障のとき………………… 270
車載工具…………………………… 272
停止表示板………………………… 271
非常信号用具……………………… 270
ラゲッジフロアボード…………… 271
輪止め…………………………… 275
車台番号………………………… 343
車両に保存されるデータ………… 18
故障データ………………………… 18
データが保存されるその他の装備…… 18
収納ネット……………………… 214
純正部品 / 純正アクセサリー ……… 342
乗員安全装備……………………… 30
NECK PRO アクティブヘッドレスト… 40
PRE-SAFE ……………………… 40
SRS（乗員保護補助装置）………… 32
エアバッグの効果について………… 30
子供を乗せるとき………………… 41
シートベルト……………………… 31
乗員保護装置……………………… 30
チャイルドセーフティシート……… 41
乗員保護装置……………………… 30
ステアリング……………………… 88
イージーエントリー……………… 89
ステアリングの調整（手動式）…… 88
ステアリングの調整（電動式）…… 89
ステアリングの調整（手動式）…… 88
ステアリングの調整（電動式）…… 89
スノーチェーン………………… 256
スピードメーター……………… 129
スライディングルーフのリセット…… 208
スライディングルーフを開閉する…… 207
**スライディングルーフをチルトアップ /
チルトダウンする……………… 207**

セカンドシート / サードシートの折りたたみ ・・・ **215**
サードシートのみを折りたたむ ・・・ 219
サードシートを元の位置に戻す ・・・ 220
セカンドシートとサードシートを折りたたむ ・・・ 219
中央セカンドシートを折りたたむ ・・・ 218
セカンドシートとサードシート ・・・ **80**
左右セカンドシートの前後位置の調整 ・・・ 80
中央セカンドシートの調整 ・・・ 81
バックレストの角度の調整 ・・・ 80
積載荷物の制限重量 ・・・ **348**
セレクターレバー ・・・ **123**
前席上方の操作部 ・・・ **26**
センターコンソール ・・・ **25**
走行安全装備 ・・・ **48**
ABS ・・・ 48
BAS ・・・ 50
EBV ・・・ 54
ESP ・・・ 51
アダプティブブレーキランプ ・・・ 50
走行時の注意 ・・・ **257**
雨降りや濃霧時の運転 ・・・ 261
エンジン ・・・ 257
走行するとき ・・・ 258
走行中に異常を感じたら ・・・ 260
駐停車するとき ・・・ 260
ブレーキ ・・・ 257
走行するとき ・・・ **258**
走行装備 ・・・ **159**
4MATIC ・・・ 171
AIR マティックサスペンション ・・・ 167
可変スピードリミッター ・・・ 163
クルーズコントロール ・・・ 159
サイドビューカメラ ・・・ 176
パーキングアシストリアビューカメラ 182
パークトロニック ・・・ 172
走行中に異常を感じたら ・・・ **260**
走行と停車 ・・・ **118**
エンジンの始動 ・・・ 118
エンジンの停止 ・・・ 122
駐車 ・・・ 120
発進 ・・・ 119
走行モード ・・・ **126**

タ

タイヤ空気圧警告システム ・・・ **251**
タイヤ空気圧警告システムを再起動する ・・・ 251
タイヤ空気圧ラベル ・・・ **249**
タイヤとホイール ・・・ **247、349**
ウィンタータイヤ ・・・ 350
応急用スペアタイヤ ・・・ 350
走行時の注意 ・・・ 249
タイヤ空気圧警告システム ・・・ 251
タイヤ空気圧ラベル ・・・ 249
タイヤの回転方向について ・・・ 249
タイヤの点検 ・・・ 248
タイヤローテーション ・・・ 253
タイヤを清掃するとき ・・・ 249
標準タイヤ ・・・ 349
タイヤの回転方向について ・・・ **249**
タイヤの交換または修理の準備 ・・・ **313**
タイヤフィットが車載されている車種 ・・・ **320**
タイヤローテーション ・・・ **253**
タコメーター ・・・ **129**
正しい運転姿勢 ・・・ **98**
ダッシュボード右側のヒューズボックス ・・・ **336**
チャイルドセーフティシート ・・・ **41**
駐車 ・・・ **120**
パーキングブレーキ ・・・ 121
駐停車するとき ・・・ **260**
ティップシフト ・・・ **127**
テールゲート ・・・ **70**
EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車 ・・・ 71
EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車 ・・・ 70
テールゲート内側のレバーでの解錠 ・・・ 74
テールゲート内側のレバーでの解錠 ・・・ **74**
テールゲートを開いたときの高さ ・・・ **348**
電球の交換 ・・・ **308**

テールランプ……309
フォグランプ……309
ヘッドランプ……309
ライセンスランプ……310

電動ブラインドを開閉する……207

電動ランバーサポート……79

ドアウインドウが自動で開閉しないとき 113

ドアウインドウの開閉……111

挟み込み防止機能……112

ドアの開閉……67

車速感応ドアロック……69
ドアごとに解錠 / 施錠する……68
ドアロックスイッチ……69

ドアの操作部……27

ドアミラー……91

施錠時のドアミラーの格納……92
ドアミラーの角度調整……91
ドアミラーの格納 / 展開……91
ドアミラーのリセット……92

盗難防止警報システム……54

警報が作動したときの停止方法……55
システムの待機状態を解除する……55
システムを待機状態にする……55

盗難防止システム……54

けん引防止警報機能……56
盗難防止警報システム……54

時計……130

トラブルの原因と対応……288

ウインドウ……299
エンジン……295
オートマチックトランスミッション……297
キー……300
車を使用しないとき……301
警告音……293
事故のとき……294
スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯……288
燃料と燃料タンク……294
パークトロニック……298
ヘッドランプ……298
ミラー……300
メーターパネルの表示灯 / 警告灯……289
ワイパー……299

ナ

慣らし運転……234

日常の手入れ……264

外装……265
高圧式スプレーガンの使用……266
自動洗車機の使用……266
パーキングアシストリアビューカメラの清掃……267
パークトロニックセンサーの手入れ……267
マフラーの手入れ……268
ランプ類の手入れ……267
車内……268

荷物の固定……220

荷物固定用フック……221
荷物固定用リング……220

荷物の積み方 / 小物入れ……209

EASY-PACK ラゲッジルームカバー……222
カップホルダー……212
小物入れ……210
収納ネット……214
セカンドシート / サードシートの折りたたみ……215
荷物の固定……220
ラゲッジルームに荷物を積むとき……209
ルーフラック……226

ニューカープレート……343

燃料……345

燃料消費について……345
燃料タンク容量……345

燃料給油フラップが開かないとき……304

燃料計……130

燃料残量警告灯……130

燃料の給油……235

燃料を給油する……235

ハ

パーキングアシストリアビューカメラ……182

COMAND ディスプレイの映像……184
音声案内の設定……190
カメラの位置……183
縦列駐車モード……186

洗車するときの注意 183
パーキングヘルプ機能 94
パークトロニック 172
インジケーター 173
作動表示灯 173
センサーの感知範囲 174
パークトロニックオフスイッチ 175
パークトロニックセンサー 172
パークトロニックの作動 174
パークトロニックの作動条件 173
灰皿 228
フロントの灰皿 228
リアの灰皿 228
発進 119
ヒルスタートアシスト 120
バッテリー 328、347
VRLA バッテリー 330
インジケーター付きバッテリー 330
車載バッテリーの電圧 / 容量 347
バッテリー取り扱いの一般的な注意 328
バッテリーの位置 330
バッテリーがあがったとき 331
始動の方法 332
バッテリー取り扱いの一般的な注意 328
バッテリーの位置 330
パノラミックスライディングルーフ 206
スライディングルーフのリセット 208
スライディングルーフを開閉する 207
スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする 207
電動ブラインドを開閉する 207
パワーウインドウ 111
コンビニエンスオープニング機能 115
コンビニエンスクロージング機能 116
ドアウインドウが自動で開閉しないとき 113
ドアウインドウの開閉 111
ベンチレーションウインドウの開閉 114
パンクしたとき 313
応急用スペアタイヤへの交換 313
応急用スペアタイヤに空気を入れる 317
応急用スペアタイヤの取り付け 317
ジャッキアップ 314
ジャッキダウン 319
タイヤ交換の準備 314
タイヤの取り外し 316
ホイールボルト 316
ホイールボルトの締め付け 319
タイヤの交換または修理の準備 313
タイヤフィットが車載されている車種 320
タイヤフィットの準備 321
タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型） 325
タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型） 322
ビークルプレート 343
エンジン番号 344
オプションコードプレート 344
車台番号 343
ニューカープレート 343
非常時の解錠 / 施錠 302
運転席ドアの解錠 303
エマージェンシーキー 302
車両の施錠 303
燃料給油フラップの解錠 304
非常信号用具 270
非常点滅灯 103
ヒューズ一覧 338
ヒューズの交換 336
ダッシュボード右側のヒューズボックス 336
ヒューズ一覧 338
ヒューズを交換する 337
ラゲッジルームのヒューズボックス 337
ヒューズを交換する 337
標準タイヤ 349
オプション装着用タイヤ / ホイール 349
ブレーキ 257
ブレーキ警告灯 258
ブレーキ液 245、347
ブレーキ液の交換 246
ブレーキ液の量を点検する 246
フロアマット 232
フロントシート 77

4 ウェイパワーシートの調整 ········· 77
メモリー付パワーシートの調整······· 78
フロントシートベルトの高さ調整······· 98
フロントワイパー·············· 108、310
レインセンサー···················· 109
ワイパーブレードを取り付ける······ 311
ワイパーブレードを取り外す········ 311
ヘッドランプウォッシャー············104
ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え ··································101
ヘッドレストの脱着····················82
サードシートのヘッドレスト········· 83
左右セカンドシートのヘッドレスト··· 82
中央セカンドシートのヘッドレスト··· 83
ヘッドレストの調整····················82
ヘッドレストの角度の調整··········· 82
ヘッドレストの高さの調整··········· 82
ベンチレーションウインドウの開閉···· 114
方向指示······························102
ボンネット··························237
ボンネットを垂直位置まで開く······ 239
ボンネットを閉じる················ 238
ボンネットを開く·················· 237

マ

マルチファンクションステアリング ····························· 24、131
マルチファンクションディスプレイ···· 131
オーディオ························ 136
各種設定·························· 139
インストルメントクラスタ········ 142
各種設定項目の初期化············ 141
各種設定メイン画面·············· 140
コンフォート···················· 151
シャリョウ······················ 148
設定グループ選択画面············ 140
ライト·························· 145
故障表示·························· 138
故障表示のリセット·············· 138
車高レベル表示···················· 137
車両情報·························· 133
サブスピードメーター / 外気温度表示画面·············· 136
車両情報サブ画面················ 134
車両情報メイン画面·············· 134
タイヤ空気圧警告システム画面···· 135
メンテナンスインジケーター画面·· 136
冷却水温度画面·················· 135
車両設定·························· 154
けん引防止警報機能設定画面······ 154
電話······························ 158
トリップコンピューター············ 155
瞬間燃費画面···················· 157
ショートトリップメーター画面···· 155
走行可能距離画面················ 157
ロングトリップメーター画面······ 156
ナビゲーション・進行方向方位表示·· 137
マルチファンクションステアリング·· 131
メイン画面一覧···················· 132
ミラー································90
自動防眩機能······················ 92
ドアミラー························ 91
ルームミラー······················ 90
メーターパネル················ 23、129
スピードメーター·················· 129
タコメーター······················ 129
時計······························ 130
燃料計···························· 130
燃料残量警告灯···················· 130
メーターパネル照度調整ボタン······ 130
メーターパネルの点灯·············· 129
リセットボタン···················· 130
メーターパネルの点灯················129
メモリー機能··························93
シート位置の記憶·················· 93
シート位置の呼び出し·············· 94
パーキングヘルプ機能·············· 94
メンテナンス························262
整備手帳·························· 262
日常点検·························· 262
メンテナンスインジケーター画面···· 262
メンテナンスインジケーター画面······262
自動表示機能······················ 262
手動で表示させる·················· 263

表示メッセージ・・・263
メンテナンスインジケーターのリセット・・・264
文字メッセージ・・・277

ヤ

雪道を走行するとき・・・257

ラ

ライター・・・229
ラゲッジフロアボード・・・271
ラゲッジルームに荷物を積むとき・・・209
ラゲッジルームのヒューズボックス・・・337
ランプ・・・99
コーナリングランプ・・・104
車外ランプ消灯遅延機能・・・102
非常点滅灯・・・103
ヘッドランプウォッシャー・・・104
ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え・・・101
方向指示・・・102
ランプスイッチ・・・99
ルームランプ・・・105
ランプスイッチ・・・99
パーキングランプ・・・101
フォグランプ・・・101
ヘッドランプ・・・100
ヘッドランプの自動点灯機能・・・100
リアエアコンディショナー・・・202
サードシート送風口・・・203
リアエアコンディショナーの作動 / 停止・・・203
リアエアコンディショナーの送風口選択・・・204
リアエアコンディショナーの送風量調整・・・204
リアサイド送風口・・・203
リア送風口の開閉・・・205
リア送風口の風向き調整・・・205
リア中央送風口 / コントロールパネル・・・202
リアワイパー・・・109、312
ワイパーブレードを取り付ける・・・312
ワイパーブレードを取り外す・・・312
ルーフラック・・・226
ルームミラー・・・90
ルームミラーの角度調整・・・90
ルームランプ・・・105
サードシートルームランプおよびサードシート読書灯の点灯 / 消灯・107
セカンドシートルームランプの点灯 / 消灯・・・106
センターコンソールランプ・・・108
ドア下部のランプ・・・108
ドアミラー下部のランプ・・・108
非常時の自動点灯・・・106
フットウェルランプ・・・107
フロント読書灯の点灯 / 消灯・・・106
フロントルームランプの点灯 / 消灯・106
ルームランプの点灯モードの選択・・・105
冷却水・・・243、346
オーバーヒートしたとき・・・244
不凍液の濃度・・・346
冷却水の量を点検する・・・243
冷却水を補給する・・・243
ロケイターライティング・・・67

ワ

ワイパー・・・108
フロントワイパー・・・108
リアワイパー・・・109
ワイパーブレードの交換・・・310
フロントワイパー・・・310
リアワイパー・・・312

A

ABS・・・48
ABS が作動したとき・・・49
ABS 警告灯・・・49
AC モード・・・196
AIR マティックサスペンション・・・167
ADS・・・167
レベルコントロール・・・168

B

BAS ·········· 50

E

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車 ·········· 71
- 車外からの開閉 ·········· 71
- 車内からの開閉 ·········· 73
- テールゲートの開口角度の設定 ·········· 73
- テールゲートを閉じて車を施錠する（キーレスゴー装備車） ·········· 72

EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車 ·········· 70

EASY-PACK ラゲッジルームカバー ·········· 222
- エクステンションの脱着 ·········· 225
- ラゲッジルームカバー収納リール ·········· 223

EBV ·········· 54

ESP ·········· 51
- ESP / ETS 表示灯 ·········· 51
- ESP の機能の解除 ·········· 53
- ETS ·········· 52

N

NECK PRO アクティブヘッドレスト ·········· 40

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット ·········· 305

P

PRE-SAFE ·········· 40

S

SRS（乗員保護補助装置） ·········· 32
- SRS 警告灯 ·········· 32
- エアバッグ ·········· 34
- シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター ·········· 33
- シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動 ·········· 32

V

VRLA バッテリー ·········· 330

数字

12V 電源ソケット ·········· 230

4MATIC ·········· 171

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動後は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意

右ハンドル

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷118､123 ページ）をご覧ください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込むおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物は左右のウインドウより下の位置に積んでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷41 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアのチャイルドプルーフロック（▷47 ページ）やドアウインドウのセーフティスイッチ（▷47 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * から身体を出さない

子供がドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください (▷118 ページ)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが **P**、**N** 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが **P** になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを **D**、**R** にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- シフトポジションを **N** にしたままで走行し続けないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。

- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

外観…………………………………… 20
インストルメントパネル………… 21
メーターパネル…………………… 23
マルチファンクションステアリング
…………………………………… 24
センターコンソール……………… 25
前席上方の操作部………………… 26
ドアの操作部……………………… 27

外観

	名称	ページ
①	テールゲート	70
	応急用スペアタイヤ	274
	車載工具	272
②	リアデフォッガー	199
③	ヘッドランプ	100
	テールランプ	309
④	燃料給油口	235
⑤	ドアミラー	91
⑥	デフロスター	198
	ウインドウウオッシャー	109
⑦	ワイパー	108

	名称	ページ
⑧	ボンネット	237
	エンジンオイル	241
		345
	ブレーキ液	245
		347
	ウォッシャー液	246
		347
	冷却水	243
		346
⑨	けん引フック	334
⑩	タイヤとホイール	247
		349

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	160 164
②	メーターパネル	129
③	パドル	127
④	セレクターレバー	118 123
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	173
⑥	前席上方の操作部	26
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	192
⑧	エンジンスイッチ	75

	名称	ページ
⑨	ステアリング調整レバー	89
⑩	ボンネットロック解除レバー	237
⑪	パーキングブレーキ解除ハンドル	121
⑫	パーキングブレーキペダル	121
⑬	ランプスイッチ	99
⑭	コンビネーションスイッチ (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー)	100 102 108 109

右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	26
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	173
③	パドル	127
④	メーターパネル	129
⑤	セレクターレバー	118 123
⑥	ランプスイッチ	99
⑦	パーキングブレーキ解除ハンドル	121
⑧	ボンネットロック解除レバー	237
⑨	エンジンスイッチ	75
⑩	ステアリングロック解除ハンドル *	88

	名称	ページ
⑪	パーキングブレーキペダル	121
⑫	ステアリング調整レバー *	89
⑬	コンビネーションスイッチ (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー)	 100 102 108 109
⑭	エアコンディショナーコントロールパネル	192
⑮	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	160 164

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

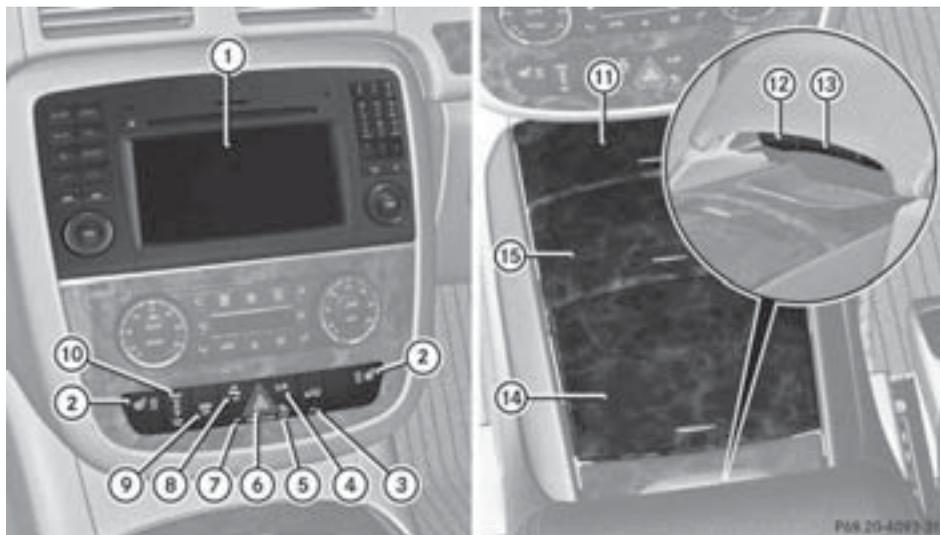
	名称	ページ
①	ABS 警告灯	49
②	可変スピードリミッター表示灯	165
③	ESP / ETS 表示灯	51
④	車間距離警告灯 1)	
⑤	ブレーキ警告灯	258
⑥	方向指示表示灯	102 103
⑦	照度調整ボタン	130
⑧	リセットボタン	130
⑨	照度調整ボタン	130
⑩	方向指示表示灯	102 103
⑪	シートベルト警告灯	31

	名称	ページ
⑫	SRS 警告灯	32
⑬	ヘッドランプ表示灯	100
⑭	エンジン警告灯	291
⑮	タコメーター	129
⑯	ハイビーム表示灯	102
⑰	燃料計	130
⑱	燃料残量警告灯	130
⑲	マルチファンクションディスプレイ	131
⑳	スピードメーター	129
㉑	時計	130

1）日本仕様車では、警告灯としては機能しません。

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	131
②	COMAND システム	別冊
③	設定スイッチ / 音量スイッチ + −	131
	通話開始 / 終了スイッチ（電話）	131
	音声認識スイッチ	131

	名称	ページ
④	スクロールスイッチ ↑ ↓	131
	表示切り替えスイッチ	131
	音声認識解除スイッチ OFF	131

センターコンソール

	名称	ページ
①	COMAND システム	別冊
②	シートヒータースイッチ	86
③	車高調整スイッチ *	169
④	走行モード選択スイッチ	126
⑤	助手席エアバッグオフ表示灯	43
⑥	非常点滅灯スイッチ	103
⑦	盗難防止警報システム表示灯 *	54
⑧	パークトロニックオフスイッチ	175
⑨	ESP オフスイッチ	53
⑩	サスペンションモード選択スイッチ *	167

	名称	ページ
⑪	センターコンソールの小物入れ	211
⑫	フロントアームレストの小物入れ（上段）	211
⑬	フロントアームレストの小物入れ（下段）	211
⑭	センターコンソールのカップホルダー	212
⑮	灰皿 ライター	228 229

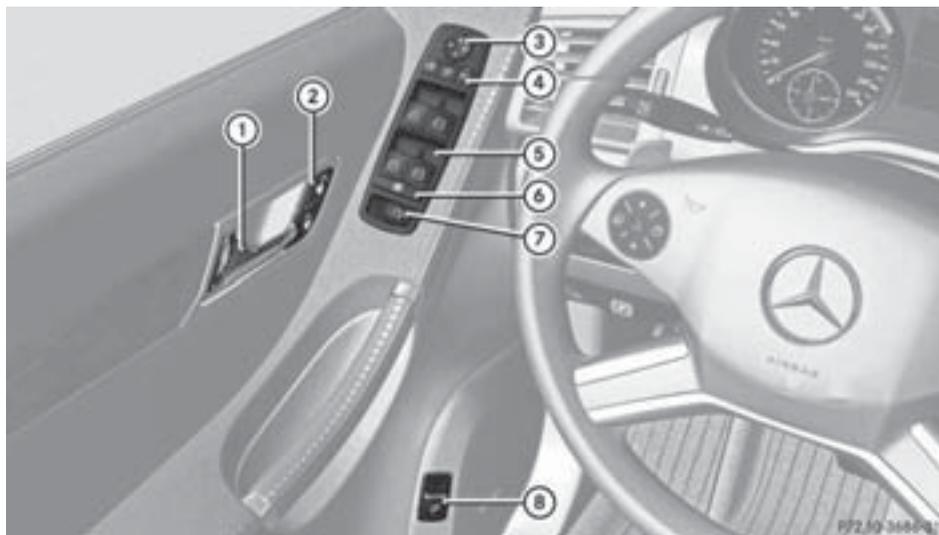
* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	フロント読書灯スイッチ（左側）	105
②	サードシートルームランプスイッチ	105
③	点灯モード選択スイッチ	105
④	フロントルームランプスイッチ	105
⑤	フロント読書灯スイッチ（右側）	105
⑥	パノラミックスライディングルーフスイッチ *	207
⑦	ルームミラー	90
⑧	フロント読書灯	105

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアレバー	68
②	ドアロックスイッチ	69
③	ドアミラー調整スイッチ	91
④	ドアミラー選択スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ	91 91

	名称	ページ
⑤	ドアウインドウスイッチ	112
⑥	リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	47
⑦	ベンチレーションウインドウスイッチ *	114
⑧	テールゲートスイッチ *	73

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備………………………… 30

走行安全装備………………………… 48

盗難防止システム…………………… 54

乗員安全装備

乗員保護装置

事故が発生したときの衝撃により、車は急激に加速または減速するおそれがあります。

そのとき、乗員は車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出されて、けがをするおそれがあります。

ただし、シートベルトを中心に、シートベルトテンショナーやベルトフォースリミッター、エアバッグなどで構成される乗員保護装置によって、負傷する可能性を最小限にでき、また、万一負傷したときにも、けがの程度を最小限にとどめることができます。

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ **けがのおそれがあります**

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

エアバッグの効果について

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

ℹ シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグはシートベルトの効果を補助する装置であり、シートベルトの代わりになるものではありません。必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用し、シートのバックレストをできるだけ垂直の位置にして乗車してください。

ℹ エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。また、乗員が正しくシートベルトを着用している場合、状況によってはエアバッグによる補助的な保護を必要としないことがあります。

シートベルト

シートベルトとチャイルドセーフティシート（▷41 ページ）は、車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出される危険から乗員を守ります。

シートベルトとチャイルドセーフティシートは、衝突時における最も重要で効果的な乗員保護装置です。

! 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 乗車するときは、すべての乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- シートベルトを着用していなかったり、シートベルトのプレートが確実にバックルに差し込まれていないと、事故などのとき致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルが汚れていたり損傷していると、シートベルトの保護機能が正しく発揮されません。

  シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。

  ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない

  ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない

  ◇ バックル部分に異物を入れない

  ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないか、シートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ⓘ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター
- エアバッグ

SRS SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ⓘ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

ⓘ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

中央セカンドシートを除くシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーはイグニッション位置が **2** で、以下のときに作動します。

- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の前後方向に急激に強い衝撃が加わったとき
- 車両の横方向に強い衝撃が加わったとき
- 車両の横転などにより、一定以上の衝撃を検知したとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

中央セカンドシートを除くリアシートベルトに装備されています。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ けがのおそれがあります

フロントシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトのバックルが下方に引き込まれたときにのみ、正しく機能します。シートベルトのバックルの動きを妨げるようなものがないことを確認してください。また、バックルをつかまないでください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが､火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。

! シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

i シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

i ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

i フロントのシートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトのバックルがシートクッションと同じ位の高さまで引き込まれます。

エアバッグ

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロント / 左右セカンドシートのバックレスト側面

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

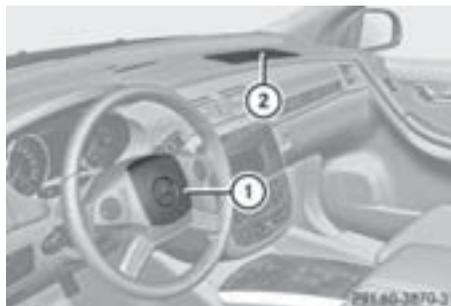
! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

ℹ エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
セカンドシートサイドバッグ	左右セカンドシートのバックレスト側面
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車
① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、前方から一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

ℹ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

フロント / セカンドシートサイドバッグ

③ フロントサイドバッグ
運転席 / 助手席シートのバックレスト側面
④ セカンドシートサイドバッグ
左右セカンドシートのバックレスト側面

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、胸部などへの衝撃を軽減します。

サイドバッグは、運転席 / 助手席エアバッグやシートベルトテンショナーの作動、シートベルトの着用に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両の横転時に左右方向から強い衝撃を受けて、サイドバッグがシートベルトの効果の向上になると判断されたとき

⚠ けがのおそれがあります

シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ウインドウバッグ

⑤ ウインドウバッグ

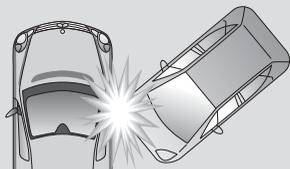
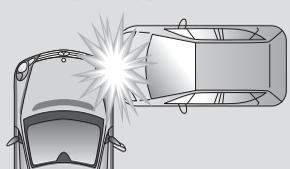
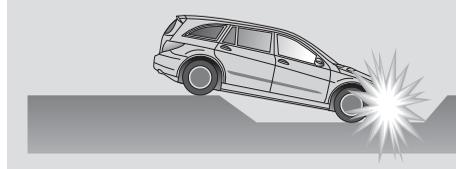
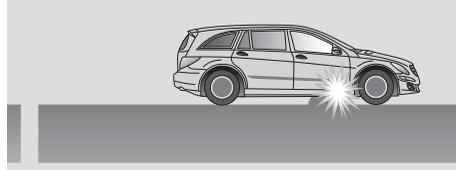
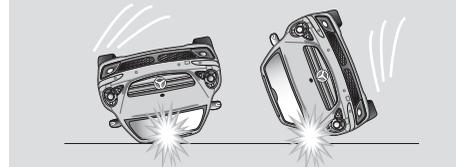
横方向からの強い衝撃を受けると、乗員の有無に関わらず衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE

PRE-SAFE（プレセーフ）は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- オーバーステア状態やアンダーステア状態など、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 衝突に備え、PRE-SAFE 用の電動式シートベルトテンショナーが前席シートベルトを引き込み、シートベルトテンショナーの効果を高めます。
- メモリー付パワーシート装備車は、助手席シートが、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に自動的に調整します。
- 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放出されることを防ぐため、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が危険な状態から脱すると、電動式シートベルトテンショナーの張力が緩みます。また、助手席シートの位置 *、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部や頚部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前方に動いたままの状態になります。このときは、NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なってください（▷305 ページ）。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
- 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
- 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
- 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故
- 急ブレーキ
- 急な進路変更

荷物を積むとき / 固定するときについて、詳しくは（▷209、220 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故などのときに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供が乗車するときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故などのときに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートは、左右セカンドシートまたはサードシートに装着してください。

  左右セカンドシートまたはサードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席をもっとも後ろの位置にしてください。

- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。またタイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

純正チャイルドセーフティシート

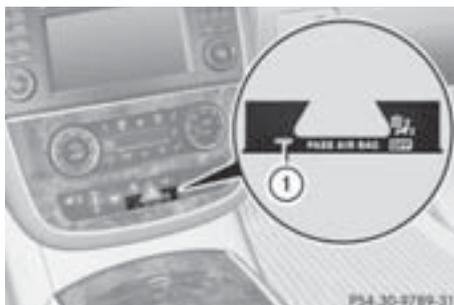
Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下 または 約 13kg 以下	新生児～ 9 カ月位 または 18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯で、日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。

イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートをシートベルトで固定するとき、シートベルトが引き出されないようにロックしてチャイルドセーフティシートを確実に固定するシステムです。

セカンドシートとサードシートのシートベルトに装備されています。

※ 車種や仕様により、中央セカンドシートのシートベルトにはチャイルドセーフティシート固定機構は装備されません。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

固定機構を使用する

▶ チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込みます。

▶ シートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

! チャイルドセーフティシートを固定後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

! シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右セカンドシートとサードシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ けがのおそれがあります

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗せるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを左右セカンドシートまたはサードシートのシートベルトで固定してください。

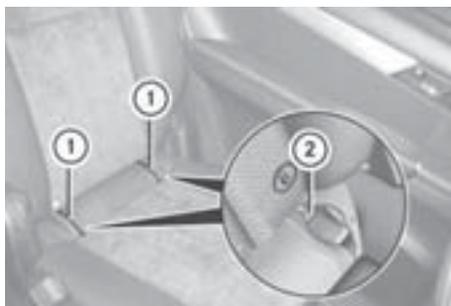
⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着方法を誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、新品に交換してください。

セカンドシートにチャイルドセーフティシートを装着する

左右セカンドシート
① シートクッションのカバーの切れ目
② 固定装置

- ▶ シートクッションのカバーの切れ目①を開きます。
- ▶ 内部の固定装置②にチャイルドセーフティシートを装着します。

サードシートにチャイルドセーフティシートを装着する

サードシート
③ カバー
④ 固定装置

- ▶ バックレスト下部のカバー③を取り外します。
- ▶ 内部の固定装置④にチャイルドセーフティシートを装着します。

テザーアンカー

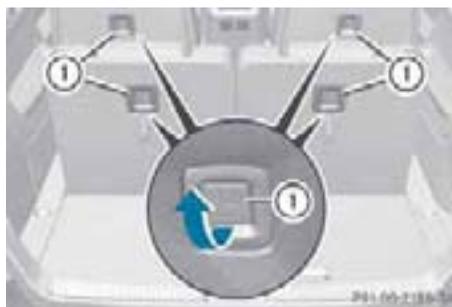
左右セカンドシートとサードシートの背面にテザーアンカーを装備しています。

それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトおよびテザーフックを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを固定できます。

チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故などのとき、チャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- テザーフックは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。
- テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。
- テザーアンカーに、テザーフックが確実に固定されていることを確認してください。

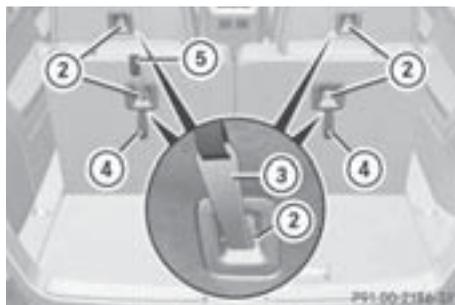
ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、テザーアンカーに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

① カバー

テザーフックを取り付ける

▶ カバー①を取り外します。

▶ ヘッドレストをいっぱいまで上げます。

▶ バックレストのロックを解除して、前方に少し傾けます。

❗ ロックを解除すると、セカンドシートの場合はシートが前方に動きながら下がり、サードシートの場合はシートクッションが前方に起き上がります。シートに身体を挟まれたり、ぶつけないように注意してください。

② テザーアンカー
③ テザーフック
④ ストラップ
⑤ テザーベルト

▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルト⑤を通します。

シート背後にラゲッジルームカバー収納リール（▷223 ページ）を取り付けてあるときは、テザーベルト⑤がバックレストとラゲッジルームカバー収納リールの間を通るようにします。

▶ テザーフック③をテザーアンカー②にかけます。

▶ バックレストを最も起こした角度に戻して確実にロックします。

シートが確実にロックされていることを確認してください（▷80 ページ）。

 けがのおそれがあります

テザーフック③をテザーアンカー②に固定したときは、シートが確実にロックされ、バックレストが最も起きた角度でロックされていることを確認してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

サードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、テザーフック③をストラップ④にかけないでください。チャイルドセーフティシートが正しく固定できないため、事故のとき、けがをするおそれがあります。

▶ テザーベルトを締めます。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

テザーベルトの動きが妨げられていないことを確認してください。

チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

 事故やけがのおそれがあります

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

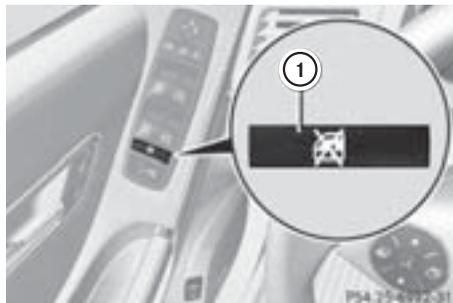
① チャイルドプルーフロックレバー
② 解除側
③ 設定側

リアドアの車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバー①を設定側③または解除側②に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、設定 / 解除を確認します。

ℹ リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

① チャイルドプルーフロックスイッチ

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの開閉ができなくなります。

▶ スイッチ①を押して、押された状態にします。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

▶ 解除するときは、スイッチ①を押して、押されていない状態にします。

ℹ チャイルドプルーフロックの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

ℹ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

 事故のおそれがあります

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

 事故のおそれがあります

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意して運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷277 ページ）をご覧ください。

! ABS に異常があると、急ブレーキ時にタイヤがロックしてステアリング操作が効かなくなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

i ABS に異常があると、ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

(ABS) ABS 警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

ブレーキは通常通り作動しますが、ABS、ESP、BAS、ETS、PRE-SAFE などは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

BAS

BAS(ブレーキアシスト)は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 事故のおそれがあります

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BASに異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障/警告メッセージが表示されたときはBASは作動しません。詳しくは(▷277ページ)をご覧ください。

ℹ BASに異常があると、ABSも正しく作動しなくなることがあります。

ℹ BASに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障/警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ℹ バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約25km/h以上からの急ブレーキ時にBASが作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約70km/h以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約10km/h以上になると、自動的に消灯します。

ESP

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個別のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジンの出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

ESP / ETS 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESP または ETS が作動しています。

ESP オフスイッチで ESP の機能を解除（▷53 ページ）しているときは、点灯したままになります。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP / ETS 表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP の機能の解除

⚠ 事故のおそれがあります

走行中に ESP / ETS 表示灯が点灯しているときは、ESP の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

! マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷278 ページ）をご覧ください。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! ESP が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ABS に異常が発生したときは、ESP の機能も解除されます。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP が作動することがあります（走行中に ESP / ETS 表示灯が点滅したままになります）。

i ABS 警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESP も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP / ETS 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

ETS

ETS は ESP の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

ESP の機能を解除したときも、ETS の機能は解除されません。

⚠ 事故のおそれがあります

- ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

i ブレーキに大きな負荷がかかりブレーキが過熱すると、ブレーキの保護のため、ETS が一時的に解除されます。このときは ESP / ETS 表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

ESP の機能の解除

次のような状況では、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP の機能を解除します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ESP の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
>
> - 急ハンドル
> - 急ブレーキ
> - 急発進、急加速
> - 急激なエンジンブレーキ

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ESP の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を高めることができません。

ESP の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジンの出力制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。この空転により、グリップを向上させることができます。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP は自動的に作動します。

ℹ ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。

① ESP オフスイッチ

ESP の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP オフスイッチ①を押します。

メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が点灯します。

ESP を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP オフスイッチ①を押します。

メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が消灯します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> エンジンがかかっているときに ESP オフ表示灯が点灯しているときは、ESP の機能が解除されているか、ESP が故障しています。路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

ⓘ エンジンを始動したとき、ESP は常に待機状態になります。

EBV

EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

EBV に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

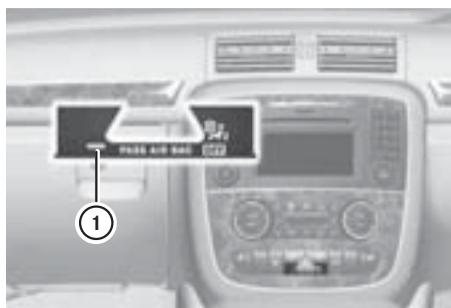
盗難防止システム *

盗難防止警報システム

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプも点灯します。

バッテリーの接続が絶たれたときも、警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたときも作動します。

① 表示灯

* オプションや仕様により、異なる装備です。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

表示灯①が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

ⓘ システムを待機状態にするときはボンネットが完全に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。

ⓘ システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

ⓘ システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠します。

表示灯①が消灯します。

警報が作動したときの停止方法

▶ 以下のいずれかの操作を行なうと、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、ドアハンドルに触れる
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す

ⓘ ドアやテールゲートを開けられたり、ボンネットのロックを解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引防止警報機能 *

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止警報機能が働き、サイレンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

約 30 秒後にけん引防止警報機能が待機状態になります。

警報が作動したときの停止方法

▶ 以下のいずれかの操作を行なうと、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、ドアハンドルに触れる（キーレスゴー装備車）

けん引防止警報機能の解除

誤作動を防ぐため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて運搬するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

けん引防止警報機能設定画面

けん引防止警報機能を解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにけん引防止警報機能設定画面を表示させます（▷154 ページ）。

▶ ステアリングの [−] を押し、オフを選択します。

けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにエンジン停止時の表示設定画面を表示させます（▷149 ページ）。

▶ ステアリングの [+] を押し、" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ " を選択します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ " と表示されます。

" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示されたときは、けん引防止警報機能が解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠してください。

▶ ステアリングの ＋ または － を押します。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示され、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

! けん引防止警報機能を解除したときは、必ずマルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示されたことを確認してください。

i けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

i 次にリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠するまで、けん引防止警報機能は解除されたままになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オープン / クローズ ……………… 60
テールゲート………………………… 70
イグニッション位置………………… 75
シート………………………………… 77
ステアリング………………………… 88
ミラー………………………………… 90
メモリー機能………………………… 93
シートベルト………………………… 95
ランプ………………………………… 99
ワイパー……………………………… 108
パワーウインドウ…………………… 111
走行と停車…………………………… 118
オートマチックトランスミッション
…………………………………… 123
メーターパネル……………………… 129
マルチファンクション
ディスプレイ……………………… 131
走行装備……………………………… 159
エアコンディショナー……………… 191
パノラミック
スライディングルーフ……………… 206
荷物の積み方 / 小物入れ ………… 209
室内装備……………………………… 227

オープン / クローズ

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ けがのおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーレスゴー装備車は、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときにキーレスゴースイッチ * を押すと、エンジンが始動して事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

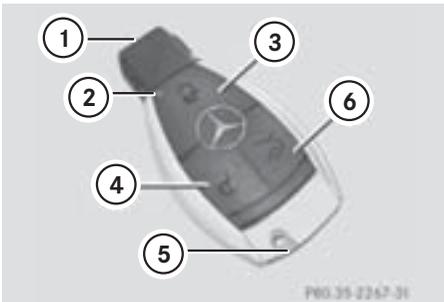
! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 2 つのキーを見わけるため、キーのストッパーの色は異なります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リモコン機能

キーレスゴー、EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ エマージェンシーキー
⑥ テールゲート開閉ボタン *

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートの開閉 *
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷115、116 ページ）。

操作時に表示灯②が 1 回点滅します。

ℹ キーレスゴー装備車は、イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに、上記の操作が行なえます。

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

テールゲートを開く *

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲート開閉ボタン⑥を押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる *

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲート開閉ボタン⑥を押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

ℹ 車が施錠されているときにテールゲート開閉ボタン⑥を押すと、テールゲートだけが解錠され、開きます。その状態でテールゲート開閉ボタンを押すと、テールゲートが閉じ、施錠されます。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

! リモコン操作でテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! リモコン操作でテールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 5 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では、以下のように作動します。

▶ 解錠ボタン④を 1 回押します。

運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

▶ 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン④を押します。

助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

元の設定に戻すときは、再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 5 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

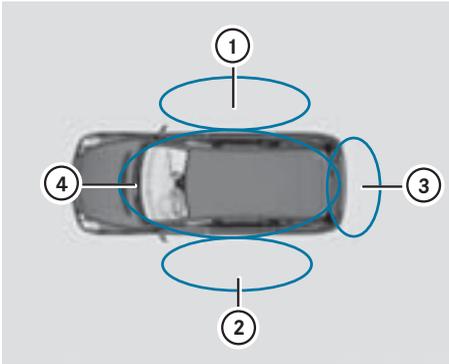
i 車がバッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作での解錠 / 施錠はできません。

i リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

i リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）

キーレスゴー *

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲①②にあるとき

- ドアハンドルに触れると車の解錠ができます。
- ドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すと車の施錠ができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にない側のドアハンドルに触れたり、キーレスゴースイッチを押すことで、車が解錠 / 施錠されることがあります。

キーがテールゲート側アンテナの検知範囲③にあるとき

- テールゲートハンドルを引くと、テールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押して、車を施錠することができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にないときも、テールゲートハンドルを引くことでテールゲートのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲④にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷76 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷76、118 ページ）。

ℹ キーの位置によっては、キーがドア付近やルーフ上、ボンネット上などの車外にあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ けがや事故のおそれがあります

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときやテールゲートを開閉するとき、エンジンを始動するときなどは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内にあるときや、キーの位置によっては、車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動するなど､事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドルを引いてからキーレスゴー操作を行なってください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、車を施錠 / 解錠したり､エンジンを始動できます。

i 車両のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもキーレスゴーによる操作はできません。

i キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、キーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

ⓘ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

解錠時の設定の切り替え

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 施錠ボタン②と解錠ボタン③を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯①が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

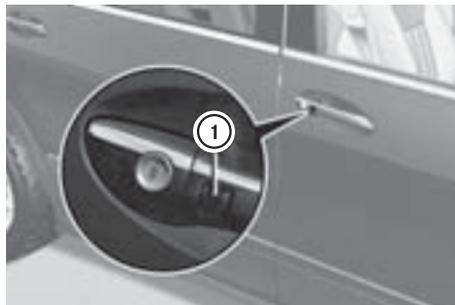
初期設定に戻す

▶ 施錠ボタン②と解錠ボタン③を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯①が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ⓘ 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

ⓘ 設定を切り替えたときも、運転席ドア以外のドアハンドルの裏側に触れることで、すべてのドアとテールゲート、燃料給油フラップを解錠することができます。

施錠する

右側フロントドア
① ドアハンドルのキーレスゴースイッチ

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ①を押します。

または

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
② テールゲートのキーレスゴースイッチ

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押します。

テールゲートが閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内にあるときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ！" または "ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すことで施錠できます。

i いずれかのドアが開いているときにドアハンドルまたはテールゲートのキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

テールゲートを解錠して開く (EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車)

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されます。

▶ テールゲートを引き上げます。

テールゲートを解錠して開く (EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車)

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されて自動で開きます。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーが車室内にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押したとき（キーレスゴー装備車）

この機能の設定と解除については（▷146 ページ）をご覧ください。

ドアの開閉

⚠ **事故のおそれがあります**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

車内から開く

▶ ドアレバー②を引きます。

ドアが施錠されているときはロックノブ④が上がり、解錠されます。

車内から閉じる

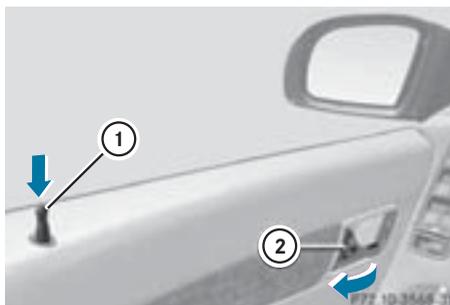
▶ インナーグリップ③を持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず車を施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

i 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

i ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷281 ページ）。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

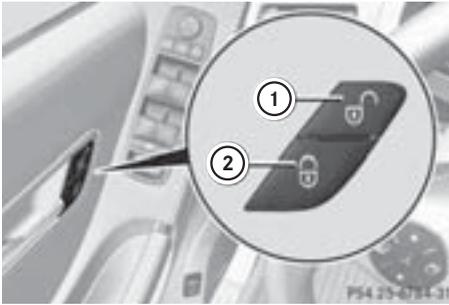
施錠する

▶ ロックノブ①を矢印の方向に押し込みます。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

! ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供が乗車しているときは特に注意してください。

ドアロックスイッチ

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① 解錠スイッチ
② 施錠スイッチ

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ 解錠スイッチ①を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ②を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ⓘ ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内のドアレバーを引いてフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。

ⓘ ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

ⓘ ドアロックスイッチにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

ⓘ 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチを操作すると、運転席ドア以外のドアとテールゲートが解錠 / 施錠されます。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷150 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を移動したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターで車を検査するときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

ⓘ 車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

テールゲート

⚠ 中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! ラゲッジルームには乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

ℹ テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車

① テールゲートハンドル

テールゲートを開く

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

▶ テールゲートを引き上げます。

車両の操作

② 凹部

テールゲートを閉じる

▶ 凹部②に手をかけてテールゲートを引き下げます。

▶ 外側からテールゲートを軽く押さえます。

クロージングサポーターが作動して、テールゲートが閉じます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

ℹ テールゲートが自動で開閉しているときに挟み込みを感知すると、閉じているときはテールゲートは停止して全開まで開き、開いているときはテールゲートはその位置で停止します。

ℹ 完全に停車していないときは、テールゲートクローザースイッチや運転席ドアのテールゲートスイッチでテールゲートを操作できません。

ℹ テールゲートが自動で開閉しているときに以下の操作を行なうと、テールゲートはその位置で停止します。

- キーのテールゲート開閉ボタンを押す
- テールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートハンドルを引く
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す

車外からの開閉

テールゲートを開く

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

テールゲートが自動で開きます。

または

▶ テールゲートが開き始めるまで、キーのテールゲート開閉ボタン（▷61 ページ）を押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

左円：キーレスゴー非装備車
右円：キーレスゴー装備車
③ テールゲートクローザースイッチ

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ③を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

または

▶ テールゲートがいっぱいまで開いているときに、テールゲートが閉じ始めるまで、キーのテールゲート開閉ボタン（▷61 ページ）を押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

テールゲートを閉じて車を施錠する（キーレスゴー装備車）

④ キーレスゴースイッチ

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ④を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! キーがラゲッジルーム内やリアシート周辺にあるときに、テールゲートのキーレスゴースイッチ④を押すと、テールゲートが閉じ、すべてのドアと燃料給油フラップが施錠されますが、テールゲートは施錠されません。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i いずれかのドアが開いているときにキーレスゴースイッチ④を押すと、テールゲートは少し閉じた後停止します。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

車内からの開閉

左ハンドル車
⑤ テールゲートスイッチ

テールゲートを開く

▶ テールゲートスイッチ⑤を引きます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、テールゲートスイッチ⑤を押します。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

テールゲートの開口角度の設定 *

上方に十分な空間がないところなどでテールゲートを開くときのために、テールゲートの開口角度を設定できます。

開口角度を設定する

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートハンドルを引く
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- キーのテールゲート開閉ボタン * を押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチ * を操作する

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

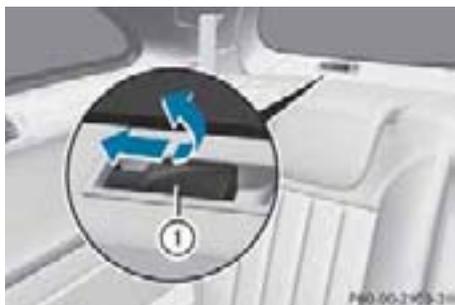
開口角度の設定を解除する

▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

ⓘ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

テールゲート内側のレバーでの解錠

① レバー

テールゲート内側のレバーで、テールゲートを解錠して開くことができます。

テールゲートを開く

▶ レバー①を左側に押しながら、上方に引き上げます。

テールゲートのロックが解除されます。

▶ レバー①を引き上げたまま、テールゲートを後方へ押し上げます。

⚠ **けがのおそれがあります**

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートを開くときに大きな力が必要になります。テールゲートが不意に下がってきて、身体を挟まないように注意してください。

ℹ EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートのロックを解除してからテールゲートを開かないでいると、数秒後にテールゲートが自動的に閉じる場合があります。

! 盗難防止警報システム装備車では、施錠した後に、レバー①でテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れる
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す

! レバー①で解錠した後に、テールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

ℹ レバー①でテールゲートを解錠して開いても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

イグニッション位置

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止させないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

! エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。

イグニッション位置を選択する

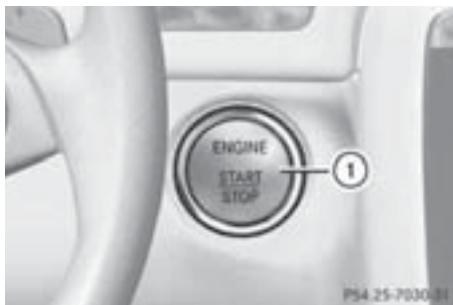
エンジンスイッチに差し込んだキーをまわすと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
⓪	**0**：キーを差し込む / 抜く位置
①	**1**：イグニッション位置が **1** になります。
②	**2**：イグニッション位置が **2** になります。
③	**3**：エンジンが始動します。

ℹ エンジンスイッチからキーを抜かずに⓪の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

ℹ キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

キーレスゴー装備車

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

① キーレスゴースイッチ

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ①を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ①を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ①を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ①を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

i エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けた直後は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができないことがあります。

i 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されます。

キーによるイグニッション位置の選択

① キーレスゴースイッチ
② エンジンスイッチ

キーレスゴースイッチ①を取り外し、エンジンスイッチ②にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置の選択や、エンジンの始動（▷118 ページ）を行なうことができます。

シート

フロントシート

フロントシートには以下の 2 種類があります。

名称	ページ
4 ウェイパワーシート	77
メモリー付パワーシート	78

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷34 ページ）。

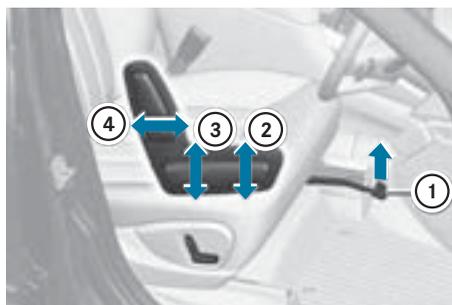
けがのおそれがあります

乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

! 左右セカンドシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動するときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

! シートを調整するときは、ヘッドレストがルーフ内張りやアシストグリップ、サンバイザーなどに接触しないように注意してください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

4 ウェイパワーシートの調整

右側フロントシートのスイッチ、レバー

シートを調整する

矢印の方向	調整内容
①	シートの前後位置
②	シートクッションの角度
③	シートの高さ
④	バックレストの角度

▶ シート調整スイッチを矢印②〜④の方向に操作します。

シートの前後位置は、レバー①を矢印の方向に引いたままシートを前後に動かして調整します。

ℹ シートの前後位置の調整は、電動式ではありません。

⑤ ヘッドレスト
⑥ ロック解除ボタン

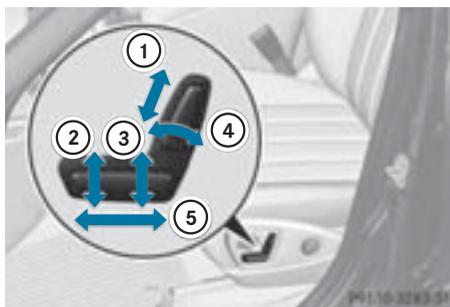
ヘッドレストの高さを調整する

▶ 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。

低くするときは、ロック解除ボタン⑤を押しながらヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

メモリー付パワーシートの調整

左側フロントシートのスイッチ

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①〜⑤の方向に操作します。

矢印の方向	調整内容
①	ヘッドレストの高さ
②	シートクッションの角度
③	シートの高さ
④	バックレストの角度
⑤	シートの前後位置

* オプションや仕様により、異なる装備です。

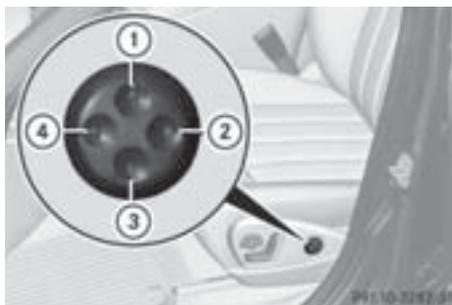
ⓘ シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して上下することがあります。

ⓘ PRE-SAFE（▷40 ページ）が作動すると、助手席が適正な位置に自動的に調整されます。

! 助手席の前後には物を置かないでください。PRE-SAFE が作動して助手席が適正な位置に自動的に調整されるときに、シートの移動の妨げになります。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

電動ランバーサポート *

左側フロントシートのスイッチ
①③ ランバーサポートの位置の調整
② ランバーサポートの強さの調整（弱）
④ ランバーサポートの強さの調整（強）

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

サポートの位置を調整する

▶ スイッチ①または③を押します。

サポートの強さを調整する

▶ スイッチ②（弱）または④（強）を押します。

ⓘ 車を解錠したときやドアを開いたとき、イグニッション位置を **1** にしたときに、ランバーサポートが自動的にリセットされることがあります。

ⓘ 右側シートは、スイッチ②（弱）と④（強）の位置が逆になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

セカンドシートとサードシート

⚠ **けがのおそれがあります**

シートを調整したときは、シートが確実に固定されていて、バックレストが垂直に近い角度で固定されていることを確認してください。

左右のセカンドシートを調整したときは、セカンドシートのロックインジケーター（▷85 ページ）の状態を確認してください。

バックレストが確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにバックレストが前方に動き、致命的なけがをするおそれがあります。

シートの調整をするときは、他の乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。

左右セカンドシートの前後位置の調整

① 調整レバー

▶ 調整レバー①を矢印の方向に引いて保持します。

▶ シートを前後に動かします。

▶ 調整レバー①から手を放します。

シートが固定されます。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

バックレストの角度の調整

左右セカンドシート

サードシート

① 調整レバー

▶ シートに乗車した状態で、調整レバー①を矢印の方向に軽く引いたままバックレストの角度を調整します。

ℹ サードシートのバックレストは、シートに荷重がかかっていないときにレバー①を矢印の方向に引くと、バックレストが前方に倒れ、シートクッションが起き上がります。

⚠ **けがのおそれがあります**

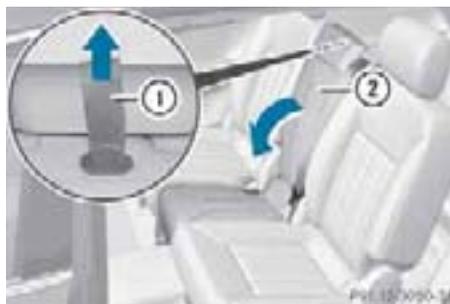
セカンドシートのバックレストの角度を調整するときは、以下の点に注意してください。シートクッションが床面まで下がり、身体を挟んでけがをするおそれがあります。

- セカンドシートに乗車し、シート後方に荷重をかけた状態で調整してください。
- 調整レバー①はいっぱいまで引かないでください。必ず軽く引いて操作してください。
- バックレストの角度を調整しているときにバックレストを後方から押さないでください。

⚠ **けがのおそれがあります**

セカンドシートに乗車しているときは、シートクッションの横や下、アーム部分（イラストの×印の部分）などに手や指などを入れないでください。

シートクッションが床面まで下がったときに、手や指などが挟まれ、けがをするおそれがあります。

中央セカンドシートの調整

① ストラップ
② バックレスト

バックレストを前方に倒す

バックレストを前方に倒すと、アームレストとして使用できます。

▶ ヘッドレストを最も低い位置にします。

▶ ストラップ①を矢印の方向に引きながらバックレスト②を前方に倒し、確実にロックします。

① ストラップ
② バックレスト

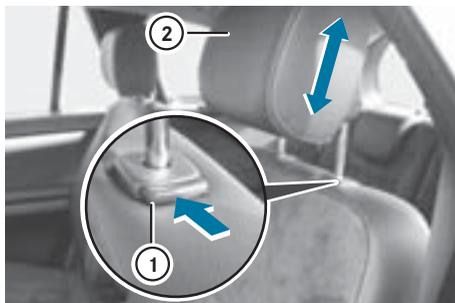
バックレストを元の位置に戻す

▶ ストラップ①を矢印の方向に引きながらバックレスト②を後方に起こし、確実にロックします。

ヘッドレストの調整

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付け、ヘッドレストを引き上げてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

ヘッドレストの高さの調整

左右セカンドシート
① ロック解除ボタン
② ヘッドレスト

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレスト②を引き上げます。

ヘッドレストが引き上げられないときは、ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを下げます。

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、ヘッドレストの中心が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

ヘッドレストの角度の調整

左右セカンドシートのヘッドレストは角度の調整ができます。

中央セカンドシートとサードシートのヘッドレストでは、角度の調整はできません。

▶ ヘッドレストの下側を押して / 引いて調整します。

ヘッドレストの脱着

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

左右セカンドシートのヘッドレスト

ヘッドレストを取り外す

▶ シート位置を最も後方の位置にして、バックレストを前方に倒します (▷84 ページ)。

左右セカンドシート

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ シート位置を最も後方の位置にして、バックレストを前方に倒します（▷84 ページ）。

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

中央セカンドシートのヘッドレスト

ヘッドレストを取り外す

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が右側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

⚠ **けがのおそれがあります**

中央セカンドシートに乗員が乗車しているときは、中央セカンドシート背面のストラップ②を引かないでください。中央セカンドシートが前方に移動してシートクッションが床面まで下がり、身体を挟んでけがをするおそれがあります。

サードシートのヘッドレスト

ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に傾けます。

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストを前方に傾けます。

▶ 切り欠きのある支柱が右側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

サードシートへの乗車

左右セカンドシートのバックレストを前方に倒し、セカンドシートを前方に移動することにより、サードシートへの乗り降りを容易にします。

⚠ **けがのおそれがあります**

セカンドシートやサードシートに乗車するときは、左右セカンドシートが確実に固定されていて、バックレストが垂直に近い角度で固定されていることを確認してください。

左右のセカンドシートを調整したときは、セカンドシートのロックインジケーターの状態を確認してください。

バックレストが確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにバックレストが前方に動き、致命的なけがをするおそれがあります。

サードシートに乗車する

① レバー

▶ セカンドシートに乗車していないときに、レバー①を矢印の方向に軽く引きながら、バックレストを前方に倒します。

バックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動して、シートクッションが床面まで下がります

左右セカンドシートを前方に倒した状態

サードシートから車を降りる

② ストラップ

▶ セカンドシート背面のストラップ②を矢印の方向に引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレストを軽く前方に押します。

バックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動して、シートクッションが床面まで下がります。

左右セカンドシートを前方に倒した状態

⚠ **けがのおそれがあります**

セカンドシートに乗員が乗車しているときは、ストラップ②を引かないでください。セカンドシートのバックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動してシートクッションが床面まで下がり、身体を挟んでけがをするおそれがあります。

左右セカンドシートを元の位置に戻す

▶ バックレストを後方に起こしてロックしてから、シート全体を後方に移動させます。

"カチッ" という音がして、シートがロックされたことを確認してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行する前にシートが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、けがをするおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

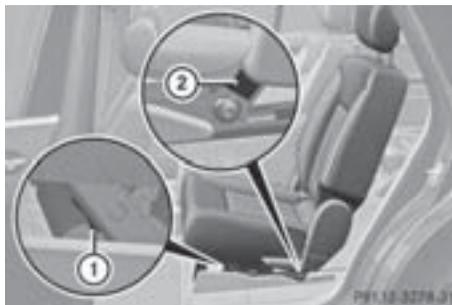
サードシートに乗員が乗車しているときにセカンドシートを元の位置に戻すときは、サードシートの乗員の身体が挟まれないように注意してください。

! シートを操作するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

ロックインジケーター

シートがロックされていない状態
① ロックインジケーター（前部）
② ロックインジケーター（後部）

セカンドシートを元の位置に戻したときは、ロックインジケーター①②の状態を確認してください。

ロックインジケーター①②が上図の状態のときは、シートはロックされていません。

シートがロックされている状態

ロックインジケーター①②が上図の状態のときは、シートがロックされています。

ℹ ロックインジケーターでの確認だけでなく、シートを前後に押して、確実にロックされていることを確認してください。

シートベンチレーター

① シートベンチレータースイッチ
② 表示灯

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

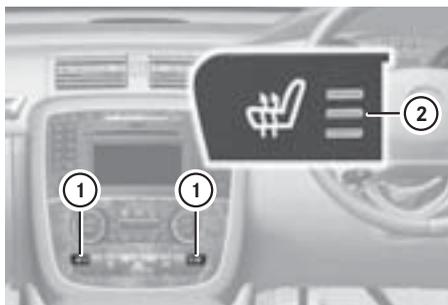
点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

ℹ リモコン操作でドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

ℹ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

シートヒーター

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに表示灯②の点灯数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

※ シートベンチレーターは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

⚠ **けがのおそれがあります**

コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i バッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

ステアリング

⚠ **事故のおそれがあります**

ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

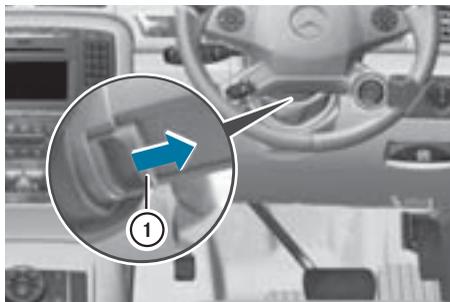
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグ収納部の上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバー * を操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。

ステアリングを調整するときは、以下のことに注意してください。

- ステアリングを握ったとき、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせて、ペダルが十分に踏み込める
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯 / 表示灯を確認できる

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリングの調整（手動式）

① ロック解除ハンドル

ステアリング位置を調整する

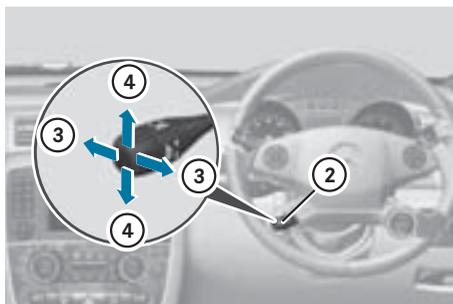
▶ ステアリングコラム下部のロック解除ハンドル①を手前に引きます。

ステアリングを前後上下に動かして正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル①を前方に押してロックします。

調整後は、ステアリングが確実にロックしていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリングの調整（電動式）

② ステアリング調整レバー
③ 前後位置の調整
④ 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー②を③の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー④を④の方向に操作します。

ℹ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷93 ページ）。

イージーエントリー

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする（キーレスゴー装備車）

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷152 ページ）をご覧ください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

  挟まれそうになったときは、運転席のメモリースイッチかポジションスイッチ、ステアリング調整レバーのいずれかを操作してください。イージーエントリーの作動が停止します。
- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開いたときにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

ⓘ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ⓘ イージーエントリーを設定しているときは、事故などのときにステアリングが自動的に上方に移動して、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

ミラー

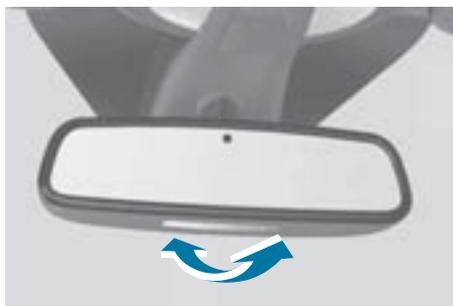
⚠ **事故のおそれがあります**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーやドアミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

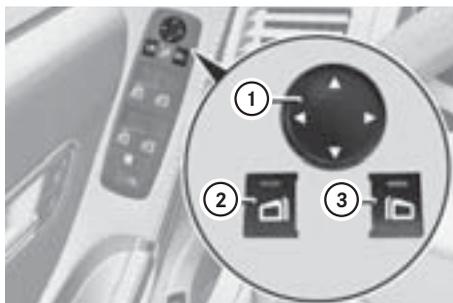
 事故のおそれがあります

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

i ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー（▷199 ページ）を作動させたときや外気温度が下がったときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

i 運転席側ドアミラーは、ルームミラーに連動して防眩になります（▷92 ページ）。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車
① ドアミラー調整スイッチ
② 運転席側ドアミラー選択スイッチ
③ 助手席側ドアミラー選択スイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

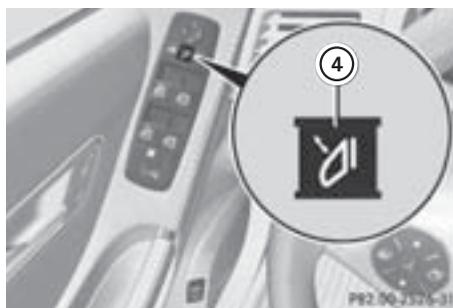
▶ 調整したい側のドアミラー選択スイッチ②または③を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ①を操作してドアミラーの角度を調整します。

i ドアミラーの角度を調整しないまま約 15 秒経過すると、ドアミラー選択スイッチの表示灯は消灯します。

i 車種や仕様により、ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷93 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車
④ ドアミラー格納 / 展開スイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

ドアミラーを格納する

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ④を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、ドアミラー格納 / 展開スイッチ④を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

i 走行速度が約 45km/h 以上のときは、スイッチでドアミラーを格納することはできません。

i 車を施錠するときにドアミラーを併せて格納できます。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ④を押します。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については (▷153 ページ) をご覧ください。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

自動防眩機能

① センサー

* オプションや仕様により、異なる装備です。

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを受けると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは、自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。また、必要に応じてルームミラーの角度を変えてください。

⚠ **けがのおそれがあります**

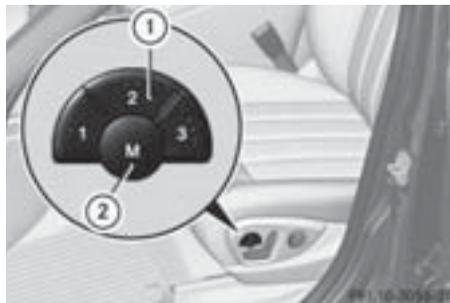
ミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

i シフトポジションが **R** のときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

メモリー機能 *

シート位置の記憶

左側フロントシートのスイッチ
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

運転席シートと助手席シートには、3つの位置を記憶させることができます。

運転席シートでは、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶させることができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ メモリースイッチ②を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ①の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

"ピッ" という確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

シート位置の呼び出し

⚠ **事故のおそれがあります**

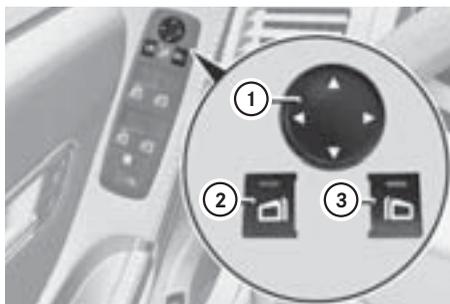
運転席シート位置の呼び出しは、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 呼び出したいポジションスイッチ①の 1 ～ 3 のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後ろに傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すとシートなどは停止します。

パーキングヘルプ機能

左ハンドル車
① ドアミラー調整スイッチ
② 運転席側ドアミラー選択スイッチ
③ 助手席側ドアミラー選択スイッチ

シフトポジションを **R** にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

助手席側ドアミラーの角度を記憶させる

▶ パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ③を押します。

▶ シフトポジションを **R** にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ①で、助手席ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

助手席側ドアミラーを記憶させていた角度にする

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ③を押します。

▶ シフトポジションを **R** にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- シフトポジションを **R** から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ②を押したとき

ℹ 運転席側ドアミラー選択スイッチ②が押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

ℹ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯したままになります。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルに汚れや損傷があるときや、事故でシートベルトが大きな負担を受けたとき、シートベルトを改造しているときは、十分な乗員保護機能を発揮できずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷41 ページ）をご覧ください。

- 子供がシートベルトを着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけ、絶対に腹部にはかけないでください。必要であれば、シートベルトを少し押し下げた後に、引き上げてください。
- 眼鏡やペン、キーなど、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。事故のときに、シートベルトを損傷し、切れるおそれがあります。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い角度で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトについては（▷31 ページ）もご覧ください。

① ベルトアンカー
② プレート
③ バックル
④ 解除ボタン

シートベルトを着用する

▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ ねじれがないようにしながら、シートベルトを肩の中央にかけます。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

フロントのシートベルトは、自動的にシートベルトの締め付け具合が調整されます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。また、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっていることを確認します。

▶ フロントシートは、必要に応じてシートベルトの高さを調整します(▷98 ページ)。

▶ 必要に応じてシートベルトの肩にかかる部分を引き上げ、身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル③の解除ボタン④を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

⚠ けがのおそれがあります

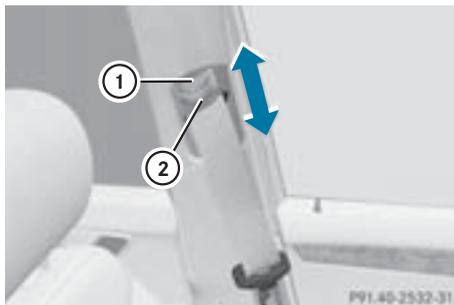
- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを使用して、重い荷物などを固定しないでください。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷153 ページ）をご覧ください。

フロントシートベルトの高さ調整

① ロック解除ボタン
② ベルトアンカー

フロントシートベルトでは、高さを調整することができます。

シートベルトが首にかかったり、肩から外れないように高さを調整します。

高さは 3 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、ベルトアンカー②をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらベルトアンカー②を下げます。

調整後はベルトアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように以下の点に注意してシートを調整してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
- ヘッドレストの中央が目の高さにある
- バックレストはできるだけ垂直にする
- 背中はバックレストに密着させる
- シートベルトが正しく着用できる
- ももの裏側が軽く支えられるように、シートクッションの角度を調整する
- ペダルが楽に踏み込める
- ステアリングが楽に操作できる

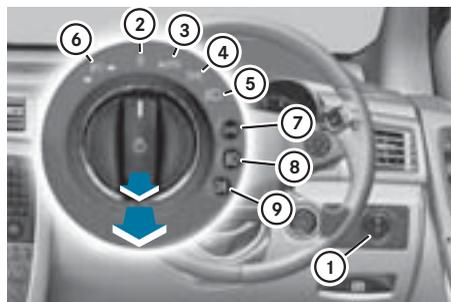
⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

右ハンドル車
① ランプスイッチ

	位置	作動内容
②	0	すべてのランプが消灯
③	AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
④		車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、表示灯⑦が点灯
⑤		ヘッドランプが点灯
⑥	P	右側のパーキングランプが点灯
	P	左側のパーキングランプが点灯
⑦	車幅灯表示灯	
⑧	フロントフォグランプ表示灯	
⑨	リアフォグランプ表示灯	

! 車から離れるときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! ランプスイッチを [車幅灯] の位置にしたまま、エンジンスイッチに差し込んだキーを抜くかキーレスゴースイッチ * でイグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプ

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を [ヘッドランプ] の位置にします。

- イグニッション位置が **1** のときは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、車幅灯表示灯⑦が点灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは、上記に加えてヘッドランプも点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

ⓘ ヘッドランプが点灯しているときに、イグニッション位置を **1** にすると、ヘッドランプが消灯します。

さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

ヘッドランプの自動点灯機能

周囲が暗いときに、ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯できます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  ◇ 霧の中を走行するとき
  ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを AUTO から [ヘッドランプ] の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯する

▶ ランプスイッチ①を AUTO の位置にします。

- イグニッション位置が **1** のときは、周囲が暗いときに、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプなどが自動的に点灯し、車幅灯表示灯⑦が点灯します。
- エンジンがかかっているときは、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります（▷109ページ）。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

フォグランプ

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを ≣D の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

フロントフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** で、ランプスイッチ①の位置が ≡00≡ または ≣D のときに、ランプスイッチを1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯⑧が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** で、ランプスイッチ①の位置が ≡00≡ または ≣D のときに、ランプスイッチを2段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯⑧とリアフォグランプ表示灯⑨が点灯します。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

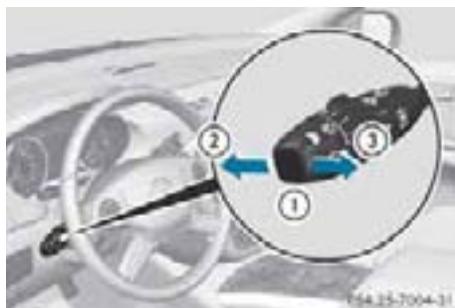
暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを P≡→ または ←P≡ の位置にします。

位置	作動内容
P≡→	右側のパーキングランプが点灯
←P≡	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ ヘッドランプが点灯しているときに、コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

パッシングする

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときに、コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

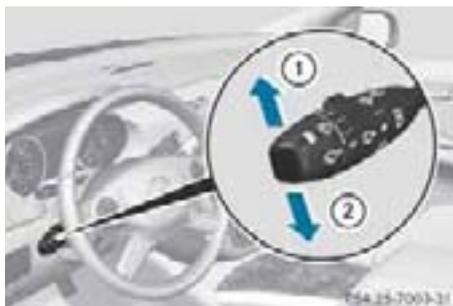
この機能の設定と解除については（▷147 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

i ランプが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

i エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ランプは消灯します。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ⓘ 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ⓘ コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

ⓘ 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停止したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ⓘ 非常点滅灯を点滅させているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ⓘ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

コーナリングランプ

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが R のときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが R のときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

i 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

i フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

i 点灯したフロントフォグランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

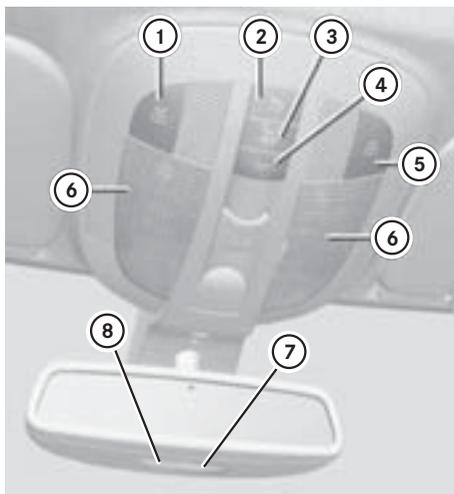
ヘッドランプウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

i エンジンを停止するか、ヘッドランプを消灯させると、フロントウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② サードシートルームランプスイッチ
③ 点灯モード選択スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑥ フロントルームランプ
⑦ フロント読書灯（右側）
⑧ フロント読書灯（左側）

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押されていない状態にします。

以下の操作をするとフロントルームランプやセカンドシートルームランプ、サードシートルームランプ、ラゲッジルームランプおよびテールゲート裏のランプが点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については（▷147 ページ）をご覧ください。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

- いずれかのドアまたはテールゲートを開くと点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  ドアやテールゲートが開いたままのときは、消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアやテールゲートを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプなどが消灯することを確認してください。

i 点灯したセカンドシートルームランプは、ランプの前部を押すと消灯します。

i 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると数秒後に自動的に消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプなどは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠する
- ドアを開く
- テールゲートを開く

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で解錠します。

または

▶ 点灯モード選択スイッチ③を押します。

フロントルームランプの点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ フロントルームランプスイッチ④を押します。

フロントルームランプ⑥が点灯 / 消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロント読書灯の点灯 / 消灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ フロント読書灯スイッチ①⑤を押します。

フロント読書灯⑦⑧が点灯 / 消灯します。

セカンドシートルームランプの点灯 / 消灯

⑨ セカンドシートルームランプ（右側）

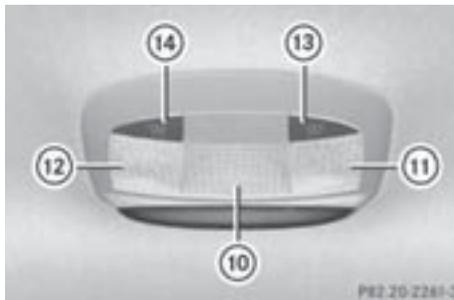
セカンドシートルームランプはリアドアウインドウの上方にあります。

セカンドシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ セカンドシートルームランプ⑨の前部（矢印の部分）を押します。

セカンドシートルームランプが点灯 / 消灯します。

! セカンドシートルームランプを長時間点灯すると、セカンドシートルームランプが熱くなり、火傷をするおそれがあります。操作するときなどは注意してください。

サードシートルームランプおよびサードシート読書灯 * の点灯 / 消灯

⑩ サードシートルームランプ
⑪ サードシート読書灯（左側）
⑫ サードシート読書灯（右側）
⑬ サードシート読書灯スイッチ（左側）
⑭ サードシート読書灯スイッチ（右側）

サードシートルームランプはサードシートの上方にあります。

サードシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ サードシートルームランプスイッチ②（▷105 ページ）を押します。

サードシートルームランプ⑩が点灯 / 消灯します。

サードシート読書灯 * を点灯 / 消灯する

▶ サードシート読書灯スイッチ⑬⑭を押します。

サードシート読書灯⑪⑫が点灯 / 消灯します。

ℹ サードシートルームランプを点灯 / 消灯すると、ラゲッジルームランプとテールゲート裏のランプも点灯 / 消灯します。

フットウェルランプ

フロントシートとセカンドシートの足元 * に乗降用のランプがあります。

フロントルームランプまたはサードシートルームランプを点灯させると、明るく点灯します。

また、ルームランプが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは低い照度で点灯し、**2** 以外の位置にすると約 7 秒後に消灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。

ドアを開いたままのときは消灯しません。

◇イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを閉じると減光し、約 7 秒後に消灯します。

ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯します。

ドア下部のランプ

ドア下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアミラー下部のランプ

運転席側ドアミラー下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯し、ドアを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 30 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると、約 30 秒間点灯します。

ワイパー

フロントワイパー

① ティップ機能 / フロントウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を ••• ～ ═ に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
•••	オートモードⅠ
••••	オートモードⅡ 同じ雨滴量の場合、オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。
─	低速モード
═	高速モード

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ワイパーが 1 回だけ作動します（ウォッシャー液は噴射しません）。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

フロントウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

ⓘ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ⓘ オートモードでは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動が自動的に切り替わります。

ⓘ オートモードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが **P** または **N** のときは、フロントドアを閉じて、他のシフトポジションにしたとき
- シフトポジションが **D** または **R** のときは、フロントドアを閉じたとき

ⓘ ワイパー作動モードのマークが ▬ および ☰ の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

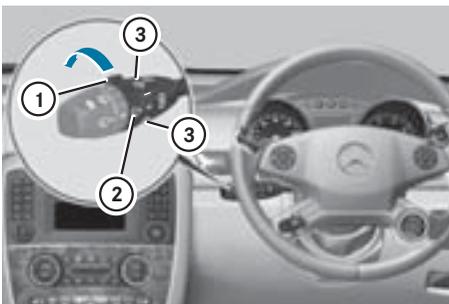
ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ⓘ フロントウインドウが濡れていなくても、ワイパー作動モードのマークを ··· か ···· にすると、ワイパーが 1 回作動します。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

リアワイパー

① ノブ
② リアワイパー作動モードのマーク
③ テールゲートウインドウウォッシャー作動位置

④ リアワイパーインジケーター

リアワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき､ノブ①をまわして､リアワイパー作動モードのマーク②を — の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイに、リアワイパーインジケーター④が表示されます。

ⓘ イグニッション位置が **2** でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを **R** にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき

  低速で作動します。

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき､ノブ①をまわして､リアワイパー作動モードのマーク②を③の位置に合わせ続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも作動します。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0**（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャーを噴射してから使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチを — や ≡ の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! ワイパーを使用する必要がないときは、必ずワイパー作動モードのマークを 0 の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動してワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは、ワイパーブレードを損傷したり、ウインドウに傷が付くおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、イグニッション位置を 0 にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

左ハンドル車
① フロントドアウインドウスイッチ
② リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

挟み込み防止機能

ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらにこの状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちに再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

⚠ **けがのおそれがあります**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷115 ページ）。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でドアウインドウを閉じることができます（▷116 ページ）。

ⓘ ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉することができます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ ドアウインドウが開いているときに PRE-SAFE（▷40 ページ）が車両の横滑りを感知すると、ドアウインドウが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席やリアドアのスイッチでは、開閉しているドアウインドウを操作することはできません。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

以下のときは、ドアウインドウをリセットしてください。

- バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたとき
- ドアウインドウが自動で開閉しないとき
- ドアウインドウが全閉した後に少し開くとき

ドアウインドウをリセットする

▶ すべてのドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スイッチから手を放したときにドアウインドウが全閉位置から少し開いた場合は、ただちにスイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ この操作を他のドアウインドウでも行ないます。

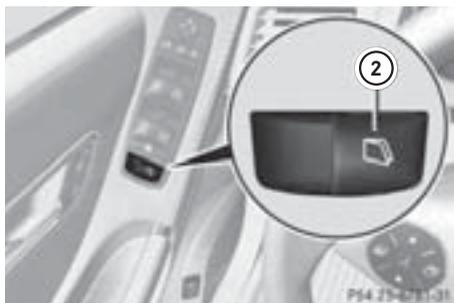
詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ベンチレーションウインドウの開閉 *

⚠ **けがのおそれがあります**

ベンチレーションウインドウを閉じるときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押してください。ベンチレーションウインドウが開きます。

① ベンチレーションウインドウ

左ハンドル車
② ベンチレーションウインドウスイッチ

ベンチレーションウインドウの開閉スイッチは運転席ドアにあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ベンチレーションウインドウを開閉できます。

ベンチレーションウインドウを開く

▶ スイッチ②を押します。

左右のベンチレーションウインドウが自動で開きます。

ベンチレーションウインドウを閉じる

▶ スイッチ②を引きます。

左右のベンチレーションウインドウが自動で閉じます。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ベンチレーションウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ベンチレーションウインドウの開閉はできなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、電動ブラインド *、パノラミックスライディングルーフ * を開くことができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 発信部
② 解錠ボタン

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて、解錠ボタン②を押し続けます。

パノラミックスライディングルーフ非装備車

ドアウインドウが開きます。

解錠ボタン②から指を放すと、作動中のドアウインドウはその位置で停止します。

パノラミックスライディングルーフ装備車

- 電動ブラインドが閉じているときは、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、電動ブラインドが開きます。

  電動ブラインドなどが開いた後、一度解錠ボタン②から指を放し、再度解錠ボタンを押し続けると、パノラミックスライディングルーフが開きます。

- 電動ブラインドが開いているときは、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが開きます。

解錠ボタン②から指を放すと、作動中のドアウインドウやベンチレーションウインドウ、電動ブラインドやパノラミックスライディングルーフはその位置で停止します。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外からドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ *、電動ブラインド * を閉じることができます。

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウなどを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

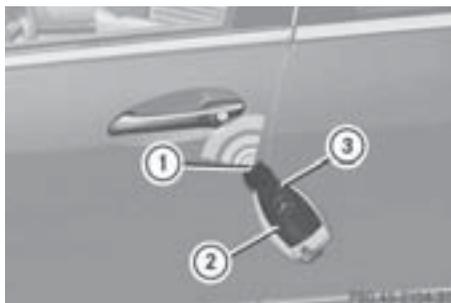
! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作またはキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * はできません。

リモコン操作で閉じる

⚠ けがのおそれがあります

リモコン操作でドアウインドウなどを閉じているときは、身体などが挟まれないように注意してください。

身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタン③から指を放し、解錠ボタン②を押し続けて、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * を開いてください。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 発信部
② 解錠ボタン
③ 施錠ボタン

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、施錠ボタン③を押し続けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パノラミックスライディングルーフ非装備車

ドアウインドウが閉じます。

施錠ボタン③から指を放すと、作動中のドアウインドウはその位置で停止します。

パノラミックスライディングルーフ装備車

ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが閉じます。

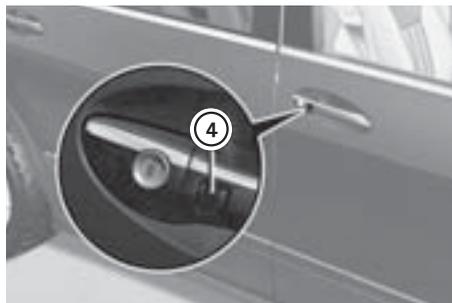
パノラミックスライディングルーフなどが閉じた後、一度施錠ボタン③から指を放し、再度施錠ボタンを押し続けると、電動ブラインドが閉じます。

施錠ボタン③から指を放すと、作動中のドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドはその位置で停止します。

キーレスゴー操作で閉じる *

⚠ けがのおそれがあります

キーレスゴー操作でドアウインドウなどを閉じているときは、身体などが挟まれないように注意してください。

身体などが挟まれそうになったときは、ただちにドアハンドルのキーレスゴースイッチ④から指を放し、ドアハンドルを引き続けてください。ドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が開きます。

右側フロントドア
④ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ④を押し続けます。

パノラミックスライディングルーフ非装備車

ドアウインドウが閉じます。

キーレスゴースイッチ④から指を放すと、作動中のドアウインドウはその位置で停止します。

パノラミックスライディングルーフ装備車

ドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * などが閉じた後、一度キーレスゴースイッチ④から指を放し、再度キーレスゴースイッチを押し続けると、電動ブラインドが閉じます。

キーレスゴースイッチ④から指を放すと、作動中のドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドはその位置で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

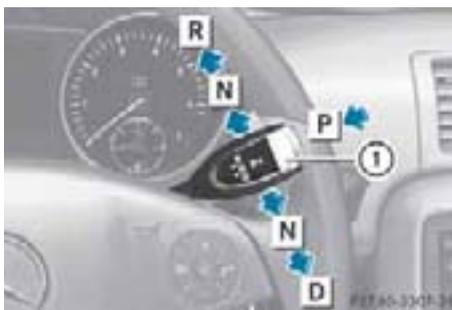
車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こし、意識不明になったり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

i ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

シフトポジション

① セレクターレバー

P	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
R	後退するときの位置
N	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。
D	走行するときの位置 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが **P** になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

キーレスゴーによるエンジンの始動 *

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

子供だけを残して車から離れないでください。車室内にキーがあるときは、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動します。短時間でも車内にキーを残したまま車から離れないでください。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが **P** になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、警告音が 1 回鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、" ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ " と数秒間表示されます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

ℹ **タッチスタート機能：**エンジンスイッチを **3** の位置までまわすか、キーレスゴースイッチを押すと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

ℹ 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷150 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

⚠ **事故のおそれがあります**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ℹ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP が故障しているとき

駐車

⚠ **火災のおそれがあります**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

パーキングブレーキ

⚠ **火災のおそれがあります**

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

左ハンドル車
① パーキングブレーキペダル
② ブレーキペダル
③ 解除ハンドル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル②を踏みながら、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

ℹ 急な坂道に駐車するときは、タイヤの下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

パーキングブレーキを解除する

▶ 解除ハンドル③を引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

ℹ パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンの停止

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションを **P** にします。

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

ⓘ シフトポジションが **D** か **R** のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションが **P** になります。

ただし、シフトポジションを **N** にしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは **P** になりません。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき *

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンが停止するまで、キーレスゴースイッチを押します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ⓘ シフトポジションが **D** か **R** のときにキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。さらにこの状態でフロントドアを開くと、シフトポジションが **P** になります。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オートマチックトランスミッション

セレクターレバー

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

シフトポジションを選択する

▶ セレクターレバー①を操作して、シフトポジションを選択します。

⚠ 事故のおそれがあります

セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

走行中にシフトポジションを **N** にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ポジション		操作方法
P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置	▶セレクターレバー先端のボタンを②の方向に押します。
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。	▶セレクターレバーを③または④の方向に軽く操作します。
R リバース	後退するときの位置	▶セレクターレバーを⑤の方向にいっぱいまで上げます。
D ドライブ	走行するときの位置 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。	▶セレクターレバーを⑥の方向にいっぱいまで下げます。

⚠ 事故のおそれがあります

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、シフトポジションが変更されたことに気付かずに一旦停止して、再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! シフトポジションを P または R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションが R のときは、確認音が鳴ります。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションが N のときにエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、P から他のシフトポジションにできます。

i イグニッション位置が **1** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

i シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

i 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

i シフトポジションが P 以外のときに運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ " と表示され、警告音が鳴ります。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブに入っている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているときに、選択されたシフトポジションがシフトポジション表示①に反転表示されます。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションが表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、選択されたシフトポジションを確認してから走行してください。できれば、シフトポジションを D にして、ティップシフトは解除してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

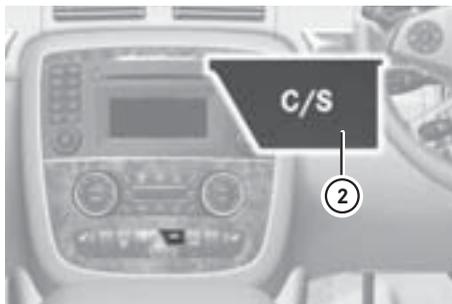
⚠ **事故のおそれがあります**

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示①に、選択した走行モードが表示されます。

② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

C モード→ S モード→ C モードと切り替わります。

ℹ エンジン停止時の走行モードに関わらず、エンジン始動時は常に C モードに設定されます。

走行モード	
C モード	快適性と経済性を重視したモードです。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。

走行モードが C モードのときは、以下のようになります。

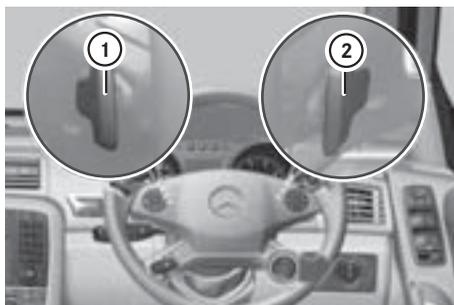
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、燃料消費が向上します。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップするため、消費燃料が多くなります。

⚠ **事故のおそれがあります**

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

ティップシフト

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

③ ギアレンジ表示

ティップシフトにする

▶ シフトポジションが D のときに、左側パドル①を引きます。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示③に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル①を引きます。

低いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示③に表示されます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル②を引きます。

高いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示③に表示されます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル②を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示③に " D " が表示されます。

または

▶ シフトポジション D を選択する方向にセレクターレバーを操作します（▷118 ページ）。

レンジ	作動内容
D	1 速～ 7 速の範囲で変速します。
D6	1 速～ 6 速の範囲で変速します。
D5	1 速～ 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で変速します。 エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で変速します。 下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

⚠ 事故のおそれがあります

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイが故障してギアレンジが表示されないときは、ティップシフトを解除して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

i シフトポジションが D のときにパドル②を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

i 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジになります。

i ギアレンジ表示は選択したギアレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。

i パドル①を引いても、選択したギアレンジが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトダウンされません。

i エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても選択したギアレンジに変わらないことがあります。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- メーターパネル照度調整ボタンまたはリセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にしてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ランプが点灯したとき（車外ランプが消灯してから約 30 秒後に消灯）

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にすると km/h 表示に比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示の切り替えについては（▷143

事故のおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① 照度調整ボタン（明）
② リセットボタン
③ 照度調整ボタン（暗）

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調整できます。

照度を上げる

▶ 照度調整ボタン①を押します。

照度を下げる

▶ 照度調整ボタン③を押します。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 80 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 13 リットルです。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示･設定するシステムです。

事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

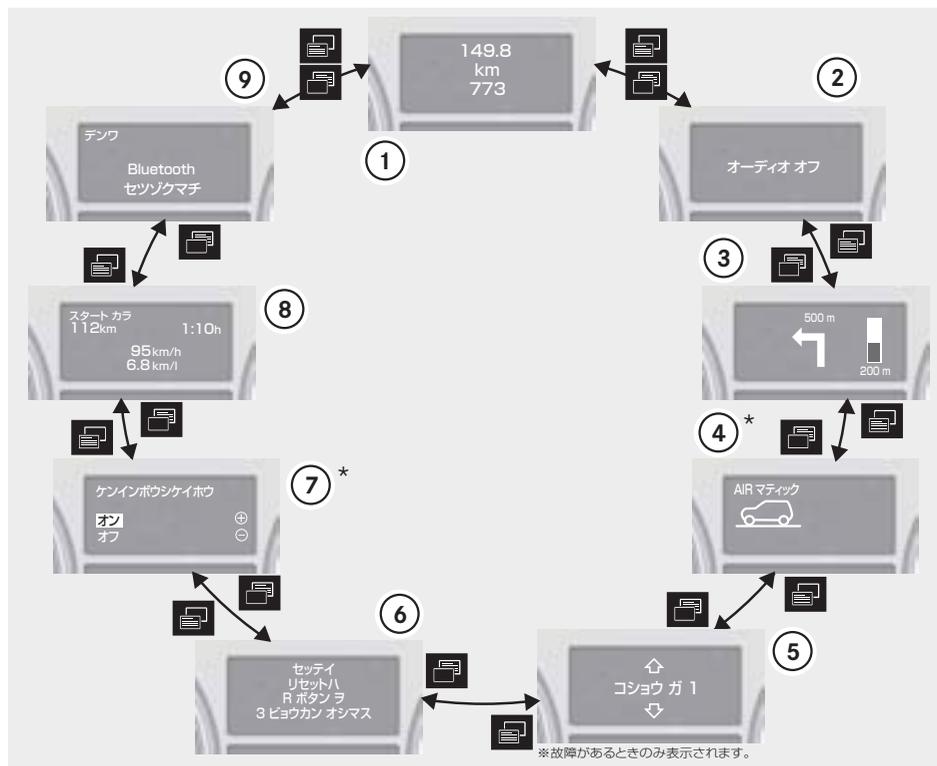
事故のおそれがあります

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

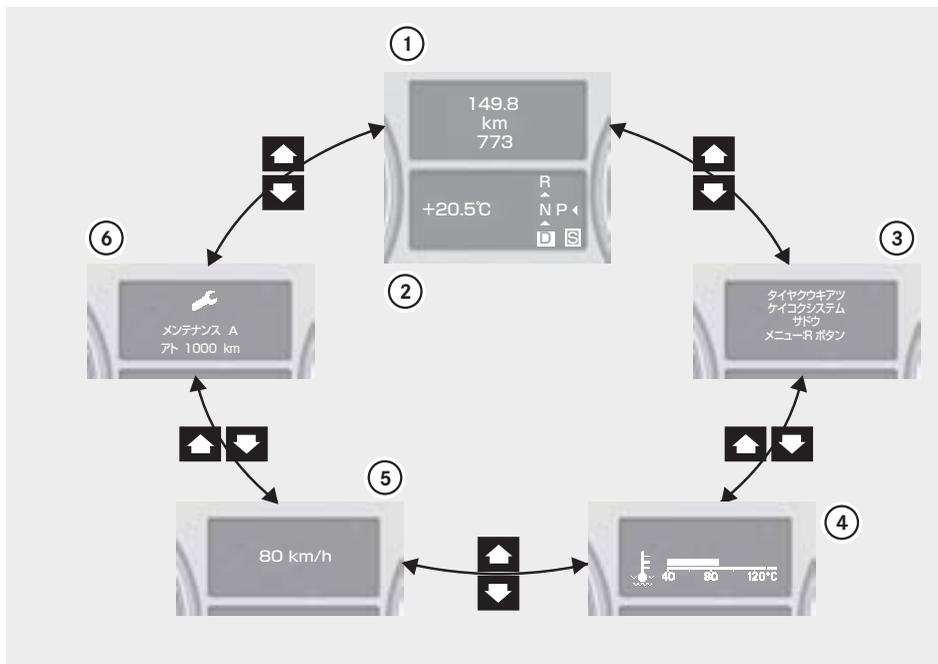
	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**設定スイッチ / 音量スイッチ** • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での数値や設定の変更や、機能のオン / オフの選択 • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 **通話開始 / 終了スイッチ（電話）** 電話の受信 / 保留 / 切断 **音声認識スイッチ** 音声認識の使用
③	**スクロールスイッチ** • 選択したメイン画面内での画面の切り替え • オーディオ画面表示中のオーディオの選曲やラジオ / テレビの選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話画面表示中の電話帳や発信履歴の選択 **表示切り替えスイッチ** メイン画面の選択 **音声認識解除スイッチ** 音声認識の中止

ステアリングスイッチでの COMAND システムの操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

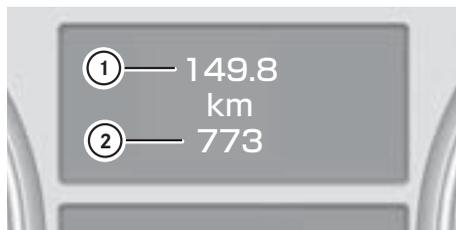
メイン画面一覧

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示するシステムです。

①	車両情報	133
②	オーディオ	136
③	ナビゲーション・進行方向方位表示	137
④	車高レベル表示 *	137
⑤	故障表示	138
⑥	各種設定	139
⑦	車両設定 *	154
⑧	トリップコンピューター	155
⑨	電話	158

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

①	車両情報メイン画面 （トリップメーター／オドメーター）	134
②	車両情報サブ画面 （外気温度表示／サブスピードメーター／可変スピードリミッター設定速度表示／シフトポジション表示／ギアレンジ表示／走行モード表示）	134
③	タイヤ空気圧警告システム画面	251
④	冷却水温度画面	135
⑤	サブスピードメーター／外気温度表示画面	136
⑥	メンテナンスインジケーター画面	262

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

①	トリップメーター	リセット後の走行距離を表示します。
②	オドメーター	これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（▷130 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

車両情報サブ画面

⚠ **事故のおそれがあります**

温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

❗ 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

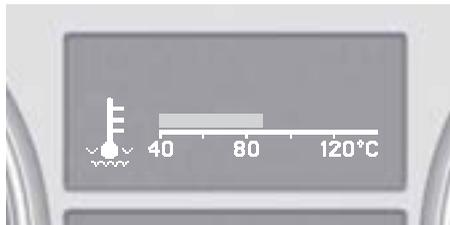
ℹ 温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

①	外気温度表示 / サブスピードメーター	外気温度または走行速度を表示します。 表示の切り替えは各種設定の "インストルメントクラスタ" の "車両情報サブ画面の表示設定画面"（▷144 ページ）で行ないます。
②	可変スピードリミッターの設定速度表示	可変スピードリミッター（▷163 ページ）で設定した速度を表示します。
③	シフトポジション表示	オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します。 選択しているシフトポジションは反転表示されます（▷125 ページ）。
④	ギアレンジ表示	ティップシフトのときに選択しているギアレンジを表示します（▷127 ページ）。
⑤	走行モード表示	オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷126 ページ）。

タイヤ空気圧警告システム画面

詳しくは（▷251 ページ）をご覧ください。

冷却水温度画面

イグニッション位置が **2** のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押して、冷却水温度画面を表示させます。

ⓘ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ⓘ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が右端付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷284、285 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

サブスピードメーター / 外気温度表示画面

① サブスピードメーター
② 外気温度

走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷144 ページ）で行ないます。

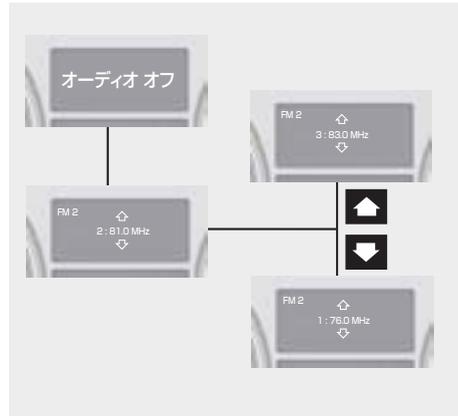
サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷134 ページ）。

▶ [▲] または [▼] を押して、サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させます。

ⓘ サブスピードメーターの表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷143 ページ）。

メンテナンスインジケーター画面

詳しくは（▷262 ページ）をご覧ください。

オーディオ

ラジオ使用時の例

オーディオ（ラジオ、CD、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力など）、テレビ、DVD ビデオの使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、[▲] または [▼] を押すと、各ソースの選局 / 選曲などができます。

ⓘ 外部入力を選択しているときは、外部入力機器の操作はできません。

音量調節

▶ [+] または [−] を押すと、音量を調節できます。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ナビゲーション・進行方向方位表示

COMAND システムのナビゲーション機能でルート案内を行なっているときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

車高レベル表示 *

AIR マティックサスペンション * の車高レベルを表示します。

車高レベル表示画面

① 車高レベル表示

車高レベル表示画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車高レベル表示画面を表示させます。

詳しくは（▷167 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障表示

①	故障件数画面 （この例では、1 件故障があります）
②	故障 / 警告メッセージ画面の例

故障や異常が発生したとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が発生したときは、故障 / 警告メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの [画面切替] [画面切替] や [▲] [▼] またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ [画面切替] または [画面切替] を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [▲] または [▼] を押して、故障 / 警告メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

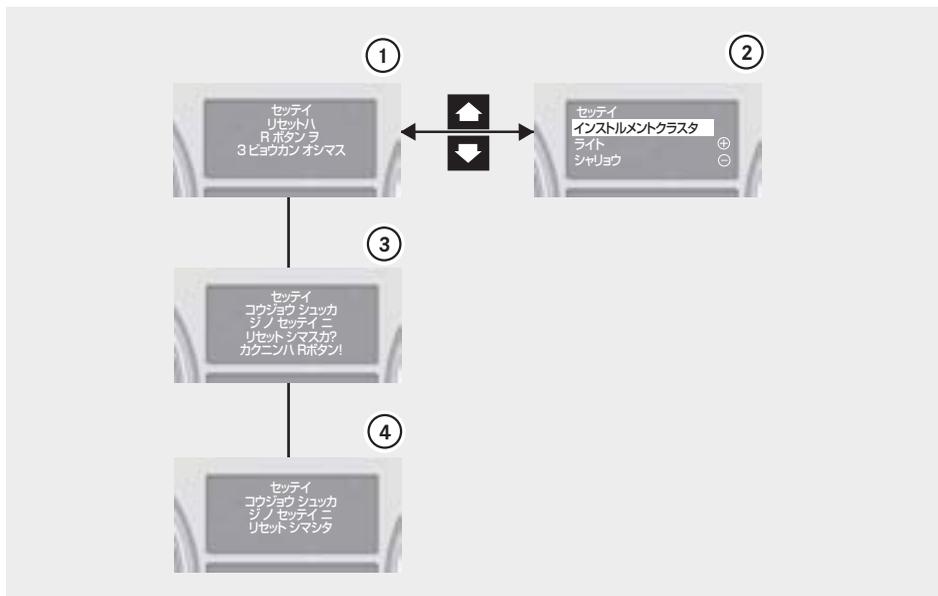
故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> - 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
> - 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

❗ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷277 ページ）をご覧ください。

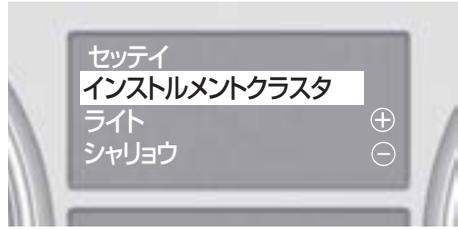
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	140
②	設定グループ選択画面	140
③	各種設定項目の初期化画面	141
④	各種設定項目の初期化完了画面	141

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[▲] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

▶ [▲] または [▼] を押して、設定項目画面を選択します。

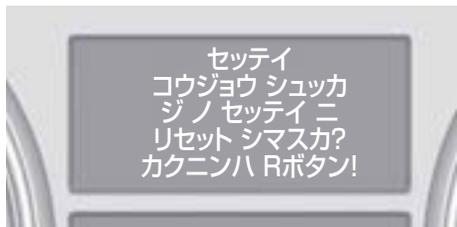
設定項目を選択する

機能のオン / オフを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定項目の初期化

初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷140 ページ）。

▶ リセットボタン（▷130 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

▶ 初期化画面の表示中 (約 5 秒以内) に、再度リセットボタンを押します。

初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

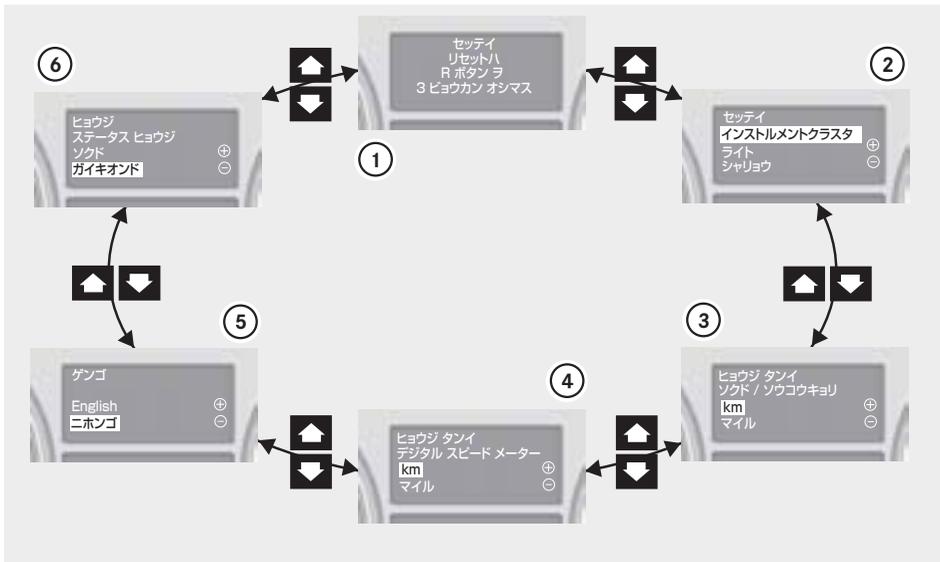
ℹ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ℹ 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときに各種設定項目の初期化を行なうことはできません。このときはマルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ｴﾝｼﾞﾝｻﾄﾞｳﾁｭｳﾊ ｺｳｼﾞｮｳ ｼｭｯｶｼﾞ ﾉ ｾｯﾃｲ ﾆ ﾘｾｯﾄ ｽﾙｺﾄﾊﾃﾞｷﾏｾﾝ !" と表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

インストルメントクラスタ

①	各種設定メイン画面	140
②	設定グループ選択画面	140
③	速度・距離単位設定画面	143
④	サブスピードメーター単位設定画面	143
⑤	ディスプレイ言語設定画面	144
⑥	車両情報サブ画面の表示設定画面	144

設定グループ選択画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷140 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

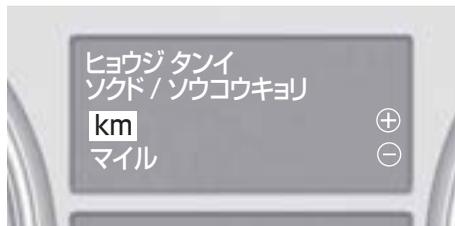
▶ または を押して、"インストルメントクラスタ" を反転表示にします。

設定項目画面を表示させる

▶ または を押します。

インストルメントクラスタの各設定項目画面が表示されます。

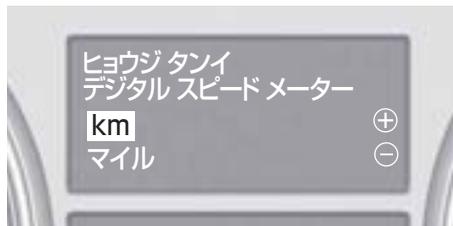
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

速度・距離単位設定画面

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
ﾏｲﾙ	表示が mph、マイル、MI になります。

！1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

サブスピードメーター単位設定画面

マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター（▷136 ページ）の表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	km/h 表示になります。
ﾏｲﾙ	mph 表示になります。

！1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

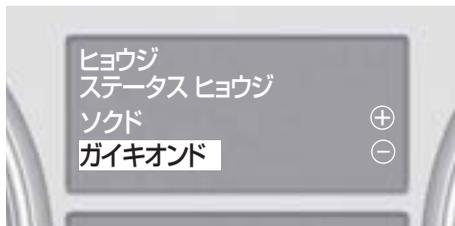
ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。

ℹ この画面で設定した言語をCOMANDシステムにも適用できます。詳細については、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。

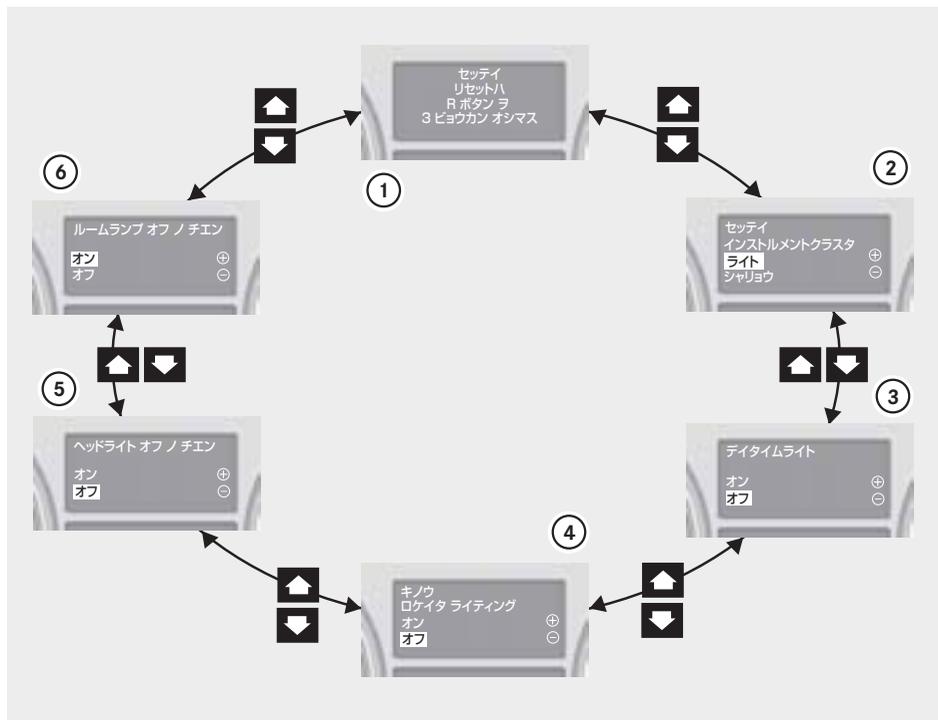
車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面（外気温度表示）

車両情報サブ画面に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	車両情報サブ画面の表示がサブスピードメーターになります。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター／外気温度表示画面（▷136ページ）には外気温度が表示されます。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター／外気温度表示画面（▷136ページ）にはサブスピードメーターが表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ライト

①	各種設定メイン画面	140
②	設定グループ選択画面	140
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	146
④	ロケイターライティング設定画面	146
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	147
⑥	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	147

設定グループ選択画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷140 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に ▲ を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ + または − を押して、" ライト " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ ▲ または ▼ を押します。

ライトの各設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

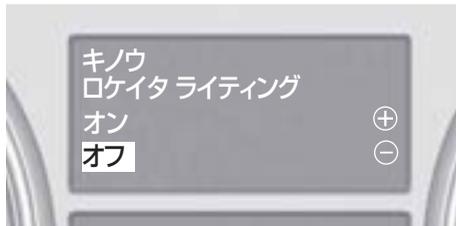
▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	常時点灯モードです。 ランプスイッチを 0 か AUTO の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。
ｵﾌ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

! 安全のため、エンジンがかかっているときは設定を変更することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ﾊ ｴﾝｼﾞﾝ ｵﾌ ﾉﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ " と表示されます。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ℹ 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

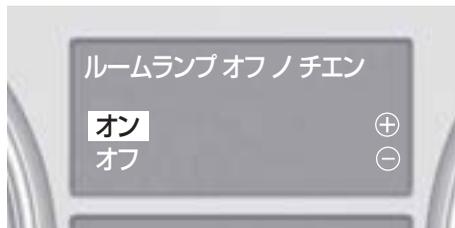
ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷67 ページ）をご覧ください。

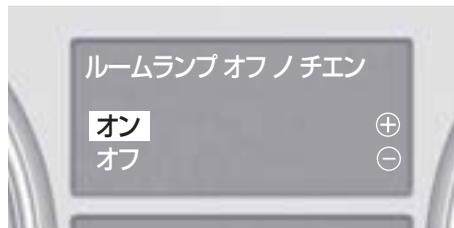
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷102 ページ）をご覧ください。

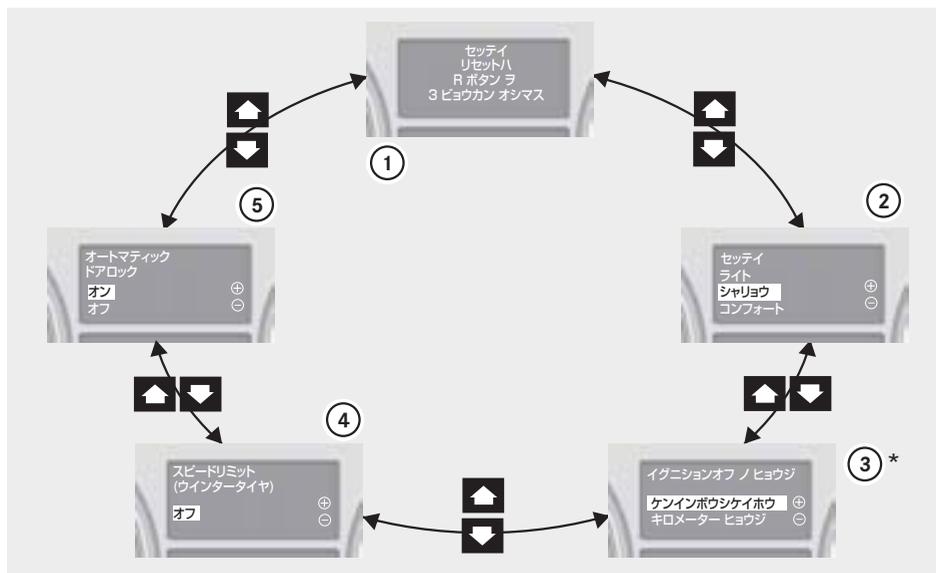
ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷105 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	140
②	設定グループ選択画面	140
③	エンジン停止時の表示設定画面 *	149
④	ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面	150
⑤	車速感応ドアロック設定画面	150

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（▷140 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

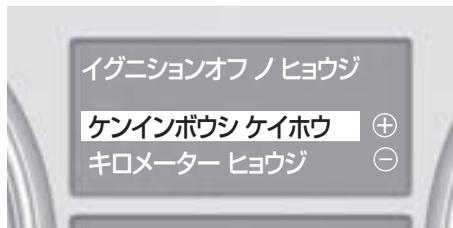
設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [▲] または [▼] を押します。

シャリョウの各設定項目画面が表示されます。

エンジン停止時の表示設定画面 *

イグニッション位置を **0** にしたときやエンジンスイッチからキーを抜いたとき、最初に表示される画面の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ケンインボ゛ウシケイホウ	けん引防止警報機能 * のオン / オフ画面になります。
キロメーターヒョウジ゛	車両情報メイン画面になります。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはキーを抜いてから約 2 分間は、[▲] [▼] または [ボタン] [ボタン] を押すたびに、けん引防止警報機能のオン / オフ画面と車両情報メイン画面に切り替えることができます。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはキーを抜いてから約 2 分間経過すると、けん引防止警報機能を解除したり、待機状態にすることはできなくなります。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

ℹ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。詳しくは（▷163 ページ）をご覧ください。

▶ ＋ または － を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車速感応ドアロック設定画面

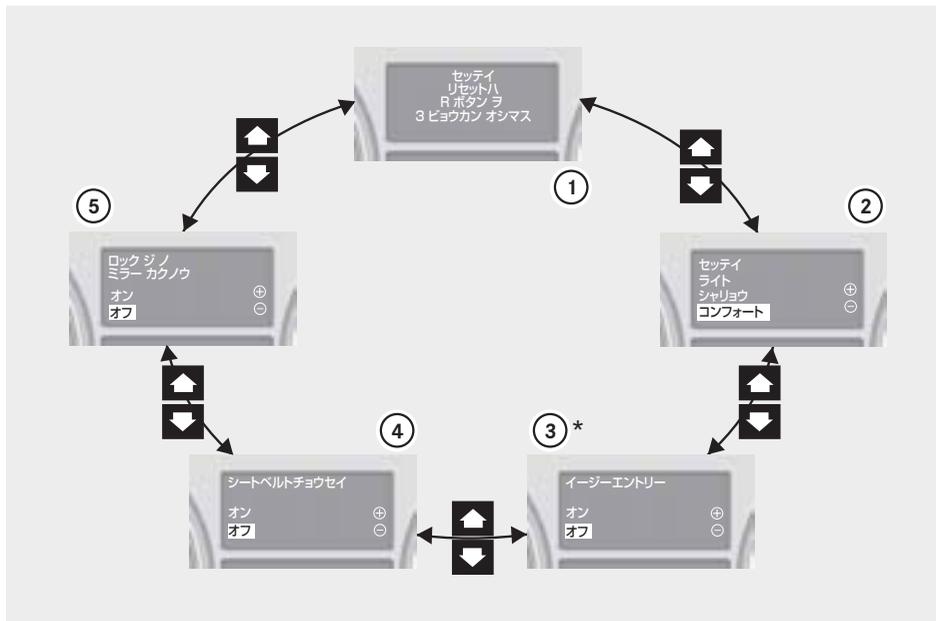
走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷69 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

①	各種設定メイン画面
②	設定グループ選択画面
③	イージーエントリー設定画面 *
④	フロントシートベルトのテンション自動調整機能設定画面
⑤	施錠時のドアミラー格納設定画面

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷140 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" コンフォート " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [▲] または [▼] を押します。

コンフォートの各設定項目画面が表示されます。

イージーエントリー設定画面 *

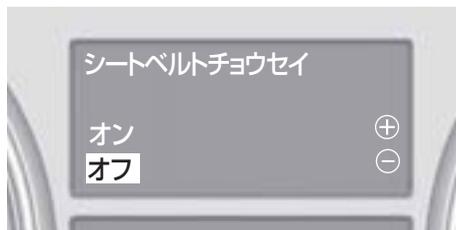
運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（▷89 ページ）をご覧ください。

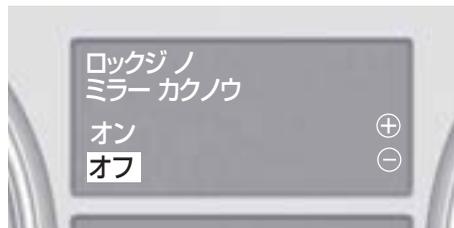
* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能設定画面

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イグニッション位置が **2** のときに、フロントシートベルトのテンションが自動的に調整されます。
オフ	フロントシートベルトのテンションは調整されません。

詳しくは（▷98 ページ）をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納設定画面

車の施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

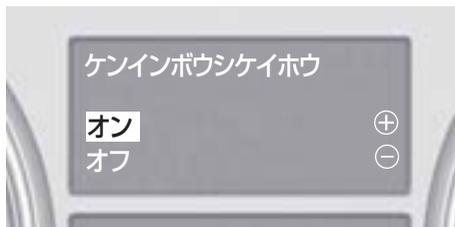
表示	設定内容
オン	施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷92 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両設定 *

盗難防止警報システムのけん引防止警報機能 * を設定できます。

けん引防止警報機能設定画面

けん引防止警報機能設定画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、けん引防止警報機能設定画面を表示させます。

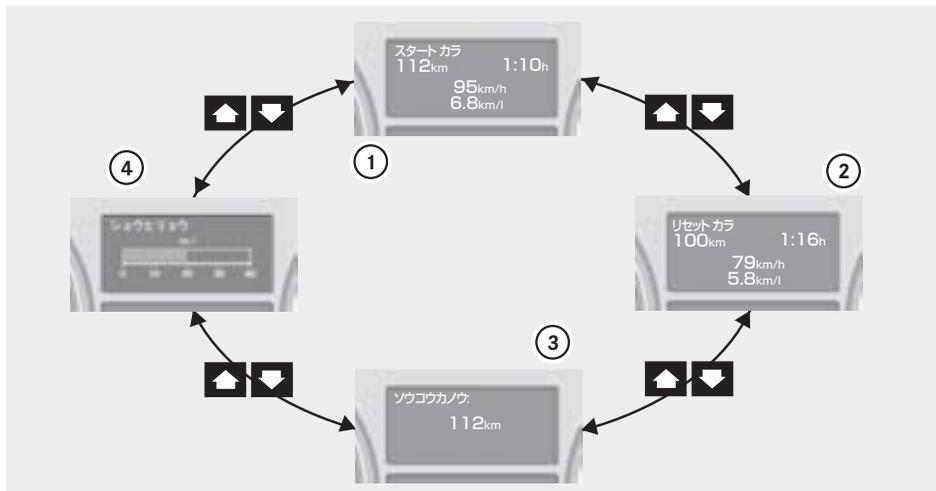
▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	けん引防止警報機能が待機状態になります。
オフ	けん引防止警報機能が解除されます。

ⓘ エンジン停止時の表示設定画面（▷149 ページ）が " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ " のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " または " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ " と表示されます。このとき [+] か [−] を押すと、けん引防止警報機能を待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷56 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

①	ショートトリップメーター画面
②	ロングトリップメーター画面
③	走行可能距離画面
④	瞬間燃費画面

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ ショートトリップメーターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッション位置を **0** にしてから、またはキーを抜いてから約 4 時間経過後
- 999 時間経過後
- 9,999km/ マイル走行後

ショートトリップメーターは、手動でもリセットできます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷130 ページ）を押し続けます。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷155 ページ）。

▶ [▼] を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ℹ ロングトリップメーターは、リセットから、99,999km 走行後、または 9,999 時間経過後に自動的にリセットされます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷130 ページ）を押し続けます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

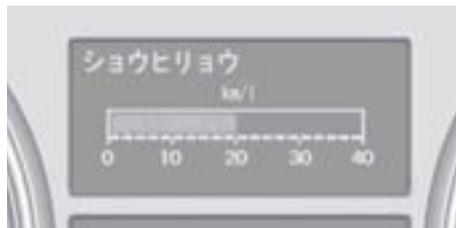
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷155 ページ）。

▶ [↓] を押して、走行可能距離画面を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されるか、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

瞬間燃費画面

そのときの瞬間燃費を km/l 単位で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

瞬間燃費画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷155 ページ）。

▶ [↓] を押して、瞬間燃費画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth 接続またはケーブル接続 * で携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。

⚠ **事故のおそれがあります**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

電話画面を表示させる

▶ ▭ または ▭ を押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ ☎ を押します。

電話を受信できます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ ☎ を押します。

電話を切断できます。

電話番号からの発信

COMAND システムの電話帳に登録してある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、▲ または ▼ を押して、発信先を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ ☎ を押します。

発信履歴からの発信

▶ マルチファンクションディスプレイに " ﾏﾁｳｹ " と表示されているときに ☎ を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ ▲ または ▼ を押して、発信先を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ ☎ を押します。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

- クルーズコントロール

  設定速度を自動的に維持して走行できます。

- 可変スピードリミッター

  設定速度を超えないように走行できます。

- AIR マティックサスペンション

  運転のスタイルや路面状況などに応じてサスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

- 4MATIC

  走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

- パークトロニック

  車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

- サイドビューカメラ

  助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を COMAND ディスプレイに表示します。

- パーキングアシストリアビューカメラ

  車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助します。

ABS、BAS、ESP、EBV については、走行安全装備（▷48 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 事故のおそれがあります

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

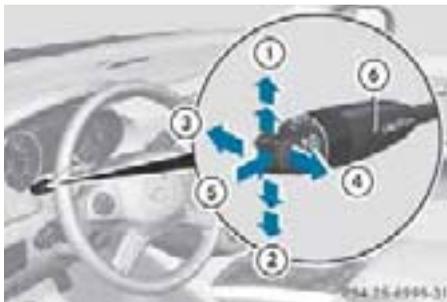
路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキペダルの動きを妨げるおそれがあります。

また、物やフロアマットなどで、ブレーキペダルの動きが妨げられないことを走行前に確認してください。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷280 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロールの使いかた

①～⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（▷163 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認して、希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作します。

そのときの速度にクルーズコントロールが設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速をして事故を起こすおそれがあります。

⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ " と設定速度⑦が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

ℹ 走行速度が約 30km/h 以下のときや、ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると記憶された速度は消去されます。

ℹ クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ " と設定速度が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

! レバーを①の方向に操作してクルーズコントロールの設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ " と設定速度が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

⚠ **事故のおそれがあります**

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキペダルの動きを妨げるおそれがあります。

また、物やフロアマットなどで、ブレーキペダルの動きが妨げられないことを走行前に確認してください。

ℹ レバーを②の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、設定速度に戻ります。

クルーズコントロールを解除する

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

⚠ **事故のおそれがあります**

クルーズコントロールはシフトポジションを N にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ⓘ 以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- シフトポジションを N にしたとき
- ESP が作動したとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ" と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは自動的に解除されます。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は 30km/h から 210km/h または 250km/h の間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度では走行できません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 車種や仕様により設定できる制限速度が異なる場合があります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの動きを妨げるおそれがあります。

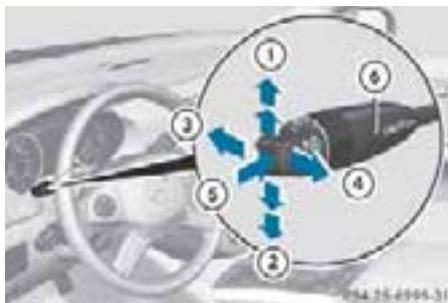
また、物やフロアマットなどで、ブレーキペダルの動きが妨げられないことを走行前に確認してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷280 ページ）をご覧ください。

i ウィンタータイヤスピードリミッター（▷150 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

i 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄﾃﾞ ｺｴﾏｼﾀ" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（▷159 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーを①または②の方向に軽く操作します。

- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは 30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に再度設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ 設定速度
⑧ 可変スピードリミッター表示灯

マルチファンクションディスプレイに "リミット" と設定速度⑦が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

また、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯⑧が点灯します。

ℹ 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ 車種や仕様により、走行速度が記憶されている設定速度より約 60km/h 以上高いときは、記憶されている速度には再度設定できません。このときはマルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ℹ アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターは設定できません。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- 前回の設定速度が走行速度よりも低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。"リミット" と設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。"リミット" と設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。

ℹ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

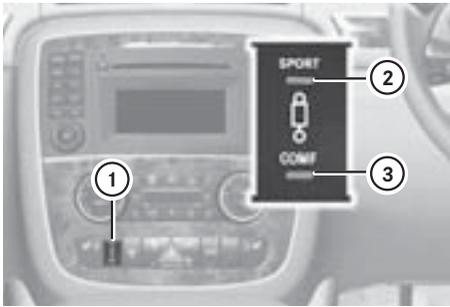
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。ただし、走行速度が設定速度より約 20km/h 以上低いときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
- エンジンを停止したとき

AIR マティックサスペンション *

運転スタイルや路面状況などに応じて、サスペンション制御や車高を最適な状態に自動調整します。

AIR マティックサスペンションは、ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）およびレベルコントロールにより構成されています。

ADS

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯（スポーツ）
③ 表示灯（コンフォート）

運転スタイルや路面状況、選択したサスペンションモードやレベルコントロールで選択した車高により、サスペンションを自動制御します。

また、サスペンションモード選択スイッチ①で 3 種類のサスペンションモードを選択できます。

サスペンションモードを選択する

エンジンがかかっているときに、サスペンションモードを選択することができます。

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードが SPORT → COMF → AUTO → SPORT と切り替わります。

ⓘ エンジンを再始動したときも、選択したサスペンションモードは記憶されます。

点灯する表示灯	モード	作動内容
消灯	AUTO	通常走行用のモードです。
②	SPORT（スポーツ）	スポーティな走行に適したモードです。
③	COMF（コンフォート）	快適性を重視した走行に適したモードです。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

レベルコントロール

運転状況により車高を自動制御します。

また、悪路などを走行するときは、車高を上げることにより最低地上高を確保できます。

! 悪路などを走行するときは、レベルコントロールで車高を上げて、十分な地上高を確保してください。車両を損傷するおそれがあります。

! 連続して車高を調整しないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。

! マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷283、284 ページ）をご覧ください。

i 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。

i 停車中は、車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物などの重量に応じて車高が調整されることがあります。

i エンジンを停止した状態で長時間停車していたときなどは、車高が調整できないことがあります。このときはエンジンをかけてしばらくしてから操作してください。

i エンジンを停止しても、選択した車高レベルは記憶されます。

各車高レベルと車高の変化

各車高レベルにより、車高は以下のように変化します。

車高レベル	車高
ハイウェイレベル	標準－約 20mm
通常走行レベル	0mm（標準）
オフロードレベル	標準＋約 50mm

ハイウェイレベル

約 140km/h 以上の速度で走行するか、約 120 ～ 140km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、ハイウェイレベルになります。

速度が約 60km/h 以下になると、車高は通常走行レベルに戻ります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

オフロードレベル

悪路を走行するときは、オフロードレベルにして車高を上げます。

約 40km/h 以下で走行しているときに、通常走行レベルからオフロードレベルにできます。

※ 上記の数値は取扱説明書作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 通常は、オフロードレベルで走行しないでください。車高が上昇すると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- オフロードレベルにしたときは急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

環　境

オフロードレベルにすると、燃費に悪影響を及ぼします。

① 車高調整スイッチ
② 表示灯

通常走行レベルからオフロードレベルにする

ⓘ 約 40km/h 以上で走行しているときに、通常走行レベルからオフロードレベルにしようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに、" ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼｮｳﾌｶ " と表示されます。

③ 車高上昇インジケーター

▶ エンジンを始動します。

車高調整スイッチの表示灯が消灯していることを確認します。

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

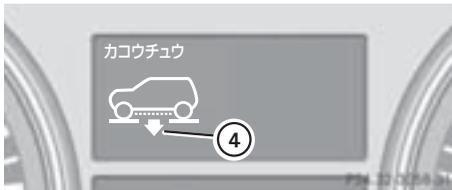
表示灯②が点滅し、車高が上がり始めます。

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター③と " ｼﾞｮｳｼｮｳ " が表示されます。

車高が上昇している途中で、ステアリングスイッチの ⊟ ⊟ または ▲ ▼ を押すと、マルチファンクションディスプレイは元の表示に戻ります。

オフロードレベルになると、マルチファンクションディスプレイに "ﾚﾍﾞﾙ Hi" と表示され、スイッチの表示灯②が点灯します。

マルチファンクションディスプレイを車高レベル表示画面（▷137 ページ）以外の画面にしていたときは、数秒後に元の表示に戻ります。

オフロードレベルから通常走行レベルにする

④ 車高下降インジケーター

▶ ドアが閉じていないことを確認します。

▶ エンジンを始動します。

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

表示灯②が点滅し、車高が下がり始めます。

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター④と " ｶｺｳﾁｭｳ " が表示されます。

車高が下降している途中で、ステアリングスイッチの ［▭］［▭］ または ［▲］［▼］ を押すと、マルチファンクションディスプレイは元の表示に戻ります。

通常走行レベルになると、マルチファンクションディスプレイに "AIR ﾏﾃｨｯｸ " と表示され、スイッチの表示灯②が消灯します。

マルチファンクションディスプレイを車高レベル表示画面（▷137 ページ）以外の画面にしていたときは、数秒後に元の表示に戻ります。

⚠ **けがのおそれがあります**

オフロードレベルから通常走行レベルにするときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

! オフロードレベルから通常走行レベルにするときは、十分な最低地上高が確保されていることを確認してください。車体を損傷するおそれがあります。

ℹ いずれかのドアが開いているときは、車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

ℹ オフロードレベルのときに、走行速度が約 40km/h を超えると、オフロードレベルは自動的に解除され、通常走行レベルになります。

4MATIC

4MATICは、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする4輪駆動システムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 4MATICは車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4MATIC車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。
- 運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 滑りやすい路面などでいずれかのタイヤが空転したときは、アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
  ◇ 急ハンドル
  ◇ 急ブレーキ
  ◇ 急発進、急加速
  ◇ 急激なエンジンブレーキ

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約10秒以内にしてください。また、イグニッション位置を**0**か**1**にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず2軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、4MATICの効果が発揮されます。

パークトロニック

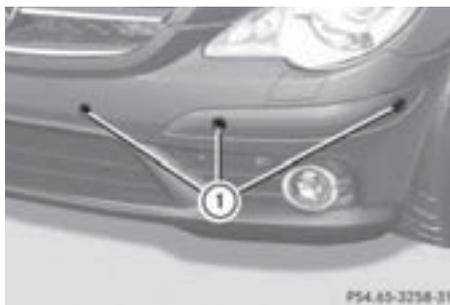
パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

⚠ 事故のおそれがあります

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ けがのおそれがあります

周辺に人や動物がいないことを確認してください。

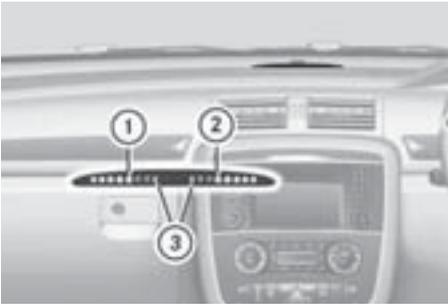
パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

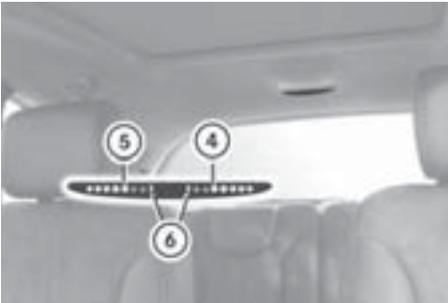
フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーが車の周辺の障害物などを感知します。

リア
② センサー

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。

! センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ 作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はサードシート上方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離をインジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③とリアの作動表示灯⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。

ⓘ パークトロニックは、走行速度が約 17km/h 以下のときに作動します。走行速度が約 17km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

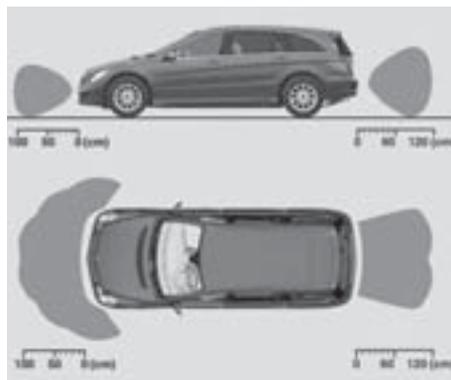
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車のセンターでバンパーから約 20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

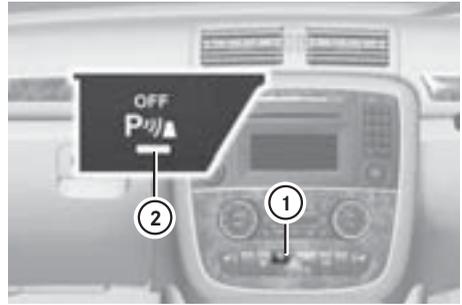
! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除することができます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i パークトロニックの機能を解除しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

サイドビューカメラ

助手席側ドアミラー下部に装着されたカメラにより、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を、COMAND ディスプレイに表示します。

また、ガイドラインにより、カーブなどでの走行を補助します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- サイドビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はサイドビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- サイドビューカメラ使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- COMAND ディスプレイの映像には近くにある障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て発進や路肩への幅寄せなどをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

  サイドビューカメラ使用時においても、目視による安全確認を行ないながら運転してください

! 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! ボディ側面前方や後方にある物はCOMAND ディスプレイには表示されません。

! 外気温度が低いときは、COMAND ディスプレイが暗くなったり、映像が薄くなることがあります。また、動いている物の映像が歪んだり、COMAND ディスプレイに表示されないことがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ドアを開閉するときやドアミラーを格納 / 展開するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! カメラやカメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。カメラが故障したり、カメラの取り付け位置や角度がずれるおそれがあります。

! ドアミラーやカメラを損傷したり、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

! カメラの修理および調整は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときや、" ガイドできません。オーナーズマニュアルを参照ください " というメッセージが表示されたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

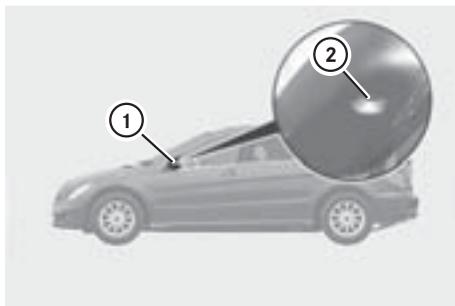
! 以下のような場合は、サイドビューカメラは正常に作動しません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき
- 激しい雨や雪が降っているとき、または霧のとき
- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入るときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

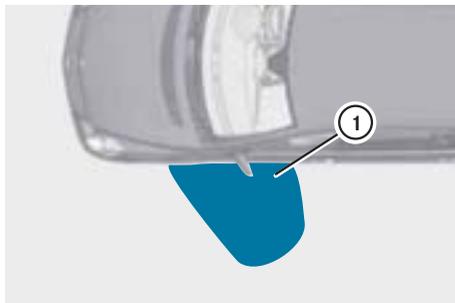
洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

サイドビューカメラの位置

右ハンドル車
① 助手席側ドアミラー
② サイドビューカメラ

サイドビューカメラ②は助手席側ドアミラー①の下部に装備されています。

サイドビューカメラの表示範囲

右ハンドル車
① サイドビューカメラの表示範囲

サイドビューカメラは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の範囲①を表示します。

サイドビューカメラの作動と停止

サイドビューカメラを作動させる

イグニッション位置が **2** のときにサイドビューカメラを作動させることができます。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面になります。

設定基本画面

▶ " ｻｲﾄﾞﾋﾞｭｰｶﾒﾗ " を選択します。

COMAND ディスプレイに、サイドビューカメラの映像とガイドラインが表示されます。

サイドビューカメラを停止する

▶ コントロールスティックを押すか、COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

設定基本画面に戻ります。

または

▶ COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンを押します。

それぞれのボタンに応じた画面になります。

ℹ COMAND システムをオフにしたり、イグニッション位置を **2** 以外にすると、サイドビューカメラが停止します。

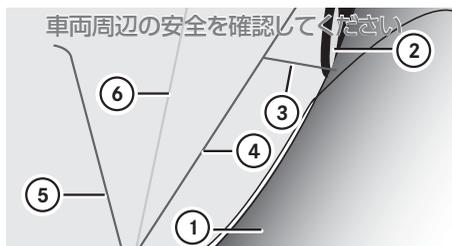
再度 COMAND システムをオンにしたり、イグニッション位置を **2** にするとサイドビューカメラが作動します。

サイドビューカメラの映像

走行速度が約 20km/h を超えると、サイドビューカメラの映像は表示されなくなります。

このときは、ディスプレイに " 安全のため、走行中は利用できません。" と表示されます。

走行速度が約 15km/h 以下になると、サイドビューカメラの映像は再び表示されます。

ガイドライン

右ハンドル車
① 自車
② 助手席側フロントタイヤ

③	助手席側フロントホイールの中心位置を表示するガイドラインです。
④	助手席側の車体から約 25 ～ 30cm の位置を表示するガイドラインです。
⑤	ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドラインです。
⑥	現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドラインです。 ステアリング操舵角が変化すると、角度が変化します。

ガイドライン⑤および⑥は以下のときには表示されません。

- 助手席方向にまわしたステアリング操舵角が約 90° 以下のとき
- ステアリングが運転席方向にまわしてあるとき
- シフトポジションが R のとき

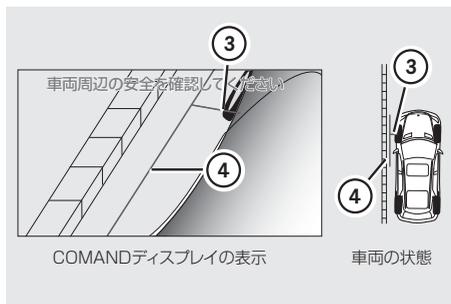
また、以下のときはガイドライン③および④も表示されません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき

  ディスプレイに " 助手席側ドアが開いているため ガイドできません。" と約 6 秒間表示されます。

- 助手席側ドアミラーが格納されているとき

  ディスプレイに " ドアミラーが格納されているため ガイドできません。" と約 6 秒間表示されます。

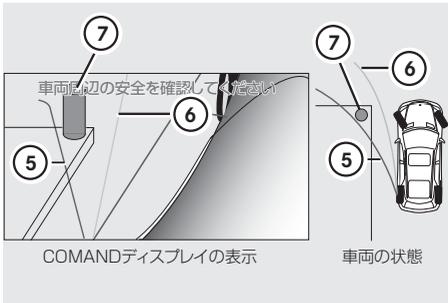
路肩などに車を寄せるとき

③ 助手席側フロントホイールの中心を表示するガイドライン（青色）
④ 助手席側の車体から約 25 ～ 30cm の位置を表示するガイドライン（青色）

路肩などに車を寄せるときに、車体と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認できます。

▶ 左図のように、ガイドライン④が目標物の端に接するように車両を幅寄せします。

▶ ガイドライン④を目標物と平行にすることで、目標物に沿って駐車できます。

ガイドライン③の位置により、助手席側フロントホイールのおよその位置を知ることもできます。

障害物のあるカーブを曲がるとき

⑤ ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（青色）
⑥ 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（黄色）
⑦ 障害物

事故のおそれがあります

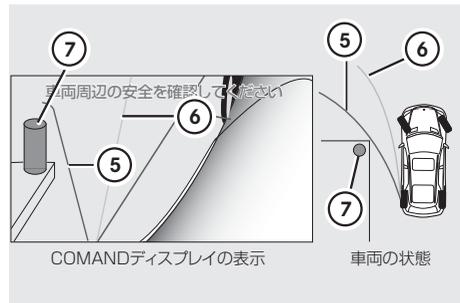
- ディスプレイの表示はあくまで目安です。走行するときはディスプレイの表示だけに頼らず、必ず周囲の状況を直接確認してください。
- ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

助手席側に障害物があるカーブを曲がるときに、車体の予想進路と障害物との位置関係の目安を確認できます。

▶ ステアリングを助手席側にまわします。

左図のように、ガイドライン⑥が障害物⑦より外側にくるときは、車体と障害物が接触しない目安になります。

ただし、よりステアリングを助手席側にまわし、ガイドライン⑥が障害物と重なったり、障害物よりも内側にくると、車体と障害物が接触するおそれがあります

ガイドライン⑥が障害物より外側にくるようにステアリング操舵角を調整して走行してください。

上図のように、ガイドライン⑤が障害物⑦より外側にあるときは、ステアリングをいっぱいまでまわして曲がっても、車体と障害物が接触しない目安になります。

車両の操作

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はパーキングアシストリアビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- システムの特性上、COMAND ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を確認してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、パーキングアシストリアビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! COMAND ディスプレイに表示される物などが歪んだ形状で表示されたり、鮮明に表示されないことがあります。

! リアバンパーの至近距離や下方にある物は COMAND ディスプレイには表示されません。

運転者は COMAND ディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。特に周囲に人や動物がいないことを確認してください。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときは正常に作動しません。

- テールゲートが完全に閉じていないとき
- カメラやカメラの周囲に損傷があるとき

! テールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 激しい雨や雪が降っているときやカメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦でない、または直線でない道路

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! カメラや車の後部を損傷したときや、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

洗車するときの注意

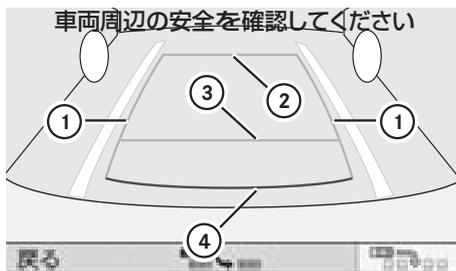
- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷することがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

① カメラ

カメラ①はテールゲートハンドルの横に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

ｉ テールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でパーキングアシストリアビューカメラを作動させたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。

このときは COMAND ディスプレイに " テールゲートが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

！ 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

！ 障害物に向かって後退しているときは、0.25m ガイドライン④を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン④まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

！ ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

ｉ 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき（ガレージに出入りするときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

後退駐車モード

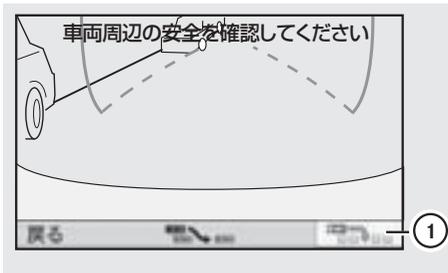
駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、後退操作を補助をするモードです。

後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

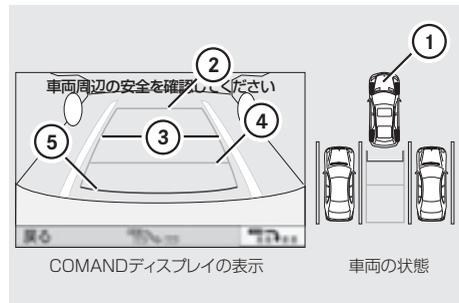
COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、後退駐車アイコン ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 後退駐車アイコン

後退駐車時のガイドラインが表示されます。

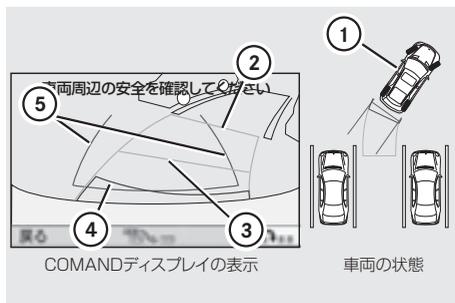
" 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないでまっすぐ後退駐車する

① 自車位置
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 予想進路ガイドライン（黄色）
④ 1.0m ガイドライン（黄色）
⑤ 0.25m ガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン③が駐車スペースに収まっていることを確認し、周囲に注意しながら、まっすぐに後退します。

! ガイドライン内やその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら後退駐車する

① 自車位置
② 予想進路ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）
⑤ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン⑤は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン②は、そのときのステアリングの操舵角で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン②が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

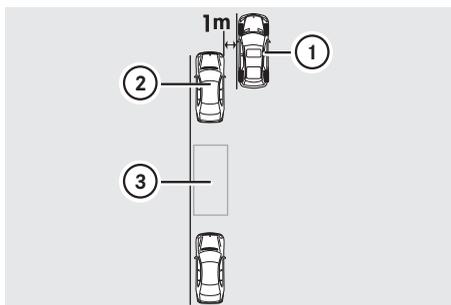
▶ 直進ガイドライン⑤が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

！ ガイドライン内やその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

！ ステアリングをまわして予想進路ガイドライン②の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両②から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両②の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

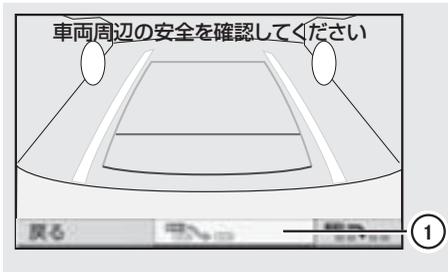
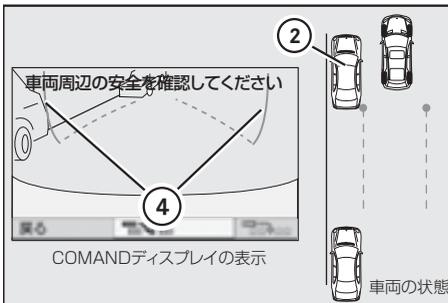
ステアリングは直進状態にします。

ℹ 駐車スペース③の前方に駐車車両②がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 縦列駐車アイコン

② 駐車スペース前方の駐車車両
④ 垂直ガイドライン

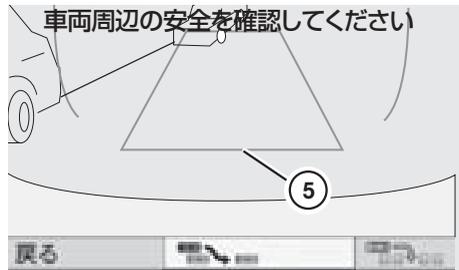
縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

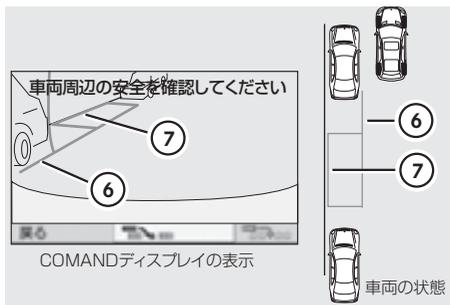
" 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

▶ 垂直ガイドライン④が、駐車スペース前方の駐車車両②の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン④が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン④が駐車車両②の後端から外れていると、正しい位置に駐車することはできません。

⑤ 駐車位置ガイドライン

垂直ガイドラインが表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン⑤が表示されます。

⑥ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑦ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑥が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは " ガイドできません ステアリングを戻してください " と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が消えます。

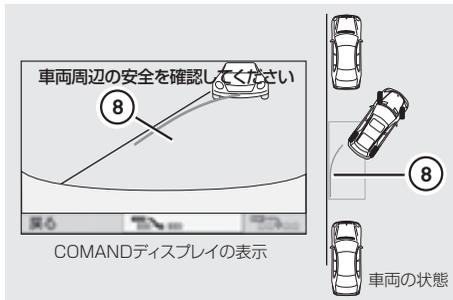
i ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。

i 以下のときはガイドが中止されます。

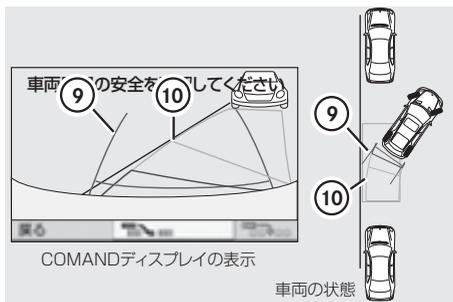
- シフトポジションを **R** 以外にしたとき
- " 戻る " を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に " ガイドできません " または " ガイドできませんステアリングがずれました " と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑧ ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン⑧が表示されます。縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン⑧が合うまで、ステアリングをまわさないでそのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン⑧が正しい位置に合ったら、停車します。

⑨ 直進ガイドライン（青色）
⑩ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン⑨と予想進路ガイドライン⑩が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン⑩が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進状態に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

音声案内の設定

パーキングアシストリアビューカメラ作動時の音声案内を停止 / 作動できます。

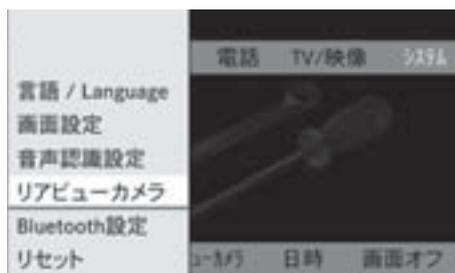
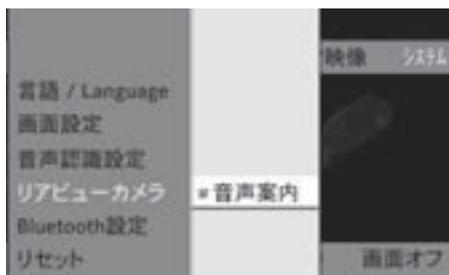
▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面

設定基本画面になります。

▶ " ｼｽﾃﾑ設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

▶ コントロールスティックを押します。

コントロールスティックを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマークが表示されているときは、音声案内が行なわれます。

ⓘ 音声案内の音量は、ステアリングスイッチ ＋ − 、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ **火傷やけがのおそれがあります**

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

ℹ 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * を開くと、短時間で換気できます（▷115 ページ）。

ℹ 除湿された水分は車体下方に排水されます。

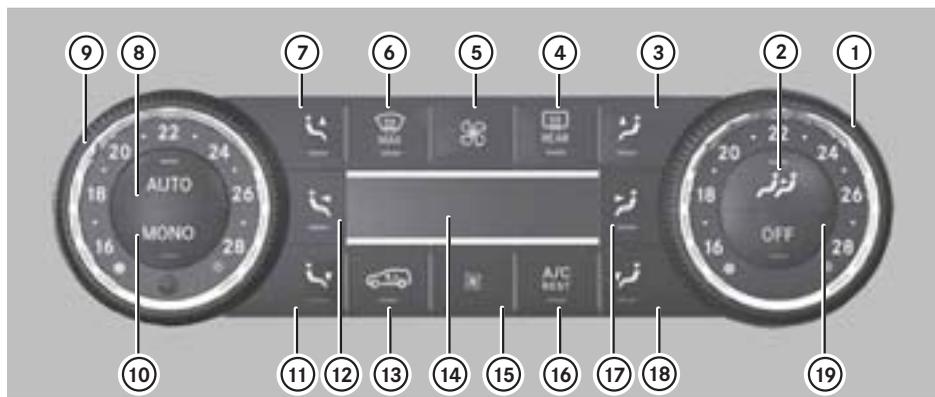
ℹ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

ℹ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

ℹ エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

ℹ エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

コントロールパネル

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（右側）
②	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
③	送風口選択スイッチ （右側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
④	リアデフォッガースイッチ
⑤	送風量調整スイッチ（強）
⑥	デフロスタースイッチ
⑦	送風口選択スイッチ （左側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑧	AUTO スイッチ
⑨	送風温度調整ダイヤル（左側）
⑩	運転席モードスイッチ

	名称
⑪	送風口選択スイッチ （左側：足元 / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑫	送風口選択スイッチ （左側：サイド / 中央 / ドアウインドウ送風口）
⑬	内気循環スイッチ
⑭	ディスプレイ
⑮	送風量調整スイッチ（弱）
⑯	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑰	送風口選択スイッチ （右側：サイド / 中央 / ドアウインドウ送風口）
⑱	送風口選択スイッチ （右側：足元 / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑲	オフスイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた（AUTO モード）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯して、エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させると、自動的に AC モード（▷196 ページ）に設定されます。

ℹ エアコンディショナーが停止しているときに、オフスイッチ⑲を押すと、停止前の設定で作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑲を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、エアコンディショナーが停止します。

再度、オフスイッチ⑲を押すと、表示灯が消灯し、元の設定で作動します。

ℹ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

送風温度の調整

送風温度を調整する

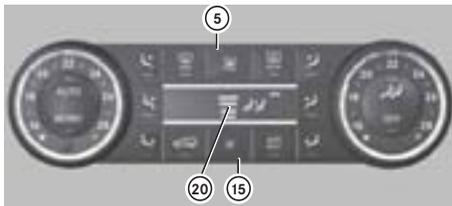
▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ 送風温度は左右別々に設定できます。また、リアエアコンディショナーの送風温度も独立して設定できます（▷201 ページ）。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風量の調整

⑤ 送風量調整スイッチ（強）
⑮ 送風量調整スイッチ（弱）
⑳ 送風量インジケーター

送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑤を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑳の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑮を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑳の点灯数が減ります。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量調整の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 送風量を上げているときに、COMAND システムの音声認識機能を使用すると、送風量が自動的に下がります。音声認識機能が終了すると、送風量は元の設定に戻ります。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ③⑦⑪⑫⑰⑱のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の選択を解除する

▶ 選択されているスイッチを押します。

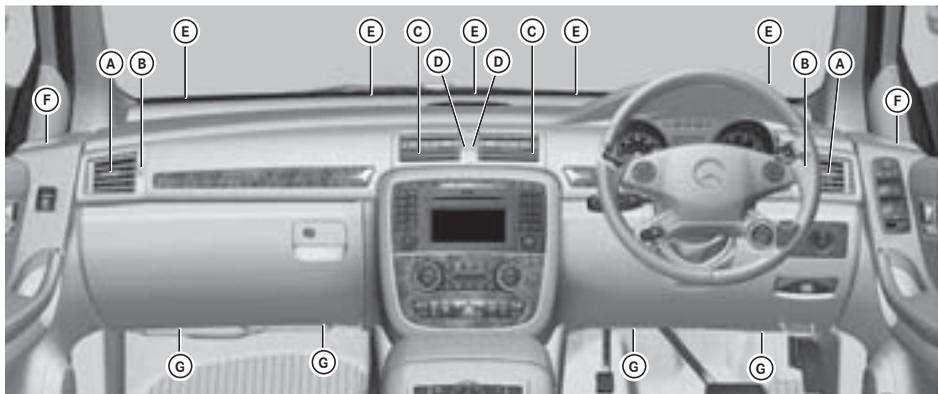
スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風できます。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

ⓘ ウインドウの内側が曇りやすいときは、送風口選択スイッチ③⑦を選択してください。

右ハンドル車

送風口選択スイッチ	主に送風される送風口
③⑦	フロントウインドウ送風口Ⓔ　サイド送風口Ⓐ ドアウインドウ送風口Ⓕ
⑫⑰	サイド送風口Ⓐ　中央送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓕ
⑪⑱	足元送風口Ⓖ　サイド送風口Ⓐ ドアウインドウ送風口Ⓕ

送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは送風口を開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷⒹを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整できます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

事故のおそれがあります

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モードを設定する

▶ 再度、AC スイッチを押します。

スイッチの表示灯が点灯します

ℹ 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。

ℹ AC スイッチを押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * を開閉できます。

事故のおそれがあります

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑬を押します。

内気循環モードに設定され、スイッチの表示灯が点灯します。

パノラミックスライディングルーフ装備車

▶ 内気循環スイッチ⑬をそのまま押し続けます。

押し続けている間、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが閉じます。

けがのおそれがあります

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフを閉じているときに、身体などが挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パノラミックスライディングルーフ非装備車

▶ 内気循環スイッチ⑬をそのまま約 2 秒以上押し続けます。

開いているドアウインドウが自動で閉じます。

けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウやベンチレーションウインドウを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードに設定されていても、一定時間を経過すると以下のように外気導入をはじめます。

条件	時間
外気温度が 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ⑬を押します。

内気循環モードが解除され、スイッチの表示灯が消灯します。

パノラミックスライディングルーフ装備車

▶ 内気循環スイッチ⑬をそのまま押し続けます。

押し続けている間、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフは前回開いていた位置まで、ベンチレーションウインドウは全開の位置まで開きます。

パノラミックスライディングルーフ非装備車

▶ 内気循環スイッチ⑬をそのまま約 2 秒以上押し続けます。

ドアウインドウが前回開いていた位置まで自動で開きます。

⚠ けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれるおそれがあります。

ℹ AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ℹ 外気温度によっては、送風温度が高くならなかったり、送風量が上がらないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーの送風量や送風温度、送風口の選択が元の設定に戻ります。

! ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

i エアコンディショナーが停止しているときも、デフロスタースイッチ⑥を押すと、デフロスターモードでエアコンディショナーが作動します。

i 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

i デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していた場合は AC モードに設定されます。AC モードを解除していて内気循環だった場合は、AC モードに設定され、外気導入になります。

i デフロスターモードに設定すると、リアエアコンディショナー（▷202 ページ）が自動的に停止し、操作できなくなります。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは数分後に自動的に停止します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

i 外気温度と走行状況により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

i バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口の組み合わせや送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑯を押します。

または

▶ オフスイッチ⑲を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑯の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分後
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ 送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ⓘ エンジン冷却水の温度が低いときは、暖気が送風されないことがあります。

ⓘ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ⓘ リア送風口からは送風されません。

運転席モード

助手席およびリアエアコンディショナー（▷202 ページ）の設定の一部を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席およびリアエアコンディショナーの設定も変更されます。

運転席モードに設定する

▶ 運転席モードスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

助手席の送風温度および送風口の選択が運転席の設定に連動します。

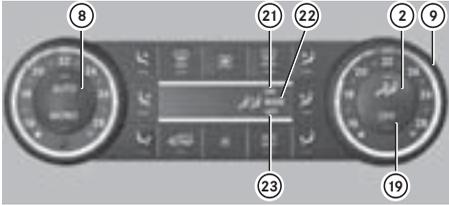
また、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動し、送風温度の設定が運転席の設定に連動します。

運転席モードを解除する

▶ 再度、運転席モードスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 助手席やリアエアコンディショナーの設定を変更したときは、運転席モードは自動的に解除されます。

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作する

②リアエアコンディショナースイッチ
⑧AUTO スイッチ
⑨送風温度調整ダイヤル（右側）
⑲オフスイッチ
㉑リアエアコンディショナー作動インジケーター
㉒リアエアコンディショナーモードインジケーター
㉓リアエアコンディショナー停止インジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを作動 / 停止させたり、リアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

リアエアコンディショナーを作動させる

▶ リアエアコンディショナースイッチ②を押します。

スイッチ②の表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナー作動インジケーター㉑とリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの AUTO スイッチの表示灯（▷202 ページ）が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

ℹ リアエアコンディショナースイッチ②を押してから約 3 秒間何も操作をしないと、この機能は解除されます。

また、リアエアコンディショナースイッチ②の表示灯とディスプレイのリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒も消灯します。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約 3 秒以内に右側の送風温度調整ダイヤル⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

リアエアコンディショナーコントロールパネルの送風温度調整ダイヤルの内側のインジケーターが、設定した送風温度に移動します。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ リアエアコンディショナースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約 3 秒以内にオフスイッチ⑲を押します。

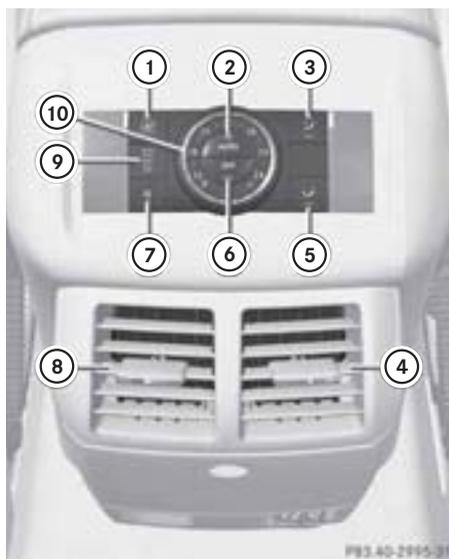
ディスプレイにリアエアコンディショナー停止インジケーター㉓が表示され、リアエアコンディショナーが停止します。

ℹ フロントのコントロールパネルからリアエアコンディショナーの送風口を選択したり送風量を調整することはできません。

ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

リアエアコンディショナー

リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーが作動しているときに作動できます。

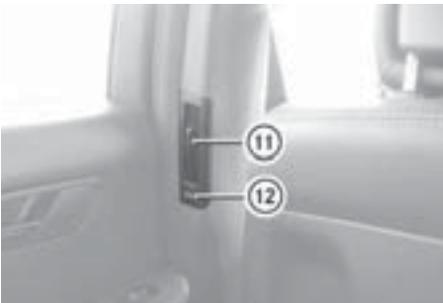
リア中央送風口 / コントロールパネル

①	送風量調整スイッチ（強）
②	AUTO スイッチ
③	送風口選択スイッチ （リア中央送風口 / リアサイド送風口 / サードシート送風口）
④	リア中央送風口（右側）
⑤	送風口選択スイッチ （リアサイド送風口 / リア足元送風口 / サードシート送風口）
⑥	オフスイッチ
⑦	送風量調整スイッチ（弱）

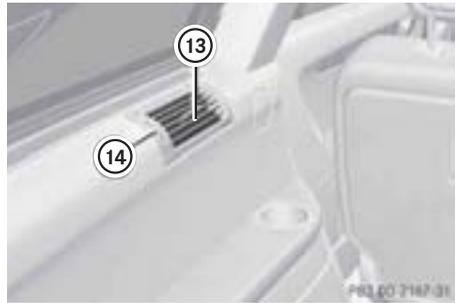
⑧	リア中央送風口（左側）
⑨	送風量インジケーター
⑩	送風温度調整ダイヤル

ℹ フロントシートの下にリア足元送風口があります。

ℹ フロントエアコンディショナーがデフロスターモードのときは、リアエアコンディショナーを作動させることはできません。

ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

リアサイド送風口

⑪ リアサイド送風口（左側）
⑫ 開閉ダイヤル

サードシート送風口

⑬ サードシート送風口（左側）
⑭ 開閉ダイヤル

ℹ サードシート送風口からは暖気は送風されません。送風温度調整ダイヤル⑩で設定温度を上げると送風が停止します。

リアエアコンディショナーの作動 / 停止

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ AUTO スイッチ②を押します。

表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

送風温度を調整する

▶ 送風温度調整ダイヤル⑩をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ リアエアコンディショナーが停止しているときに、オフスイッチ⑥を押すと、停止前の設定で作動します。

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑥を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが停止します。

ⓘ フロントエアコンディショナーの送風量を最大にするときは、リアエアコンディショナーを停止してください。

リアエアコンディショナーの送風量調整

リアエアコンディショナーの送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）①を押します。

送風量インジケーター⑨の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑦を押します。

送風量インジケーター⑨の点灯数が減ります。

ⓘ リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量調整の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ②の表示灯が消灯します。

リアエアコンディショナーの送風口選択

リアエアコンディショナーの送風口を手動で選択できます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ③⑤を押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口選択スイッチ	主に送風される送風口
③	リア中央送風口／リアサイド送風口／サードシート送風口
⑤	リアサイド送風口／リア足元送風口／サードシート送風口

! 中央セカンドシートを折りたたんでいるときは（▷218 ページ）、リア中央送風口からの送風が中央セカンドシートに当たらないようにしてください。暖気が送風されるとシートが高温になり、乗員が火傷をしたり、シートを損傷するおそれがあります。

i リアエアコンディショナーがAUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ②の表示灯が消灯します。再度、送風口選択スイッチを押して、すべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

i 送風口選択スイッチ③と⑤を押すと、組み合わせた送風口から送風できます。

i 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

リア送風口の開閉

リアサイド送風口とサードシート送風口は、送風口を開閉できます。

送風口を開く

▶ 開閉ダイヤル⑫を右側に、開閉ダイヤル⑭を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 開閉ダイヤル⑫を左側に、開閉ダイヤル⑭を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

開閉ダイヤル⑫を左側に、開閉ダイヤル⑭を下側に停止するまでまわすと、送風口が閉じます。

i 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側または下側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

リア送風口の風向き調整

送風口④⑧⑪⑬は、風向きを調節できます。

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

i リア足元送風口の風向きは調整できません。

パノラミックスライディングルーフ *

⚠ 事故やけがのおそれがあります

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフを閉じるときやチルトダウンするときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! スライディングルーフの開口部から、角の尖ったものを出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

i リモコン操作で電動ブラインドとスライディングルーフを開くことができます（▷115 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で電動ブラインドとスライディングルーフを閉じることができます（▷116 ページ）。

i スライディングルーフや電動ブラインドが自動で開いているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、電動ブラインドとスライディングルーフを操作できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、電動ブラインドとスライディングルーフの操作はできなくなります。

ℹ スライディングルーフが開閉できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

① 電動ブラインド / スライディングルーフスイッチ
② 開く
③ 閉じる / チルトダウン
④ チルトアップ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

電動ブラインドを開閉する

電動ブラインドは、スライディングルーフが閉じているときに開閉できます。

電動ブラインドを開く

▶ スイッチ①を②または④の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

電動ブラインドを閉じる

▶ スイッチ①を③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

ℹ 前後の電動ブラインドは独立して開閉できません。

スライディングルーフを開閉する

スライディングルーフを開く

▶ 電動ブラインドを開きます。

▶ スイッチ①を②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

▶ スイッチ①を③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

スライディングルーフをチルトアップする

▶ スイッチ①を④の方向に操作します。

操作している間だけチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スイッチ①を③の方向に操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

スライディングルーフのリセット

以下のときは、スライディングルーフや電動ブラインドが自動で全開しないことがあります。スライディングルーフのリセットを行なってください。

- バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたとき
- スライディングルーフや電動ブラインドがスムーズに開かないとき
- スライディングルーフや電動ブラインドを修理したとき

スライディングルーフをリセットする

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ ラゲッジルームのヒューズボックス（▷332 ページ）から、以下のヒューズを取り外します。

  - f 41（25A）
  - f 42（25A）

▶ 再度、上記のヒューズを差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチを③の方向（▷207 ページ）に操作して電動ブラインドを完全に閉じ、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スイッチを②の方向（▷207 ページ）に操作して電動ブラインドを完全に開き、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スイッチを④の方向（▷207 ページ）に操作してスライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スイッチを③の方向（▷207 ページ）に操作してスライディングルーフを完全にチルトダウンし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スライディングルーフおよび電動ブラインドが自動で全開することを確認します。

自動で全開しないときは、再度リセットを行なってください。

ℹ スライディングルーフのリセットができないときなどは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

荷物の積み方 / 小物入れ

ラゲッジルームに荷物を積むとき

けがのおそれがあります

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどに放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を積むときは、「荷物の固定(▷220 ページ)」もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷345 ページ)を超えないようにしてください。
- ラゲッジルームには極端に重い荷物を積載しないでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルーム前方の低い位置）に確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- 荷物はラゲッジルームに積み、サードシートのバックレスト、シートクッション、またはフロントシートのバックレストに接するようにしてください。
- 荷物はできるだけ乗員のいないシートの後方に積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ⓘ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

 けがのおそれがあります

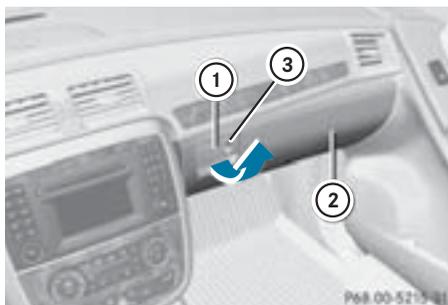
走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車
① ハンドル
② カバー
③ キーシリンダー

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引きます。

カバー②が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

i グローブボックス内には、メディアインターフェース / 外部入力用端子が装備されています。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

i イグニッション位置が **1** か **2** のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

グローブボックスの施錠

キーシリンダー③にエマージェンシーキーを差し込んで施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

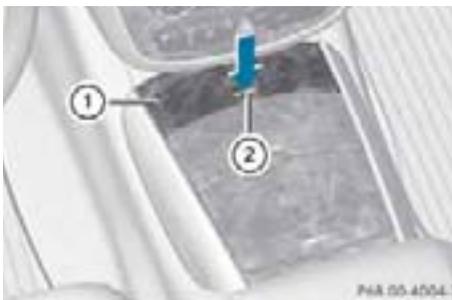
▶ キーを水平位置にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置にまわします。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

センターコンソールの小物入れ

① カバー
② マーク

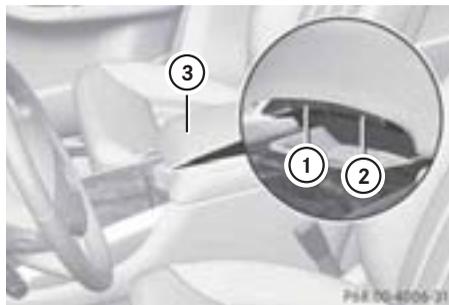
センターコンソールの小物入れを開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

カバー①が開きます。

センターコンソールの小物入れを閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

フロントアームレストの小物入れ

① ボタン（上段）
② ボタン（下段）
③ カバー

フロントアームレストには上段と下段に小物入れがあります。

上段の小物入れを開く

▶ ボタン①を引いてカバー③を開きます。

下段の小物入れを開く

▶ ボタン②を引いてカバー③を開きます。

小物入れを閉じる

▶ カバー③を下げて閉じます。

携帯電話の接続

フロントアームレスト上段の小物入れには、販売店オプションの携帯電話用コネクターを装着することができます。

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ 電話の操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

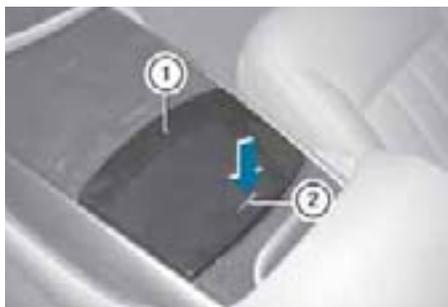
カップホルダー

⚠ 火傷のおそれがあります

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が飛び出して、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。また、火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

センターコンソールのカップホルダー

① カバー
② マーク

センターコンソールのカップホルダーを開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

カバー①が開きます。

センターコンソールのカップホルダーを閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

左側のカップホルダーは容器を固定することができます。

③ ホルダー
④ ボタン

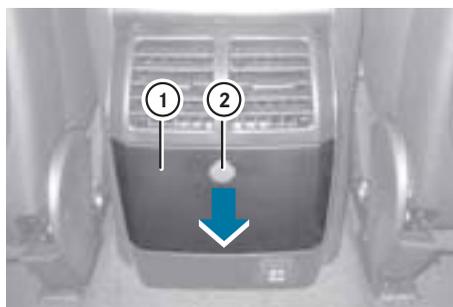
容器を固定する

▶ ボタン④を押します。

ホルダー③が矢印の方向に移動して、容器が固定されます。

容器を取り出す

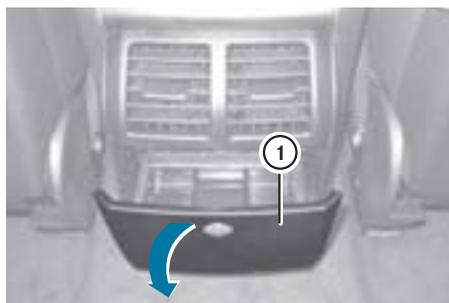
▶ ホルダー③を下方に押しながら、元の位置に戻します。

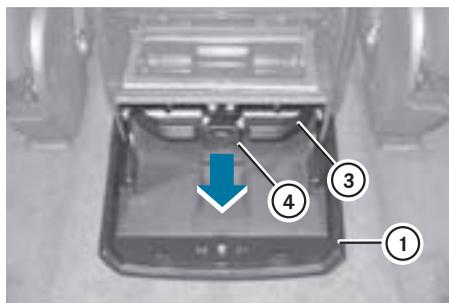
センターコンソール後方のカップホルダー *

① カバー
② ボタン

カップホルダーを使用する

▶ ボタン②を押します。

カバー①が開きます。

※ センターコンソール後方のカップホルダーは本国仕様の装備であり、日本仕様では装備されない場合があります。

① カバー

▶ カバー①の上端を矢印の方向に引き下げます。

① カバー
③ カップホルダー
④ ノブ

▶ ノブ④を持って後方に引き出します。

カップホルダーを収納する

▶ ノブ④を前方に押し込みます。

▶ カバー①の上端を持ち上げ、カバーをロックします。

! カップホルダーを使用しないときや中央セカンドシートを折りたたむときは、カップホルダーを収納し、カバーを閉じてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サードシートのカップホルダー

① カップホルダー（左側）

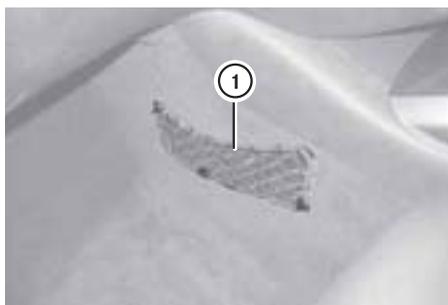
サードシートの左右にカップホルダーを装備しています。

収納ネット

助手席の足元とフロントシートの背面に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

⚠ **けがのおそれがあります**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

右ハンドル車
① 助手席足元の収納ネット

② フロントシート背面の収納ネット

セカンドシート / サードシートの折りたたみ

⚠ **けがのおそれがあります**

重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。ラゲッジルームの荷物などが放り出され、けがをするおそれがあります。
- サードシートに乗車するときは、セカンドシートを折りたたんだり、セカンドシートのバックレストを倒さないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、けがをするおそれがあります。
- セカンドシートやサードシートに乗車するときは、バックレストを起こして、シートを確実にロックしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、けがをするおそれがあります。
- 乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! 中央セカンドシートのバックレストを倒しているときに（▷81 ページ）、左側セカンドシートを折りたたむと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

中央セカンドシートを折りたたむかバックレストを元の位置に戻してから、左側セカンドシートを折りたたんでください。

! 左側セカンドシートを折りたたんでいるときに、中央セカンドシートを折りたたむと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

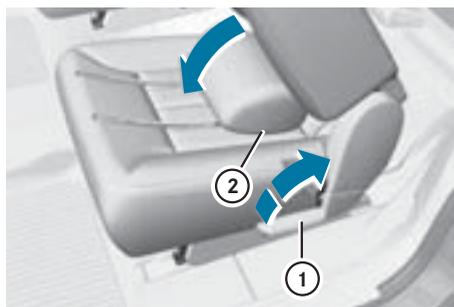
左側セカンドシートを元の位置に戻してから、中央セカンドシートを折りたたんでください。

! 中央セカンドシートのバックレストを倒しているときに（▷81 ページ）、左側セカンドシートを折りたたんだ状態から元の位置に戻すと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

中央セカンドシートのバックレストを元の位置に戻してから、左側セカンドシートを元の位置に戻してください。

左右セカンドシートを折りたたむ

! フロントシートが後方の位置にあったり、バックレストが後方に倒れすぎているときに左右セカンドシートを折りたたむと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

フロントシートを前方に移動して、バックレストを前方に起こしてから、左右セカンドシートを折りたたんでください。

① レバー
② ヘッドレスト

③ バックレスト

シートを折りたたむ

▶ 折りたたむシートのヘッドレストを取り外します（▷82、83 ページ）。

取り外したヘッドレスト②を、図のようにシートクッション上に置きます。

▶ バックレストを起こして、元の位置に戻します。

▶ シートを最も後方の位置にします。

! シートは必ず最も後方の位置にしてください。シートを折りたたんだときにシートやセンターコンソールを損傷するおそれがあります。

▶ レバー①をいっぱいまで引いたまま、バックレストを前方に倒します。

i レバー①をいっぱいまで引かなかったり、引いたあとに戻してからバックレストを前方に倒すと、シートは折りたたまれません。

このときは、バックレストを起こして元の位置に戻し、シートを最も後方の位置にして、再度操作を行なってください。

▶ 倒したバックレスト③を矢印の方向に押して、バックレストをロックさせます。

▶ バックレストやシート全体を前後上下に押して、確実にロックされていることを確認します。

! シートを折りたたんだときは確実にロックされていることを確認してください。走行中にバックレストやシートが動き、サードシートの乗員がけがをするおそれがあります。また、シートを損傷するおそれがあります。

! シートが折りたたまれた状態で、フロントシートを後方に動かしたり、バックレストを後方に倒すときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

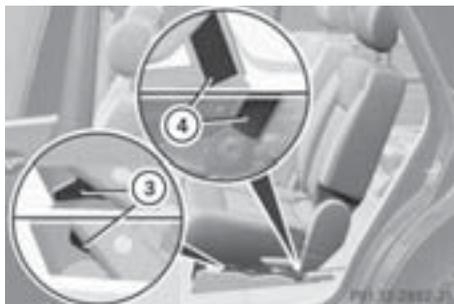
元の位置に戻す

① レバー
③ バックレスト

▶ レバー①を引きながら、バックレスト③を引き上げます。
▶ バックレストを約 45°の角度にしてヘッドレストを取り付け、ヘッドレストを最も低い位置にします。
▶ シート全体を後方に引き上げ、バックレストとシートをロックします。
▶ バックレストやシート全体を前後に押して、確実にロックされていることを確認します。

⚠ **けがのおそれがあります**

バックレストを元の位置に戻したときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。

ロックインジケーター

円内上部：シートがロックされていない状態
円内下部：シートがロックされている状態
③ ロックインジケーター（前部）
④ ロックインジケーター（後部）

セカンドシートを元の位置に戻したときは、ロックインジケーター③④が円内下部の状態になっていることを確認してください。

円内上部の状態のときは、シートはロックされていません。

ⓘ ロックインジケーターでの確認だけでなく、シートを前後に押して、確実にロックされていることを確認してください。

中央セカンドシートを折りたたむ

! シートを折りたたむときは、センターコンソール後方のカップホルダー（▷213 ページ）やリアの灰皿(▷228 ページ)を収納してください。シートやカップホルダー、灰皿を損傷するおそれがあります。

! シートを折りたたんでいるときは、リア中央送風口（▷202 ページ）からの送風が中央セカンドシートに当たらないようにしてください。暖気が送風されるとシートが高温になり、乗員が火傷をしたり、シートを損傷するおそれがあります。

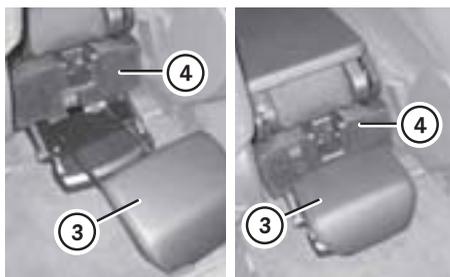
① ストラップ
② バックレスト

シートを折りたたむ

▶ ヘッドレストを取り外します。

▶ バックレスト②を前方に倒します(▷81 ページ)。

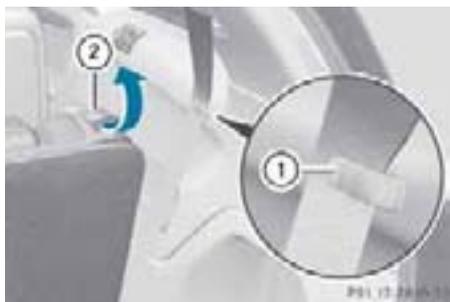
▶ ストラップ①を矢印の方向に引いて、ロックを解除します。

▶ シート全体を前方および下方に押して、確実にロックします。

i 取り外したヘッドレスト③は、上記のように中央セカンドシート④後部に収納することをお勧めします。

元の位置に戻す

▶ ストラップ①を引いてロックを解除します。

▶ シート全体を後方に押して、確実にロックします。

サードシートのみを折りたたむ

① フック
② レバー

▶ ヘッドレストを最も低い位置に下げます。

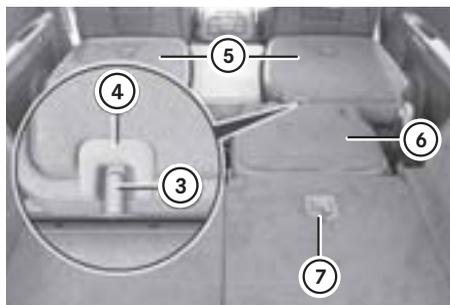
▶ シートベルトをフック①にかけます。

▶ レバー②を矢印の方向に引いて、バックレストをゆっくりと前方に倒します。

前方に倒れるバックレストに連動して、シートクッションが起き上がります。

▶ シートクッションが起き上がったら、バックレストが水平になるまでゆっくりと前方に倒します。

i バックレストはゆっくり前方に倒してください。バックレストを急に倒すと起き上がるシートクッションと接触して、シートが折りたたまれないことがあります。

セカンドシートとサードシートを折りたたむ

③ ピン
④ ガイド
⑤ バックレスト（左右セカンドシート）
⑥ シートクッション（サードシート）
⑦ ストラップ

▶ セカンドシートを折りたたみます（▷215 ページ）。

このとき、左右セカンドシートが最も後方の位置にあることを確認してください。

▶ サードシートを折りたたみます。

▶ サードシートのシートクッションを水平になるまで前方に倒します。

このとき、サードシートのシートクッション⑥のピン③が、左右セカンドシートバックレスト⑤のガイド④の位置にくることを確認してください。

i セカンドシートとサードシートを折りたたんだときに、ピン③とガイド④が離れているときは、左右セカンドシートが最も後方の位置になっていません。最初の手順からやり直すか、左右セカンドシートの前後位置調整レバー（▷80 ページ）を引いて、左右セカンドシートを後方に移動してください。

サードシートを元の位置に戻す

▶ ストラップ⑦を引きながら、サードシートのバックレストを後方に引き起こします。

▶ バックレストを元の位置まで戻し、確実にロックします。

▶ シートクッション⑥を引き起こして後方に倒し、押し込んでロックします。

▶ バックレストを前後に押し、またシートクッションを下方に押して、確実にロックされていることを確認します。

⚠ **けがのおそれがあります**

走行中はサードシートを確実にロックしてください。事故や急ブレーキのときなどに、けがをするおそれがあります。

荷物の固定

荷物固定用リング

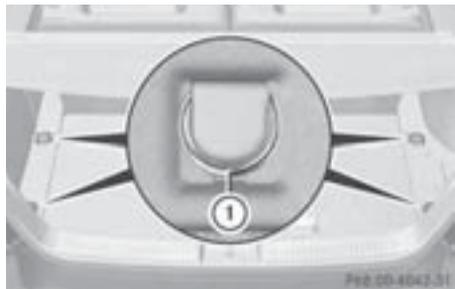
 けがのおそれがあります

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、荷物固定用リングに通して確実に結んでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もご覧ください。

荷物固定用のアクセサリーは、Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

荷物固定用リングは、ラゲッジルーム内①に 4 個、セカンドシート足元②とサードシート足元③に 2 個ずつあります。

① 荷物固定用リング（ラゲッジルーム内）

② 荷物固定用リング（右側セカンドシート足元）

③ 荷物固定用リング（右側サードシート足元）

荷物固定用フック

① 荷物固定用フック

ラゲッジルームの左右に荷物固定用フックがあります。

! 荷物固定用フックには、約 4kg 以上の荷物をかけないでください。フックを損傷するおそれがあります。

EASY-PACK ラゲッジルームカバー

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルームカバーは、荷物の飛び出しを防ぐものではありません。ラゲッジルームカバーを使用しているときも、ラゲッジルームの荷物は確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、ラゲッジルーム左右のウインドウ下端よりも高い位置に荷物を積み上げないでください。

! ラゲッジルームカバーの上に重い荷物を置かないでください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

ℹ サードシート後方にラゲッジルームカバー収納リールを取り付けているときは、ラゲッジルームカバーは使用できません。

セカンドシート後方に取り付けた状態
① ハンドル
② ラゲッジルームカバー
③ 固定部
④ フック

ラゲッジルームカバーを使用する

▶ サードシートのシートベルトをフックにかけます（▷219 ページ）。

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②をリールから引き出します。

▶ 左右の固定部③をフック④にかけます。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②を少し引きながら、左右の固定部③をフック④から外します。

▶ ラゲッジルームカバー②をゆっくり巻き取らせます。

ラゲッジルームカバー収納リール

ラゲッジルームカバー収納リールは、セカンドシート後方、またはサードシート後方に取り付けることができます。

ⓘ セカンドシート後方に収納リールを取り付けるときは、収納リールの両端にエクステンション(▷225 ページ)を取り付けてください。

⑤ 取り付け部のカバー
（セカンドシート後方・右側）

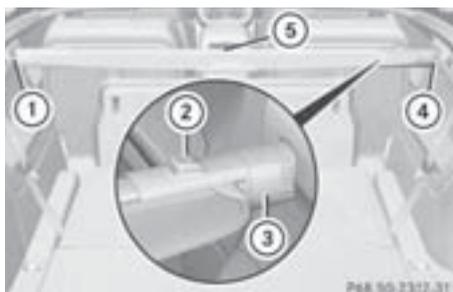
取り付け部カバーの脱着

▶ 取り付け部のカバー⑤の下部を押しながら、上端を矢印の方向に引いて取り外します。

反対側のカバーも同様に取り外します。

▶ 取り外したカバー⑤は、紛失しないように、使用しない取り付け部に取り付けます。

! サードシート後方の取り付け部にカバーを取り付けたときは、カバーと取り付け部周囲の内張り面に凹凸が生じます。カバーのツメを損傷するおそれがありますので、カバーを強く押し込まないでください。

ⓘ 取り付け部のカバーには左側用と右側用があります。カバーを取り付けるときは左右を間違えないようにしてください。

セカンドシート後方に取り付けた状態
① 左側取り付け部
② ロック解除ボタン
③ 収納リール右端部
④ 右側取り付け部
⑤ 収納リール

収納リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

▶ 収納リール右端部③を、ロックするまで左側に押し込みます。

収納リール右端部③が左側に押し込まれ、収納リールの長さが短くなります。

▶ 右側取り付け部④から収納リール右端部③を取り外します。

▶ 収納リール⑤を取り外します。

収納リールを取り付ける

▶ 収納リール右端部③が左側に押し込まれていて、収納リール⑤が短くなっていることを確認します。

収納リール右端部③が左側に押し込まれていないときは、ロックするまで左側に押し込みます。

▶ ロック解除ボタン②が右側および上面にくるようにします。

▶ 収納リール左端部を左側取り付け部①に合わせます。

▶ 収納リール右端部③を右側取り付け部④に合わせ、ロック解除ボタン②を押します。

収納リール右端部③が右側にスライドして右側取り付け部④に固定されます。

エクステンションの脱着

① エクステンション
② 収納リール
③ 収納リールの凹部
④ エクステンションの凸部
⑤ ガイド
⑥ ブロック

収納リールをセカンドシートの後方に取り付けるときは、収納リールにエクステンションを取り付けます。

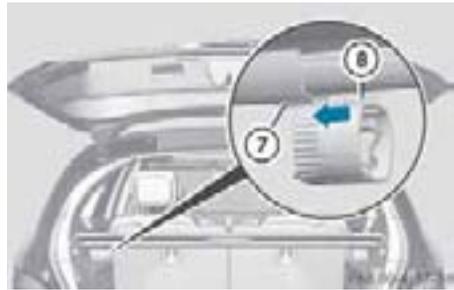
エクステンションを取り付ける

▶ エクステンション①のガイド⑤を、収納リール②のブロック⑥に合わせます。

▶ エクステンション①を時計回りにまわします。

収納リール②にエクステンション①が固定されます。

▶ 反対側も同様に、収納リールにエクステンションを取り付けます。

! エクステンションを取り付けた状態では、収納リールをサードシートの後方に取り付けることができません。必ずエクステンションを取り外してください。無理に取り付けようとすると、収納リールや取り付け部を損傷するおそれがあります。

⑦ 収納リールの凹部
⑧ エクステンションの凸部

エクステンションを取り外す

▶ 収納リールに取り付けられているエクステンションを反時計回りにまわして、取り外します。

▶ 収納リールの凹部⑦にエクステンションの凸部⑧を差し込んで取り付けます。

▶ 反対側も同様に、エクステンションを取り外し、収納リールに取り付けます。

ルーフラック

① カバー

⚠ けがや事故のおそれがあります

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。取り付け方を誤ると、走行中に外れて乗員や他の人々がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

! ルーフラックやスキーラックなどは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。推奨品以外の製品を取り付けると車を損傷するおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ルーフラックを取り付けるとき、また、ルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- パノラミックスライディングルーフ * をチルトアップさせたときや開いたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと

! ルーフに荷物を積むときは、パノラミックスライディングルーフを閉じてください。けがをするおそれがあります。

ルーフラックを取り付ける

▶ カバー①を矢印の方向に開きます。

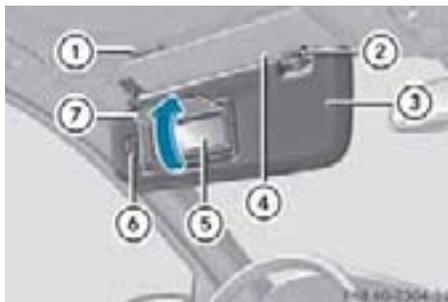
▶ ルーフラックを取り付けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

サンバイザー

 事故のおそれがあります

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① 照明
② フック
③ サンバイザー
④ 補助サンバイザー *
⑤ バニティミラー
⑥ カードホルダー
⑦ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー③を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー③を下げます。

▶ サンバイザー③をフック②から外します。

▶ サンバイザー③を横にまわします。

前方からの眩しさも防ぐときは、補助サンバイザー④ * を下げます。

使用後は、補助サンバイザーを元の位置に戻してから、サンバイザーを元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー⑦を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー③を下げます。

▶ バニティミラーカバー⑦を上方に開きます。

照明①が点灯します。

! 眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーを使用しないでください。

i サンバイザーをフック②から外すと、照明は点灯しません。

i バニティーミラーの横にカードホルダー⑥を備えています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

灰皿

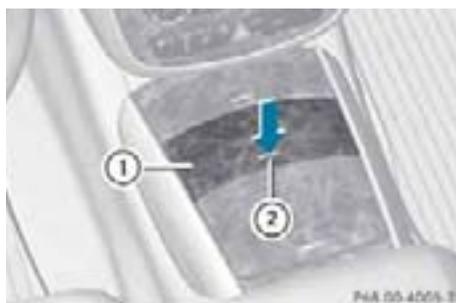
❗ 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

❗ 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

❗ 使用後は確実にカバーを閉じてください。

❗ 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

ℹ 灰皿を取り外すと小物入れとして使用できます。

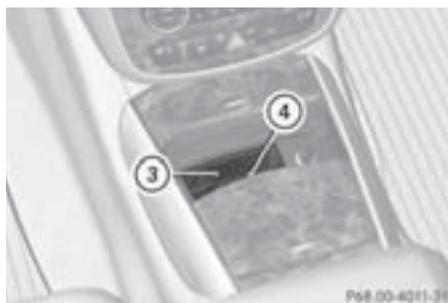
フロントの灰皿

① カバー
② マーク

灰皿を開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

カバー①が開きます。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

③ 灰皿
④ 凹部

灰皿を取り外す

▶ 灰皿③の凹部④に指をかけて引き上げます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押し込んでロックします。

リアの灰皿

リアの灰皿は、センターコンソール後方にあります。

① カバー
② ボタン

灰皿を使用する

▶ ボタン②を押してカバー①を開きます。

灰皿を収納する

▶ カバー①を押して閉じます。

灰皿を取り外す

① カバー

▶ カバー①の上端を矢印の方向に引き下げます。

③ 灰皿
④ マーク

▶ 灰皿③のマーク④部を矢印の方向に押しながら引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押し込んでロックします。

! 灰皿を使用しないときや中央セカンドシートを折りたたむときは、カバーを閉じてください。

ライター

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

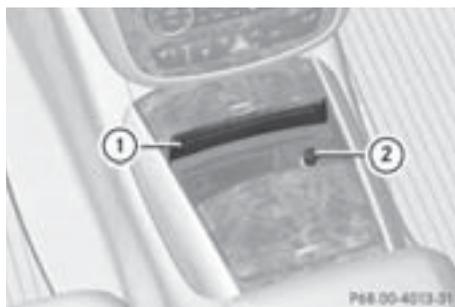
安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! ライターソケットは電動エアポンプの電源としては使用できません。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電流 15A 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

① カバー
② ライター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ カバー①を開きます。

▶ ライター②を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

12V 電源ソケット

センターコンソール後方とラゲッジルームに 12V 電源ソケットを装備しています。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

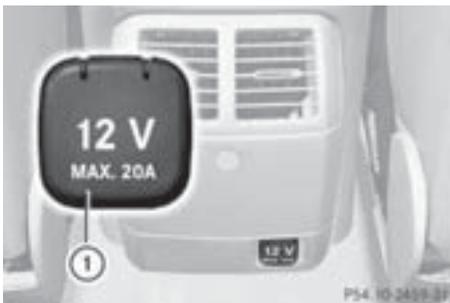
! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

! 最大消費電流 20A 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

! 必ず DC12V の電気製品を使用してください。

i イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときも 12V 電源ソケットは使用できます。

ただし、バッテリー電圧が低下すると、12V 電源ソケットは使用できなくなります。

センターコンソール後方の電源ソケット
① ソケットカバー

ラゲッジルームの電源ソケット
① ソケットカバー

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ けがのおそれがあります

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

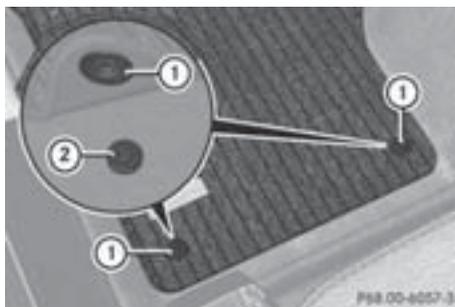
! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット *

事故のおそれがあります

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- フロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

① フロアマットの凹部
② フロアの凸部

フロアマットを取り付ける

▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転……………………………234
燃料の給油……………………………235
エンジンルーム………………………237
タイヤとホイール……………………247
寒冷時の取り扱い……………………254
走行時の注意…………………………257
メンテナンス…………………………262
日常の手入れ…………………………264

慣らし運転

 事故のおそれがあります

新品のブレーキパッドやブレーキディスクは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン：**走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

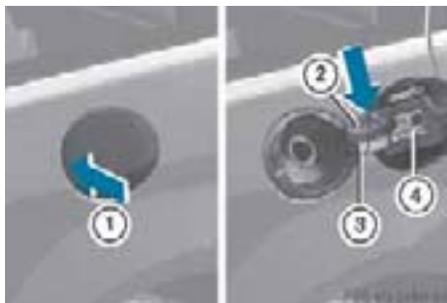
 火災や爆発のおそれがあります

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

 健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

火災のおそれがあります

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② 取り外したキャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

* オプションや仕様により、異なる装備です。

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には給油口の位置を示す が表示されています。

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンを停止します。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。

キャップを取り外す

▶ キャップを反時計回りにゆっくりまわして、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 取り外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③にかけます。

キャップを取り付ける

▶ キャップを給油口に合わせます。

▶ キャップをカチカチッという音がして空回りするまで、時計回りにまわします。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷249 ページ）をご覧ください。

ℹ 燃料給油フラップが施錠されないときは、手動で解錠して開くことができます（▷304 ページ）。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料として使用したり、燃料に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付け（▷235 ページ）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

ボンネットを開く

 火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

けがのおそれがあります

イグニッション位置が **0** のときや、エンジンスイッチからキーを抜いているときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

▶ ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認します。

けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー装備車はイグニッション位置を **0** にして、ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認してください。ワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

左ハンドル車
① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席足元にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ラジエターグリルの上方にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に引き上げながらボンネットを開きます。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、ラジエターグリル上部から約 20cm ～ 30cm 上方の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

⚠ 事故のおそれがあります

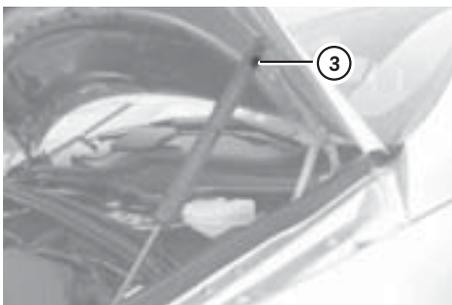
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

ℹ ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ボンネットを垂直位置まで開く

③ ロックボタン

垂直位置まで開く

▶ 左側支柱の上部にあるロックボタン③を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン③が支柱下部に移動し、ロックされます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し押し上げながら、支柱下部に移動したロックボタン③を押し、ロックを解除してボンネットを閉じます。

ℹ 垂直位置まで開いたボンネットは、支柱下部に移動したロックボタン③を押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

一度、垂直位置まで開き、ロックボタン③を押しながら閉じてください。

エンジンルーム

⚠ けがのおそれがあります

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

R 350

①	冷却水リザーブタンク	243
②	エンジンオイル フィラーキャップ	242
③	エンジンオイルレベ ルゲージ	241
④	ウォッシャー液 リザーブタンク	247
⑤	ヒューズボックス	337
⑥	ブレーキ液 リザーブタンク	246

! エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。

! ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所を選んで行なってください。

! 適切な工具を使用してください

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

R 550

①	冷却水リザーブタンク	243
②	エンジンオイル フィラーキャップ	242
③	エンジンオイルレベ ルゲージ	241
④	ウォッシャー液 リザーブタンク	247
⑤	ヒューズボックス	337
⑥	ブレーキ液 リザーブタンク	246

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、ただちに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

エンジンオイル

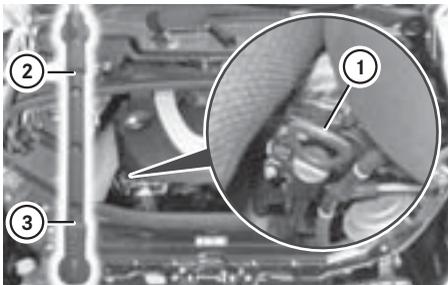
! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

i 慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルの量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

R 350
① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷286 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

⚠ **火傷のおそれがあります**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

R 350
④ エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

! エンジンオイルを補給しすぎないようにしてください。エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときはエンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップを補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

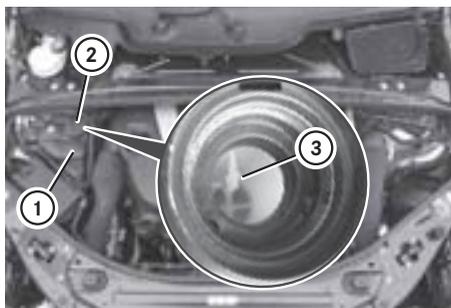
冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

冷却水の量を点検する

① リザーブタンク
② キャップ
③ バー

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク①の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

または

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンクのキャップ②を反時計回りにゆっくりと約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク内のバー③の上面に達していれば適量です。

ℹ 冷却水の水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

❗ 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンクのキャップ②を反時計回りにゆっくりと約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されている。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ **火災のおそれがあります**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ **けがをするおそれがあります**

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷284、285 ページ）をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷243 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷282 ページ）、ブレーキ警告灯（▷291 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

事故のおそれがあります

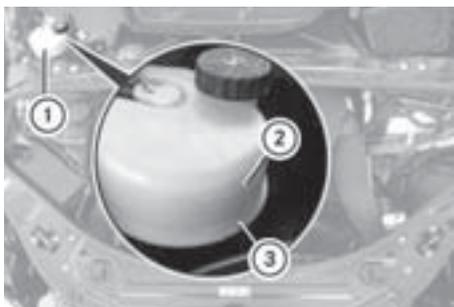
必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

火災や火傷のおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限 (MAX) を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷282 ページ）をご覧ください。

日常の取り扱い

ブレーキ液の量を点検する

R 350
① ブレーキ液リザーブタンク
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ けがや火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷287 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷249 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 前後輪のタイヤ / ホイールサイズが同じ車種に、新品のタイヤを 2 本だけ装着するときは、前輪に装着してください。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ほこりや水分の侵入を防ぐため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態 (別冊「整備手帳」参照) を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

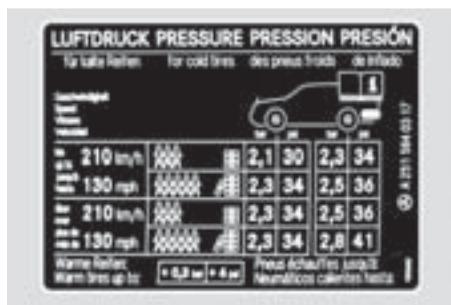
- タイヤを清掃するときは、高圧式スプレーガンなどを使用しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、アクアプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷235ページ）。

乗車人数や荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm^2）」と「psi」で示しています。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

事故のおそれがあります

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

事故のおそれがあります

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブに装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測装置を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

事故のおそれがあります

タイヤ空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤ空気圧が低いときは、車の走行安全性に悪影響をおよぼし、事故につながるおそれがあります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- ルーフや車内に重い荷物を積んで走行しているとき

⚠ **事故のおそれがあります**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷249 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

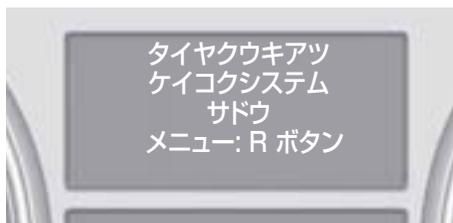
⚠ 事故のおそれがあります

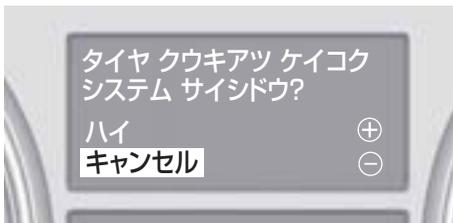
タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

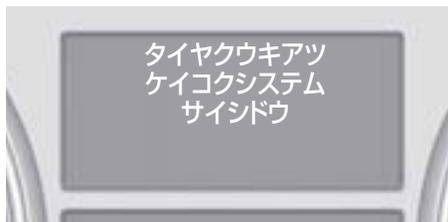
▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます（▷134 ページ）。

▶ [▲] または [▼] を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ： Rﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ リセットボタン（▷130 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸ ｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されます。

▶ [+] を押して、"ハイ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されてから約 15 秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

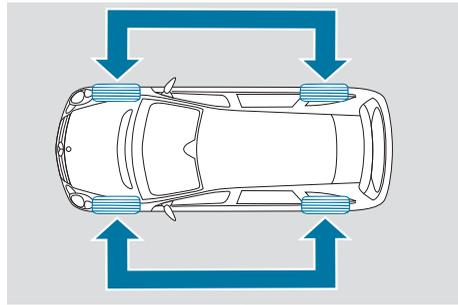
タイヤローテーション

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

 事故のおそれがあります

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは 15kg-m（150Nm）です。タイヤローテーションを行なったあとは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ⓘ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ⓘ タイヤローテーションを行なうときは、ホイールおよび接合面を清掃してください。

ⓘ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。

- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

中毒のおそれがあります

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 事故のおそれがあります

- ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

! ウィンタータイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず左右後輪に装着してください。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! スノーチェーン装着時は約50km/h 以下の速度で走行してください。

! AIR マティックサスペンション装備車は、スノーチェーン装着時に ADS のサスペンションモードを SPORT モードにしないでください。

また、オフロードレベルにして車高を上げてください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときや、必要のなくなったときは、すみやかにスノーチェーンを外してください。

i スノーチェーン装着中は、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードは C モードのままにしてください（▷126 ページ）。
- クルーズコントロール（▷159 ページ）を使用しないでください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- 低いギアレンジを選択することによる急激なエンジンブレーキは効かせないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジン

 事故のおそれがあります

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

事故のおそれがあります

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

 火災のおそれがあります

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 新車時または交換した新品のブレーキパッドは、走行距離が目安として数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴー操作 * でのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後やイグニッション位置が **1** のときは、パーキングブレーキを効かせていると点灯したままになります。

エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **1** のときに、パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液の量が減っています。安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(▷282 ページ)をご覧ください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、低速でシフトポジションを D と R に交互に入れることにより、ぬかるみから脱出できる場合もあります。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は、約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障／警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、室内に水が浸入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタン（▷130 ページ）を押します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

手動で表示させる

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 〔□〕または〔□〕を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

▶ 〔▲〕または〔▼〕を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には "A" から "H" までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｼﾞｯｺｳ ｼﾏｽ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

ℹ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

ℹ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A + " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B + " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " + " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

ℹ ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

ℹ メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次回のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

ℹ バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 中毒や火災のおそれがあります

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあり、事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで注意して運転してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。ドアやパノラミックスライディングルーフ * などから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。
- 余熱ヒーター・ベンチレーションが停止していることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーを停止してください（▷108、109 ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ランプ類の手入れ

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

パークトロニックセンサーの手入れ

パークトロニックセンサー（▷172ページ）を清掃するときは、流水または水とかシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

① パーキングアシストリアビューカメラ

▶ きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

マフラーの手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

けがのおそれがあります

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

けがのおそれがあります

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車載品の収納場所……………………270
故障 / 警告メッセージ …………276
トラブルの原因と対応……………288
非常時の解錠 / 施錠 ……………302
NECK PRO アクティブ
ヘッドレストのリセット………305
キーの電池交換……………………305
電球の交換…………………………308
ワイパーブレードの交換…………310
パンクしたとき……………………313
バッテリー…………………………328
バッテリーがあがったとき………331
けん引………………………………333
ヒューズの交換……………………336

車載品の収納場所

事故・故障のとき

 火災や爆発のおそれがあります

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを **N** にして、同乗者や付近の人に救援を求め、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを **N** にできないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに備えています。

i 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

i 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

ラゲッジフロアボード

ラゲッジフロアボードの下には、停止表示板や救急セット、車載工具、応急用スペアタイヤなどが収納されています。

① ラゲッジフロアボード
② ハンドル

ラゲッジフロアボードを開く

▶ ハンドル②の矢印の部分を押してハンドルを起こし、ラゲッジフロアボード①を引き上げます。

③ フック
④ テールゲート開口部上端

▶ ラゲッジフロアボード裏面にあるフック③を矢印の方向に取り外します。

▶ フック③をテールゲート開口部上端④にかけます。

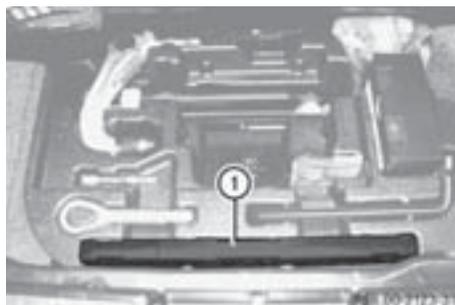
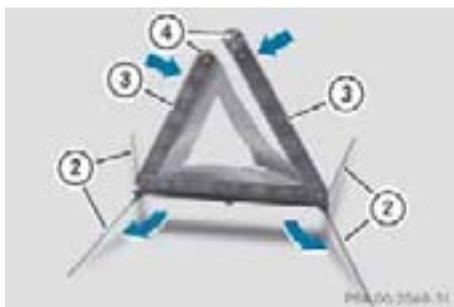
! セカンドシート後方にラゲッジルームカバー収納リールを取り付けているときは、ラゲッジルームカバーをリールに収納するか、ラゲッジルームカバーの後端を下げてからラゲッジフロアボードを開いてください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

i R 550 は、ラゲッジフロアボード裏側にスピーカーシステムが装着されています。

停止表示板

応急用スペアタイヤが車載されている車種

① 停止表示板ケース

タイヤフィットが車載されている車種

① 停止表示板ケース

② スタンド
③ 反射板
④ フック

停止表示板を組み立てる

▶ 停止表示板ケース①から停止表示板を取り出します。

▶ 4 本のスタンド②を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板③を開いて、先端のフックをかみ合わせます。

救急セット

① 救急セット

救急セットはラゲッジフロアボードの下に収納されています。

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セットを取り出す

▶ テールゲートを開きます（▷70、71 ページ）。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷271 ページ）。

▶ 救急セット①を取り出します。

車載工具

車載工具は、ラゲッジフロアボードの下に収納されています。

⚠ けがのおそれがあります

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみに設計されています。

⚠ けがのおそれがあります

ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

! 車載工具や応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

i ジャッキを使用するときは、"パンクしたとき"（▷313 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

車載工具を取り出す

① 救急セット
② 車載工具

▶ テールゲートを開きます（▷70、71 ページ）。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷271 ページ）。

▶ 救急セット①を取り出します。

▶ 車載工具②を取り出します。

i 車載工具が取り出しにくいときは、サードシートを折りたたみ、ラゲッジフロアボードを前方に倒します。

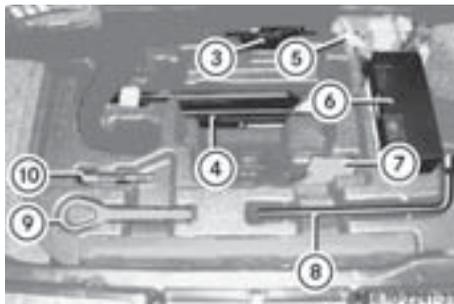
応急用スペアタイヤが車載されている車種

③	ジャッキ
④	ホイールレンチ
⑤	ジャッキハンドル
⑥	電動エアポンプ
⑦	ヒューズ配置表（英文）
⑧	ガイドボルト
⑨	輪止め
⑩	けん引フック
⑪	応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

i 車種や仕様により、応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは応急用スペアタイヤのホイールに添付されている場合があります。

※ 仕様により、車載工具の配置が異なる場合があります。

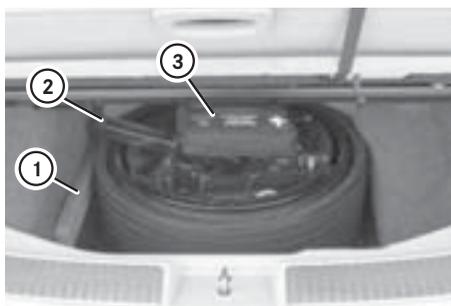
※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤフィットが車載されている車種

③	輪止め
④	ジャッキ / ジャッキハンドル
⑤	タイヤフィット
⑥	電動エアポンプ
⑦	ヒューズ配置表（英文）
⑧	ホイールレンチ
⑨	けん引フック
⑩	ガイドボルト

※ 仕様により、車載工具の配置が異なる場合があります。

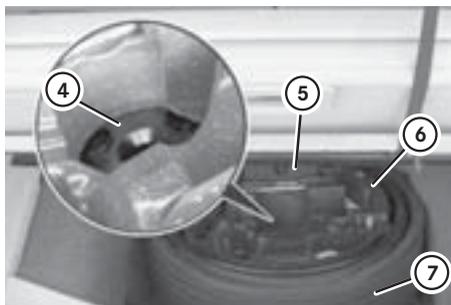
※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

応急用スペアタイヤの取り出し / 収納

① 停止表示板ケース
② ジャッキ
③ 救急セット

応急用スペアタイヤを取り出す

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷271 ページ）。

▶ 停止表示板ケース①とジャッキ②、救急セット③を取り出します。

④ スクリュー
⑤ 電動エアポンプ
⑥ トレイ
⑦ 応急用スペアタイヤ

▶ スクリュー④を反時計回りにまわして外します。

▶ 電動エアポンプ⑤が手前にくるようにトレイ⑥を約 180° まわします。

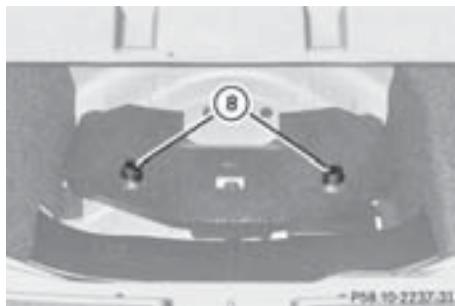
▶ 電動エアポンプ⑤を取り出します。

▶ トレイ⑥を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤ⑦を取り出します。

ℹ 応急用スペアタイヤが取り出しにくいときは、サードシートを折りたたみ、ラゲッジフロアボードを前方に倒します。

応急用スペアタイヤを収納する

▶ ラゲッジフロアボードの下に停止表示板ケースが置かれているときは取り出します。

⑧ 凸部

▶ 凸部⑧が応急用スペアタイヤのホイールの穴に差し込まれるように、応急用スペアタイヤ⑦を収納します。

⑦ 応急用スペアタイヤ
⑧ 凸部

▶ 2 カ所の凸部⑧がホイールの穴に確実に差し込まれていることを確認します。

▶ 応急用スペアタイヤの横に停止表示板ケースを収納します（▷271 ページ）。

▶ 電動エアポンプ⑤が手前にくるように、車載工具のトレイ⑥を応急用スペアタイヤのホイールに差し込みます。

▶ 電動エアポンプ⑤が前側になるように、車載工具のトレイ⑥を約 180°まわします。

▶ スクリュー④を時計回りにまわして固定します。

❗ トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず手袋を着用し、手を挟まないように注意してください。

輪止め

輪止めは図の順番で組み立てます。

❗ 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ◻ または ◻ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、" ｺｼｮｳｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ ▲ または ▼ を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [icon] [icon] や [▲] [▼] スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS	ABS ト ESP ｼﾖｳﾌｶﾉｳ！ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	**⚠ 事故のおそれがあります** 一時的に ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意しながら、約 20km/h 以上の速度で、ゆるやかにカーブしている道路を少し走行してください。 メッセージが消えれば、ABS と ESP は作動できる状態になります。
		⚠ 事故のおそれがあります 電圧低下のため、ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ABS ト ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	**⚠ 事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾎｼﾞｮ ﾊﾞｯﾃﾘ	ｺｼｮｳ	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ エンジンを停止するときは、シフトポジションを P にしてください。 ▶ 車から離れるときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。
ESP	ESP ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ 事故のおそれがあります 一時的に ESP と PRE-SAFE が作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 BAS の機能も解除されている。 ▶ 注意しながら、約 20km/h 以上の速度で、ゆるやかにカーブしている道路を、少し走行してください。 メッセージが消えれば、ESP は作動できる状態になります。
		⚠ 事故のおそれがあります 電圧低下のため、ESP と BAS、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		走行中にメッセージが表示され、メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐため 4ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、ESP / ETS 表示灯も消灯するまで、走行風でブレーキが冷えるように走行してください。 4ETS は自動的に待機状態になります。
ESP	ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ESP と BAS、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。 メーターパネルの ESP / ETS 表示灯が点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
P ﾚﾝｼﾞ ﾊ	ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ	走行中にシフトポジションを P にしようとした。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｾﾚｸﾀｶﾞ	ｿｳｺｳｲﾁ	シフトポジションが D、R、N のいずれかのときに運転席ドアを開いた。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。
	ｷﾞﾔﾁｪﾝｼﾞ ｾｽﾞﾆ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	故障のため、シフトポジションを変更できない。 **シフトポジションが D のとき** ▶ シフトポジションを D から動かさないようにして、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **シフトポジションが R、N、P のいずれかのとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
P ﾏﾀﾊ N ﾆ	ｼﾌﾄｼﾃ ｽﾀｰﾄ！	シフトポジションが R か D のときにエンジンを始動しようとしている。 ▶ シフトポジションを P か N にしてください。
P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ	ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ	▶ ブレーキペダルを踏みながら、シフトポジションを P にしてください。
ﾌﾟﾚｾｰﾌ	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ けがのおそれがあります PRE-SAFE が故障している。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ 事故のおそれがあります タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気漏れを検知した。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換してください（▷313 ページ）。 ▶ タイヤを交換し、適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷251 ページ）。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔﾖ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷251 ページ）。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - - km/h	クルーズコントロールの設定条件を満たしていない。 ▶ ESP が解除されているときは、待機状態にしてください。 ▶ 設定条件を満たしているときは、約 30km/h 以上の速度で走行して、クルーズコントロールを設定してください。

イラストメッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
（テールゲート表示）		テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを閉じてください
		⚠ **事故のおそれがあります** 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
（ドア表示）		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを閉じてください。
（冷却水表示）		ラジエターの冷却ファンに異常がある。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。
（バッテリー表示）		以下の原因によりバッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Ｖベルトの損傷 • 電気システムの故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Ｖベルトを点検してくだい。 **Ｖベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	バッテリーに異常がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	EBV, ABS, ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBV、ABS、ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌｭｰｴﾙ ﾌｨﾙﾀ ｾｲｿｳ	燃料フィルターに水がたまっている。燃料フィルターから水を取り除く必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｼﾊﾞﾗｸ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	停車時の車高が下がりすぎている。 ▶ 走行しないでください。 リアサスペンションのセルフレベリング機能またはAIR マティックサスペンション * の車高が走行に適したレベルに達していません。 ▶ メッセージが消えるまで待ってから走行してください。
	ﾃｲｼｬ 、 ｼｬｺｳ ｶﾞ ﾋｸｽｷﾞﾏｽ !	⚠ **事故のおそれがあります** 車高が下がり切った状態で走行しようとしている。 または、リアサスペンションのセルフレベリング機能に異常があるか、AIR マティックサスペンション * に異常がある。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントのフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 メッセージが消えないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ	以下のときには車高の調整ができない。 • 設定しようとしている車高レベルに対して、走行速度が高すぎる（AIR マティックサスペンション装備車） • けん引車両がある • けん引装置を使用している ▶ AIR マティックサスペンション装備車は、速度を落としてから、車高を調整してください。
	ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ ﾚｲｷｬｸ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	車高レベルを頻繁に変更したため、車高を上げようとしたときにエアポンプを冷却する必要が生じた。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ エアポンプが冷却されるまで待ってください。 エアポンプが冷却されるとメッセージが消え、選択した車高レベルに設定されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｺｼｮｳ	リアサスペンションのセルフレベリング機能または AIR マティックサスペンション * が故障している。 セルフレベリング付リアサスペンション装備車： ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 AIR マティックサスペンション装備車： ▶ 約 80km/h を超えないように、現在の車高レベルに合わせて走行してください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ 、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪やほこり、または氷などで、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面（▷135 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Ｖベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 **Ｖベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面（▷135 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水を補給してください（▷243 ページ）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。
	ﾊﾟﾜｽﾃ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ 事故のおそれがあります パワーステアリングが機能しない。ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながらメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ (ロービーム) が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーに異常がある。自動的にランプが点灯する。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（▷146 ページ）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ！	ランプスイッチを の位置にしたままキーを抜いて運転席ドアを開くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を 0 にして運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。

1) 他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エアフィルターが汚れていて、交換時期になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷241 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。
	ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください（▷241 ページ）。 **エンジンオイル量が正常な場合：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 **エンジンオイル量が不足している場合：** ▶ エンジンオイルを補給してください。 ▶ 警告灯が消灯したら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 警告灯が消灯しない場合は走行せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ｷｰ ﾉ ﾊﾞｯﾃﾘ ｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください。
	ｷｰ ｶﾞ ﾁｶﾞｲﾏｽ	エンジンスイッチに違う車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （赤色で表示）	キーレスゴー装備車： エンジンがかかっているときに、このメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 この状態でエンジンを停止すると、エンジンを再始動することも、施錠することもできなくなる。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ キーを探してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ （赤色で表示）	キーレスゴー装備車： エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁﾃﾞ ｷﾏｾﾝ （白色で表示）	キーレスゴー装備車： キーが検知されていない。 ▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。 ▶ それでもキーが検知されないときは、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作してください。
	ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ！	キーレスゴー装備車： キーレスゴー操作で施錠するときに、システムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車外に持ち出してください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ ｦ ﾊｽﾞｼ ｷｰｦ ｻｼｺﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ	キーレスゴー装備車： キーが認識されない状態が続いている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		燃料残量がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ	ウォッシャー液量がリザーブタンクの約 1/3 まで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷247 ページ）。

トラブルの原因と対応

事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。シートヒーターが自動的に停止した。	多くの電気装備が使用されているためにバッテリーの電圧が低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 除湿 / 冷房された空気が送風されない。	故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているためにバッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。ABS と ESP、PRE-SAFE が一時的に作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** バッテリーの電圧が低下している。電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 ESP、BAS、PRE-SAFE の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、すみやかに ABS は作動できる状態になります。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP / ETS 表示灯、赤色のブレーキ警告灯、黄色の ABS 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBV に異常がある。ABS、BAS、ESP、PRE-SAFE なども作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に黄色の ESP / ETS 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESP またはトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールが解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP の機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP / ETS 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP の機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESP を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP / ETS 表示灯が点灯する。 マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージも表示される。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP が作動しない状態になっている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷278 ページ）に従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
SRS エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷282 ページ）に従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • 燃料噴射システム • イグニッションシステム • 排気システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴った。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システム * が待機状態のときに、運転席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システム * が待機状態のときに、車内のレバーを引いてドアまたはテールゲートを開いたか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷277 ページ～）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ランプスイッチを の位置にしたままエンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを **0** の位置にしてください。
イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。
速度が約 25km/h 以上になったときに警告音が鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	後方からの追突などの事故により、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した。 ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストをリセットしてください（▷305 ページ）。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷303 ページ）。 ▶ テールゲートを開いてください（▷70、71 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷304 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構が正しく作動しない。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷304 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムが故障している。 • 燃料供給システムが故障している。 • バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチに差し込んだキーを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（▷118 ページ）。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷331 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムが故障している。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全な場所に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください（▷243 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、エンジンファンに異常がある可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進 / 停止を繰り返すような運転は避けてください。
エンジンが停止しない。	エンジンスイッチに異常がある。 ▶ エンジンルーム内にあるヒューズボックスを開きます。 ▶ エンジンルーム内ヒューズボックスの 120 番のヒューズを抜きます（▷337 ページ）。 エンジンが停止します。 エンジンを再始動するとき： ▶ ヒューズを交換してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ エンジンスイッチに差し込んだキーを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまでキーレスゴースイッチを押します。 ▶ 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを **D** にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを **R** にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷267 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷174 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプの内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（▷108、109 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。	ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウを閉じることができない。	ウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	ドア内部のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合 ▶ ドアウインドウが閉じるまで、ドアウインドウスイッチを引きます。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷91 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。 ドアミラーが再び固定され、ドアミラーが通常通り調整できるようになります。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷305 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ 施錠 / 解錠するときは、「非常時の解錠 / 施錠」（▷302 ページ）をご覧ください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作 * で解錠 / 施錠できない。	車が解錠されてから長時間経過したため、キーレスゴー * の機能が解除された。 ▶ ドアハンドルを 2 回引き、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	キーレスゴー * が故障している。 ▶ キーの先端を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離からリモコン操作で解錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ 施錠 / 解錠するときは、「非常時の解錠 / 施錠」（▷302 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンが始動しないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷331 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーが車内にある状態でも、キーレスゴー操作 * で、エンジンを始動できない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチ * を取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーが損傷する可能性がある。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。 ⓘ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

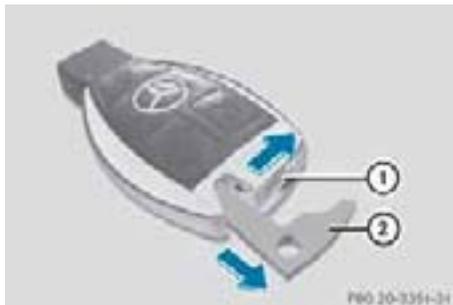
リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます。

盗難防止警報システム装備車では、車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたり、テールゲート裏側のレバーでテールゲートを解錠して開くと（▷74 ページ）、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、キーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れる（キーレスゴー装備車）
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときは、テールゲートのハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す（キーレスゴー装備車）

エマージェンシーキーを使用する

キーレスゴー装備車
① ストッパー
② エマージェンシーキー

キーレスゴー非装備車
① ストッパー
② エマージェンシーキー

▶ ストッパー①を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー②をキーから引き抜きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

運転席ドアの解錠

① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
② 解錠の位置

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②にまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいに引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

▶ 助手席ドアと助手席側リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ 運転席ドアと運転席側リアドアを開きます。

▶ 運転席ドアの施錠スイッチ（▷69 ページ）を押します。

▶ 助手席ドアと左右リアドアのロックノブが下がったことを確認します。

▶ 下がっていないときは、各ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車を降り、運転席ドアを閉じます。

▶ 開いている運転席側リアドアから腕を伸ばして、運転席ドアのロックノブを押し込みます。

i キーが車内になく、携帯していることを確認してください。

▶ 運転席側リアドアを閉じます。

▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を施錠することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーの閉じ込みに注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

燃料給油フラップの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で解錠しても燃料給油フラップのロックが解除されないときは、手動でロックを解除します。

① クリップ
② カバー

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側のカバー②にあるクリップ①をコインなどで矢印の方向にまわします。

▶ カバー②を取り外します。

③ ノブ

▶ 内部にあるノブ③を引きます。

ロックが解除されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

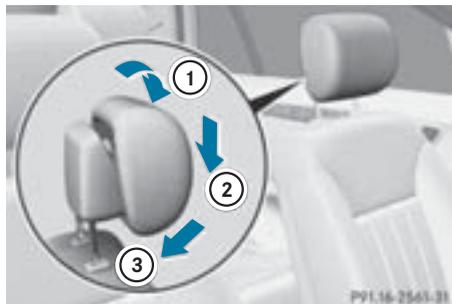
▶ 燃料給油フラップを開きます。

けがのおそれがあります

ラゲッジルーム右側のカバーの内部には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を①の方向に押します。

▶ ヘッドレストを②の方向にいっぱいまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを③の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 中毒のおそれがあります

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

ℹ キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます（▷303 ページ）。

電池の交換手順

キーレスゴー装備車

リチウム電池（CR2025 3V）を 2 個用意します。

① ストッパー
② エマージェンシーキー

▶ ストッパー①を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー②を抜き取ります。

② エマージェンシーキー
③ 凹部
④ 電池ケース

▶ エマージェンシーキー②を凹部③にかけて矢印の方向に引きながら、電池ケース④を引き抜きます。

④ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を横にスライドさせて取り出します。

▶ 2 個とも "+" が上になるようにして、新しい電池を電極板⑥の間に取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

ℹ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認してください。

▶ 電池ケース④を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー②をキーに収納します。

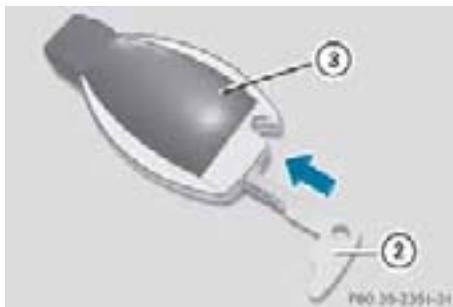
▶ リモコンのすべての機能が作動することを確認します。

ℹ 電池を交換するときは、2 個同時に交換してください。

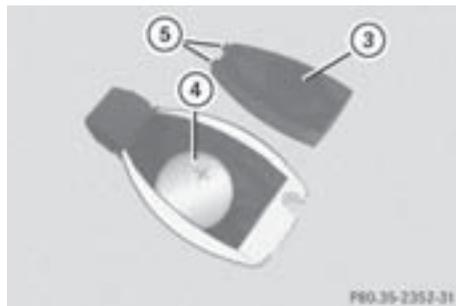
キーレスゴー非装備車

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

① ストッパー
② エマージェンシーキー

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

② エマージェンシーキー
③ カバー

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ⓘ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

③ カバー
④ 電池
⑤ 凸部

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に載せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

ⓘ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認してください。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプがすぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷285 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

けがのおそれがあります

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

けがのおそれがあります

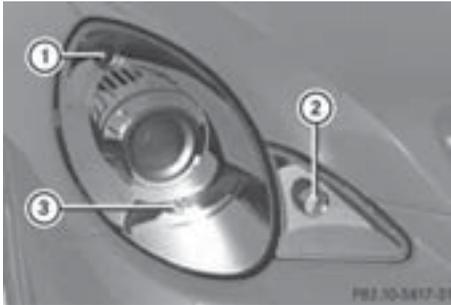
エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! LED やキセノンヘッドランプはユニット交換になるため、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換作業を行なってください。

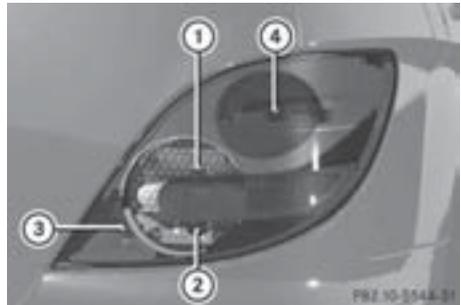
i リアフォグランプは右側のみです。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

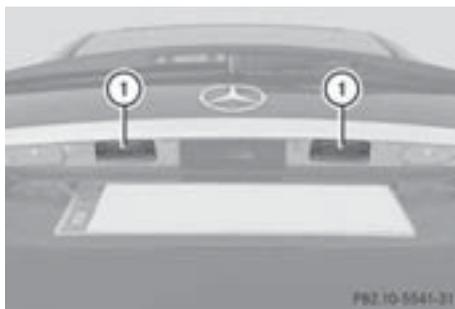
ヘッドランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	21W（黄色）
②	車幅灯 / パーキングランプ	5W
③	ヘッドランプ上向き	55W（H7）

フォグランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	フロントフォグランプ	55W (H7)

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	リア方向指示灯	21W（黄色）
②	バックランプ	21W
③	リアフォグランプ（右側のみ）	21W
④	ブレーキランプ / テールランプ / パーキングランプ	21W

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

ライセンスランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	ライセンスランプ	5W

ワイパーブレードの交換

フロントワイパー

⚠ 事故のおそれがあります

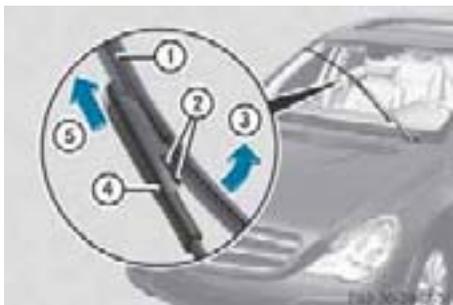
ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

⚠ けがのおそれがあります

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! 損傷を避けるため、ワイパーアームを起こすときは、ワイパーブレードのゴムに触れないでください。

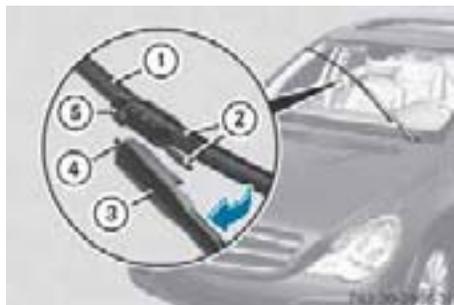
ワイパーブレードを取り外す

左ハンドル車
① ワイパーブレード
② クリップ
④ ワイパーアーム

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム④を起こします。

▶ クリップ②を両側から押し込んでロックを外し、ワイパーブレード①を③の方向にまわします。

▶ ワイパーブレード①を⑤の方向に押してワイパーアーム④から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

左ハンドル車
① ワイパーブレード
② クリップ
③ ワイパーアーム
④ ワイパーアームの先端
⑤ ワイパーブレードの取り付け部

▶ 新しいワイパーブレード①の取り付け部⑤をワイパーアーム③の先端④に合せます。

▶ クリップ②がロックされるまで、ワイパーブレード①を矢印の方向に押し込みます。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

リアワイパー

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

① ワイパーアーム
② ワイパーブレード

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム①を起こします。

▶ ワイパーブレード②をまわして、ワイパーアーム①と垂直の位置にします。

▶ ワイパーブレード②を矢印の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、ワイパーアームに押し込んでロックします。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 事故のおそれがあります

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

タイヤの交換または修理の準備

▶ AIR マティックサスペンション装備車は、車高が通常走行レベルになっていることを確認します（▷170 ページ）。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろし、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤへの交換

応急用スペアタイヤが車載されている車種は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。

⚠ 事故のおそれがあります

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。また、ESP の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

! 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

! 車速感応ドアロック（▷69 ページ）を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

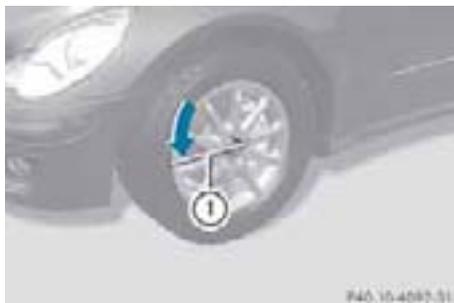
! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

タイヤ交換の準備

▶ 輪止め、ホイールレンチ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト、電動エアポンプを準備します（▷272 ページ）。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

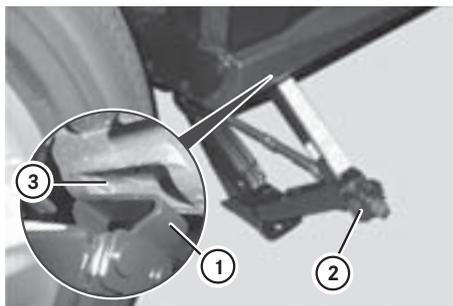
ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①を矢印の方向にまわし、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

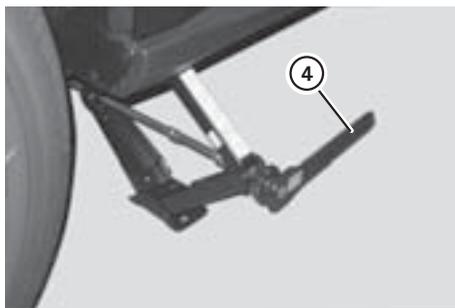
この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキアップ

① ジャッキ
② ダイヤル部
③ ジャッキサポート

▶ ダイヤル部②を手で時計回りにまわしてジャッキを伸ばしながら、交換するタイヤに近いジャッキサポート③にジャッキ①をあてます。

このとき、ジャッキ①がジャッキサポート③に接してぐらつかない程度までダイヤル部②をまわします。

④ ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル④を、"AUF UP"の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

▶ ジャッキハンドル④を繰り返し操作し、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

⚠ けがのおそれがあります

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。

ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

! ジャッキアップしているときは、以下のことを行なわないでください。車が落下するおそれがあります。

- エンジンの始動
- ドアやテールゲートの開閉
- パーキングブレーキの解除

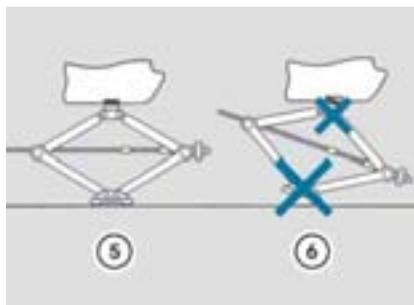
! ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から 3cm 以内にしてください。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! ジャッキサポート以外の位置でジャッキアップしないでください。車が落下するおそれがあります。

! ジャッキアームの先端が正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

⑤ 正しい取り付けかた
⑥ 間違った取り付けかた

i ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

タイヤの取り外し

① ガイドボルト

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴に車載工具のガイドボルト①をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

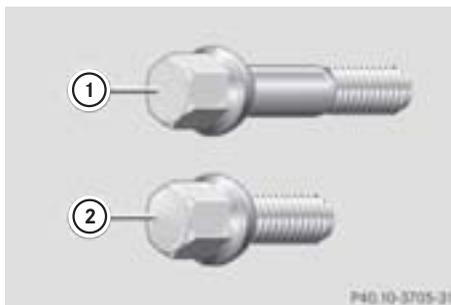
! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりはタイヤ空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

! ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。

! ホイールハブのネジ山を損傷したときは、走行しないでメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ホイールボルト

① 標準タイヤ用ホイールボルト
② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

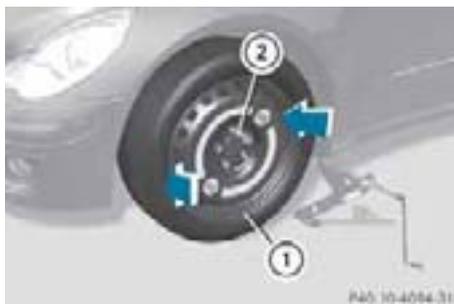
車載工具などが収納されているトレイ（▷273 ページ）、または応急用スペアタイヤのホイールに添付されているホイールボルト②を使用します。

標準タイヤ用ホイールで使用しているホイールボルト①は使用しないでください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 応急用スペアタイヤを装着するときは、必ずホイールボルト②を使用してください。

  標準タイヤのホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けると、ホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れて事故を起こしたり、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り付け

① 応急用スペアタイヤ
② ガイドボルト

▶ 応急用スペアタイヤ①のホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト②に合わせて応急用スペアタイヤ①を取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付け、対角線の順番に軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

⚠ **けがのおそれがあります**

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

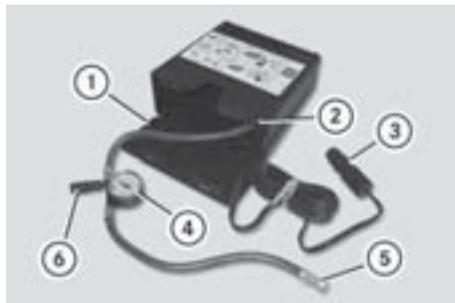
応急用スペアタイヤに空気を入れる

車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

⚠ **事故のおそれがあります**

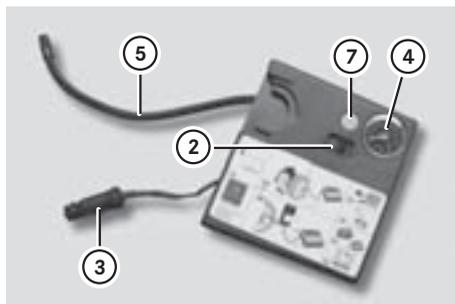
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷したりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- 必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ホイールリムを損傷するおそれがあります。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧バルブ⑥が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

⑧ バルブキャップ

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップ⑧を外します。

⑤ エアホース
⑨ バルブ

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブ⑨に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **0**（オフの位置）にします。

▶ 電源プラグ③をラゲッジルームか、センターコンソール後方の 12V 電源ソケット（▷230 ページ）に差し込みます。

! ライター用ソケットには電源プラグ③を差し込まないでください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

- 電動エアポンプの電源スイッチ②をI（オンの位置）にします。

  電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

- 空気圧ゲージ④が 3.0 バールになったら、電動エアポンプの電源スイッチ②を 0（オフの位置）にします。
- 3.0bar を超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して、空気を抜いて調整します。
- 12V 電源ソケット電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース⑤を取り外します。
- 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

! 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。

! 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。

! 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。

! 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。

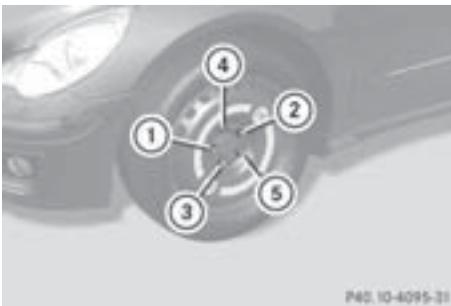
! 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋を着用して作業を行なってください。

! 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

ジャッキダウン

- ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。
- ジャッキハンドルを繰り返し操作し、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。
- ジャッキを外します。

! ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

ホイールボルトの締め付け

- 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

  ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 15 kg-m（150Nm）です。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ホイールを交換した後は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤはラゲッジルーム内に収納し、確実に固定してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

タイヤフィットが車載されている車種

応急用スペアタイヤが車載されていない車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷313 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ホイールに損傷がある場合
  - ◇タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

❗ タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

❗ タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

❗ 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

❗ タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

❗ タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

❗ タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

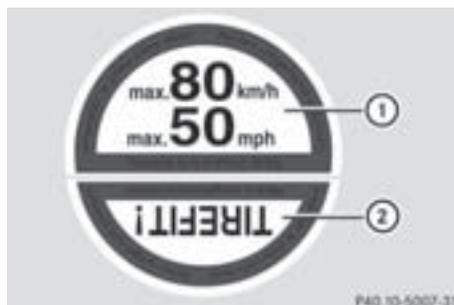
タイヤフィットの準備

⚠ **けがのおそれがあります**

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

① 最高速度表示のステッカー
② タイヤフィット使用表示のステッカー

▶ タイヤフィットに付属の最高速度表示のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー②を貼ります。

⚠ けがのおそれがあります

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ⓘ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

① タイヤフィット
② フラップ
③ 凹部
④ 電源スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ エアホース
⑦ バルブ

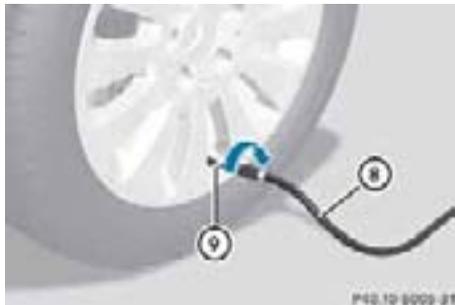
※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

⑧ タイヤフィットのホース
⑨ タイヤのバルブ

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

⑩ 空気圧調整バルブ
⑪ 空気圧ゲージ

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷230 ページ）に、電源プラグ③を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ⓘ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑥を、タイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑨からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑪でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **事故のおそれがあります**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。
- ▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

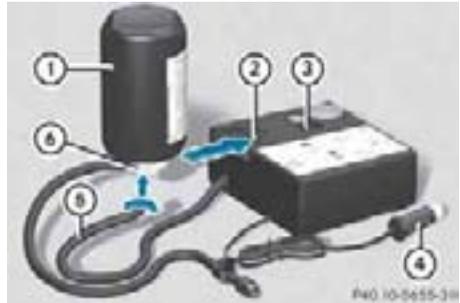
最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

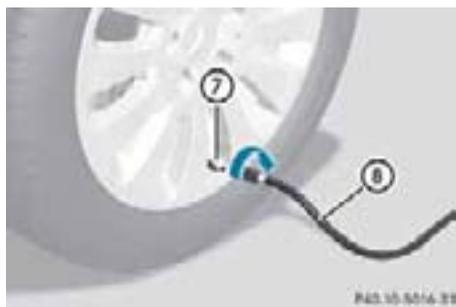
- ▶ タイヤフィットは、4 年ごとに新品と交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

① タイヤフィット
② 凹部
③ 電源スイッチ
④ 電源プラグ
⑤ エアホース
⑥ バルブ

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- ▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。
- ▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

- ▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

⑦ タイヤのバルブ
⑧ タイヤフィットのホース

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷230 ページ）に、電源プラグ③を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させせます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり､火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を、タイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ④を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑦からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

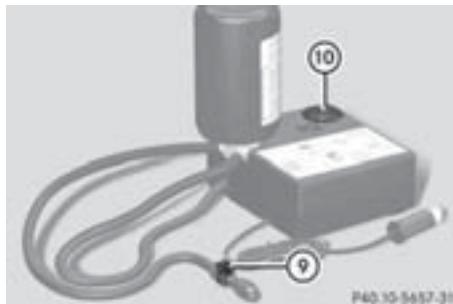
! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

⑨ 空気圧調整ボタン
⑩ 空気圧ゲージ

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑤を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージ⑩でタイヤ空気圧を点検します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、タイヤフィットのホース⑧の先端にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとに新品と交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。

火花が出ないように注意してください。

バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクを着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

 けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴースイッチ * を押してイグニッション位置を **0** にし、すべての表示灯 / 警告灯が消灯していることを確認してください。ください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

バッテリーの点検や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

i バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット（▷113 ページ）
- パノラミックスライディングルーフ * のリセット（▷208 ページ）
- 施錠時のドアミラー格納のリセット（▷92 ページ）

 環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

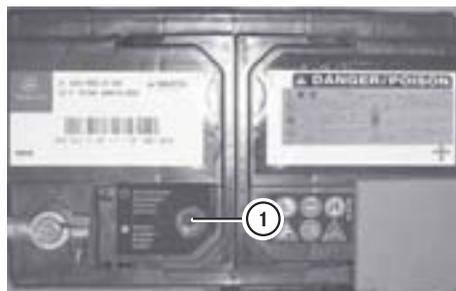
* オプションや仕様により、異なる装備です。

バッテリーの位置

バッテリーは右側フロントシート下部にあります。

バッテリーの交換や充電はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、エンジンルーム内の端子にブースターケーブルを接続してください（▷332 ページ）。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルームの向かって左側にある⊕端子と⊖端子にブースターケーブルを接続します。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

ⓘ 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め(約 50℃以下)、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ⓘ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

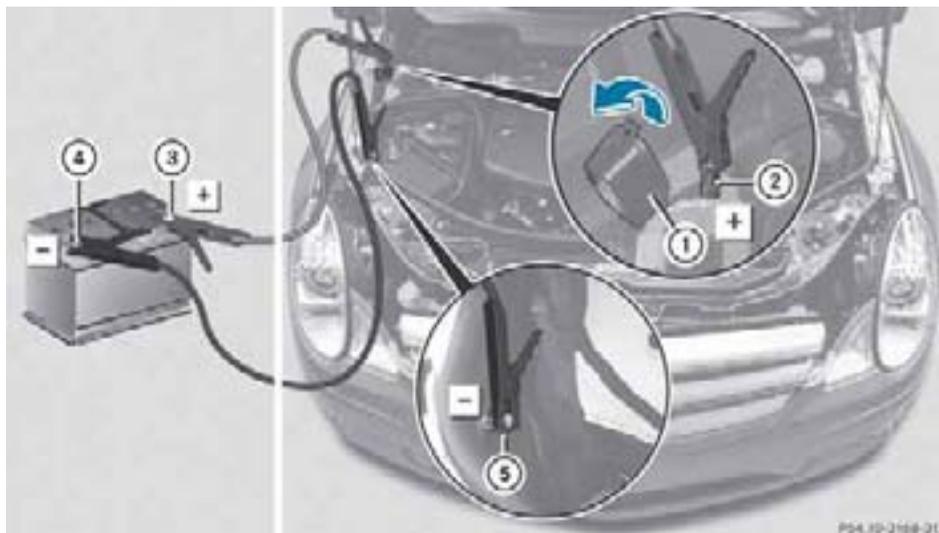
エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

始動の方法

① 自車の⊕端子カバー
② 自車の⊕端子
③ 救援車の⊕端子
④ 救援車の⊖端子
⑤ 救援車の⊖端子

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを **P** にします。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 自車の⊕端子カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ 自車の⊕端子②に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子③に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子④に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊖端子⑤に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

ℹ 仕様により、自車の⊖端子⑤にはキャップが取り付けられています。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 両車の⊖端子を接続しているケーブル、次に両車の⊕端子を接続しているケーブルを取り外します。

いずれのケーブルを取り外すときも、自車の端子から先に取り外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

⚠ 事故のおそれがあります

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、ステアリングがロックしていないことを確認してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。

! トランスミッションを損傷しているときは、車両運搬車で搬送してください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

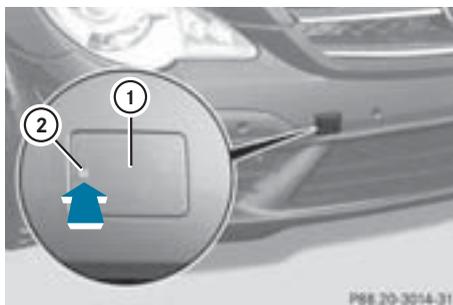
! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷69ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

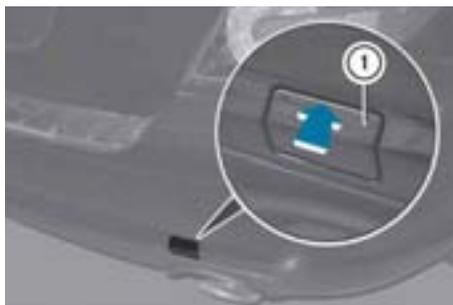
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

けん引フックの取り付け

けん引フックの取り付け位置(フロント)

① カバー
② マーク

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク②を押しながら、カバー①を手前に引いて外します。

けん引フックの取り付け位置（リア）

① カバー

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー①の上側にヘラなどを差し込んで、カバー①を取り外します。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷272 ページ）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み､停止するまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンが始動できるとき

▶ エンジンを始動し、シフトポジションを **N** にします。

エンジンが始動できないとき

▶ キーレスゴー装備車は、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **2** にしてシフトポジションを **N** にします。さらにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチにキーを差し込んだままにします。

バッテリーがあがっているとき

バッテリーがあがっているときは、シフトポジションが **P** にロックされることがあります。シフトポジションを **N** にするには、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーから電力を供給してください（▷331 ページ）。

それでもシフトポジションを **N** にできないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

けん引するときの注意

トランスファーやアクスルが故障しているときは、以下の点に注意してけん引してください。

この作業はできるだけ専門業者に依頼してください。

! プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

トランスファーが故障しているとき

▶ 前後のアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

フロントアクスルが損傷しているとき

▶ リアアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

リアアクスルが損傷しているとき

▶ フロントアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ リアアクスルを上げてけん引します。

ぬかるみなどからけん引するとき

ぬかるみなどで動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにし、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。

ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。

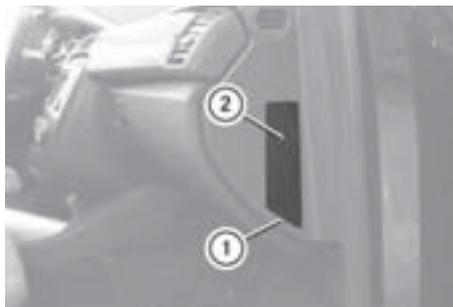
ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズ一覧は（▷338 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。また、針金などで代用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! カバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水や湿気、ほこりなどが入らないようにしてください。

ダッシュボード右側のヒューズボックス

① 切り欠き部
② カバー

▶ 切り欠き部①にマイナスドライバーなどを差し込んで、カバー②を開きます。

ℹ ドライバーなどの先端を布切れなどで覆うと、カバーなどの損傷を防ぐことができます。

▶ カバーを取り付けるときは、最初にカバーの上部を差し込みます。

ラゲッジルームのヒューズボックス

① 内張り

ラゲッジルームのヒューズボックスは、ラゲッジフロアボード下の右側にあります。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷271 ページ）。

▶ 右側の内張り①を矢印の方向にめくります。

▶ 内部にある内張りをめくります。

エンジンルーム内のヒューズボックス

① ノブ
② カバー

▶ ノブ①を矢印の方向に引き上げます。

▶ カバー②を取り外します。

! カバーを取り付けるときは、ヒューズボックスのシールが正しく密着するようにしてください。また、ノブ①を確実に押し込んで、カバーを装着してください。

ヒューズを交換する

▶ キーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ ヒューズ一覧（▷338 ページ）を参考に作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ℹ ヒューズ配置表（英文）は、ラゲッジフロアボード下の車載工具などが入ったトレイにあります。

❗ 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装備が作動しないとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ヒューズ一覧

ダッシュボード右側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
10	10A	リアエアコンディショナーブロアモーター
11	5A	インストルメントパネル
12	15A	エアコンディショナーモジュール
13	5A	ステアリング調整スイッチパネル
14	7.5A	イグニッションロック
15	5A	コンパスモジュール メディアインターフェース
16	—	未使用
17	—	未使用
18	—	未使用

ラゲッジルームのヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	5A	アンテナ
21	5A	リアエアコンディショナーコントロールパネル
22	5A	パークトロニック 余熱ヒーター / ベンチレーション
23	10A	携帯電話ユニット
24	40A	シートベルトテンショナー
25	15A	COMAND システム
26	25A	助手席側ドアコントロールユニット
27	30A	助手席シート調整
28	30A	運転席シート調整
29	40A	シートベルトテンショナー
30	40A	燃料ポンプコントロールユニット
31	10A	オプション
32	15A	AIR マティックサスペンション
33	25A	キーレスゴー
34	25A	運転席側ドアコントロールユニット
35	30A	オーディオアンプ
36	10A	VICS システム
37	5A	パーキングアシストリアビューカメラ
38	10A	COMAND システム
39	7.5A	タイヤ空気圧警告システム
40	30A	EASY-PACK 自動開閉テールゲート
41	25A	ルーフユニット
42	25A	パノラミックスライディングルーフ
43	20A	燃料ポンプコントロールユニット
44	—	未使用
45	20A	12V 電源ソケット（センターコンソール後方、ラゲッジルーム）
46	15A	ライター
47	10A	オプション
48	5A	オプション
49	30A	リアデフォッガー
50	15A	リアワイパー

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
51	5A	エンジンコントロールユニット
52	5A	オプション
53	5A	AIR マティックサスペンション 燃料ポンプコントロールユニット
54	5A	ヘッドランプ照射角度調整
55	7.5A	インストルメントパネルランプスイッチ
56	5A	オプション
57	20A	燃料ポンプ
58	7.5A	自己診断ソケット
59	7.5A	NECK PRO アクティブヘッドレスト
60	5A	グローブボックス照明 フロントワイパー VICS システム
61	7.5A	エアバッグシステム
62	—	未使用
63	—	未使用
64	—	未使用
65	—	未使用
66	—	未使用
67	25A	送風口（後席）
68	—	未使用
69	—	未使用
70	—	未使用
71	—	未使用
72	—	未使用

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
100	30A	フロントワイパー
101	15A	エンジン制御
102	—	未使用
103	20A	エンジン制御
104	15A	エンジン制御
105	15A	エンジン制御 エンジンスターター
106	—	未使用
107	40A	二次エアポンプ
108	40A	AIR マティックサスペンション
109	25A	ESP
110	10A	ホーン （盗難防止警報システム）
111	30A	オートマチックトランスミッション
112	7.5A	ヘッドランプ照射角度調整
113	15A	ホーン
114	5A	エンジンコントロールユニット
115	5A	ESP
116	7.5A	オートマチックトランスミッション
117	7.5A	オプション
118	5A	エンジンコントロールユニット
119	—	未使用
120	10A	エンジンコントロールユニット
121	20A	余熱ヒーター / ベンチレーション
122	25A	エンジンスターター
123	—	未使用
124	—	未使用
125	—	未使用

（2009-03-03・A164 006 64 99）

ⓘ 仕様・装備などの違いにより、ヒューズが異なることがあります。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー …342
ビークルプレート……………………343
オイル・液類 / バッテリー ……344
積載荷物の制限重量…………………345
テールゲートを
開いたときの高さ…………………345
タイヤとホイール……………………349

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環　境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ビークルプレート

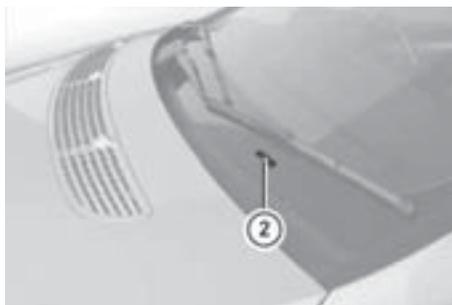
純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

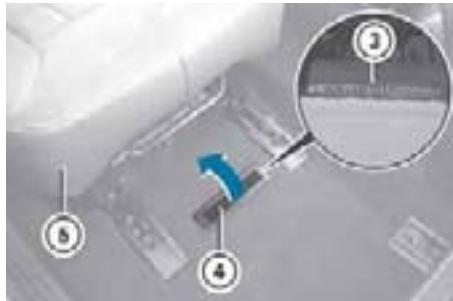
ニューカープレート

① ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート①が貼付されています。

車台番号

② フロントウインドウ左下部の車台番号

車台番号②は、ダッシュパネルの図の位置に表示されています。また、右側セカンドシート下部のボディフレームにも車台番号が打刻されています。

右側セカンドシート下部の車台番号を確認する

③ 右側セカンドシート下部の車台番号
④ カバー
⑤ 右側セカンドシート

▶ 右側セカンドシート⑤をもっとも後ろの位置まで下げます。

カバー④を矢印の方向にめくり上げます。

車台番号③が確認できます。

オプションコードプレート

⑥ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを示すプレート⑥が貼付されています。

エンジン番号

R 350
⑦ エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号⑦が打刻されています。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

けがのおそれがあります

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 80 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検･整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

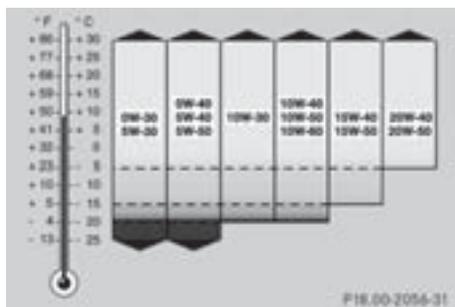
エンジンオイル容量

車種	容量
R 350 4MATIC	約 8.0 ℓ
R 550 4MATIC	約 9.0 ℓ

容量は、オイルフィルター分を含む、交換時の数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ 火災のおそれがあります

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

事故のおそれがあります

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

 ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

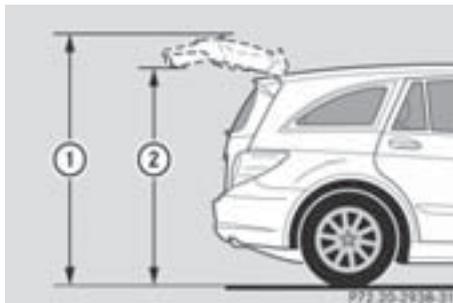
車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	95Ah

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ
全車	100kg

ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲートを開いたときの高さ

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	2044 ～ 2047mm
②	1899 ～ 1902mm

※ 車種や仕様により、数値が異なります。

※ 上記の数値は取扱説明書作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷249 ページ）。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質
R 350 4MATIC	255 / 55R18	8.0J × 18	67mm	軽合金
R 550 4MATIC	255 / 50R19	8.0J × 19	67mm	軽合金

オプション装着用タイヤ / ホイール

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
19 インチホイール	255 / 50R19	8.0J × 19	67mm
		8.5J × 19	64mm
20 インチホイール	265 / 45R20	8.5J × 20	60mm
21 インチホイール	前輪 265 / 40R21 後輪 265 / 40R21	前輪 9.0J × 21 後輪 9.0J × 21	前輪 60mm 後輪 48mm

※ 車種や仕様により、選択できるオプション装着用タイヤ / ホイールは異なります。

! 20 インチおよび 21 インチのオプション装着用タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

サービスデータ

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質	タイヤ空気圧
全車	195 / 75-18	6.5B × 18	40mm	スチール	3.0bar /44psi
	185 / 65-19	5.5B × 19	13mm	スチール	3.5bar /51psi

車種や仕様により、上記のどちらかが装備されます。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

i 燃料給油フラップの裏側にタイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
R 350 4MATIC	255 / 55R18 M+S	8.0J × 18	67mm
R 550 4MATIC	255 / 50R19 M+S	8.0J × 19	67mm
		8.5J × 19	64mm

! ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着できます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

対象モデル

R 350 4MATIC
R 550 4MATIC

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2009 年 10 月現在のものです。